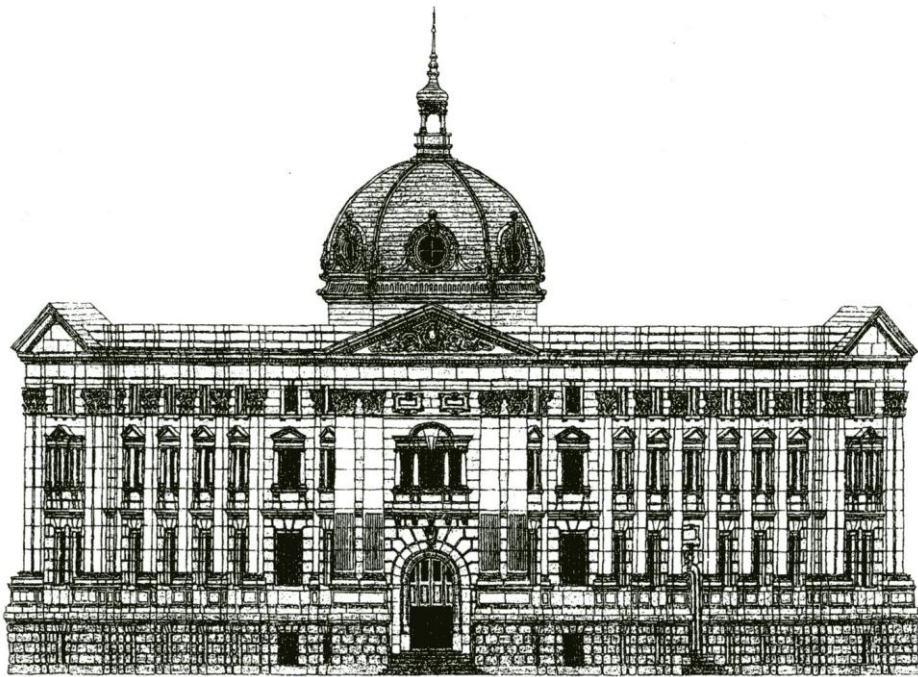


神奈川県立歴史博物館年報

平成23年度



神奈川県立歴史博物館

2012 年

はじめに

平成 23 年度は、展示活動や教育普及活動に工夫を凝らすなど館全体で博物館活動の活性化に向けて取り組んだ結果、一つの指標として年間総入館者数を例に取るならば、前年度の 107,840 人に対し約 30%増の 141,176 人の方々に来館いただき、調査研究活動の成果を県民のみなさまに還元する上で一定の成果を上げ得ることができたのではないかと考えています。

展示活動は、3 回の特別展を開催しました。春には曹洞宗大本山の一つである總持寺が能登から県内横浜鶴見の地に移転して 100 年目に当たるのを記念して「曹洞宗大本山總持寺 名宝 100 選」を開催し、秘仏を始めとする文化財の数々を紹介しました。夏には幕末期に新聞社の特派員として来日し、日本人に初めて西洋絵画技術を本格的に教授したことで知られる英国人画家チャールズ・ワーグマンの来日 150 周年を記念して「ワーグマンが見た海 ー洋の東西を結んだ画家ー」を開催し、新発見、初公開作品を含めワーグマンとその弟子たちの作品群を紹介しました。秋には「竹と民具 ー竹とともに暮らすー」を開催し、竹の持つ様々な特性を活かした民具を紹介しました。

このほかに、所蔵資料の中からテーマを選び行なうコレクション展として「修理完成記念特別公開 涅槃図」と「甦る名刀 ー館蔵赤羽刀からー」を開催しました。また、常設展の中に特設コーナーを設け、特別陳列「鎌倉彫と眞葛焼」を開催しました。さらに、県内の発掘調査の成果などを展示する「平成 23 年度かながわの遺跡展『弥生時代のかながわ ー移住者たちのムラと社会の変化ー』」を、県埋蔵文化財センターと共催のもと開催しました。

また、学芸員の研究活動の成果を『研究報告』などにより公開するとともに、講座の開催や学校連携を中心とした学習支援活動、さらに、子ども博物館教室、夏の恒例行事である「ミュージアム・クイズラリーよこはま」、ミュージアムコンサートなど、多彩な教育普及活動に取り組みました。重要文化財である当館建物の要所を学芸員が解説する建物見学会も好評を博しました。

なお、様々な場面で、展示解説などについてご協力いただいているボランティアの方々に例年のとおりご活躍いただきました。

今後もより一層、「開かれた博物館」「親しまれる博物館」を目指し、ご利用になられる方々の期待に応えられるよう心がけてまいります。

神奈川県立歴史博物館

目次

はじめに

目次

1 沿革・理念

- (1) 沿革…………… 3
- (2) 神奈川県立歴史博物館の理念…………… 4

2 管理運営

- (1) 組織…………… 5
 - ア 組織及び分掌
 - イ 職員名簿
- (2) 歳入・歳出…………… 6
 - ア 歳入
 - イ 歳出
- (3) 入館者状況…………… 6
 - ア 入館者数
 - イ 有料入館者内訳
 - ウ 無料入館者内訳
 - エ 特別展の入館者状況
- (4) 広報・広聴…………… 8
 - ア 広報実績
- (5) 施設概要…………… 8
 - ア 概要
 - イ 館内施設
 - ウ 外部協力
 - エ 平面図

3 調査・研究

- (1) 館独自の研究事業費によるもの…………… 12
 - ア 総合研究
 - イ 個別研究
 - ウ グループ研究
 - エ 調査研究成果報告会
- (2) 日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの…………… 13
- (3) 個人研究活動…………… 14
 - ア 研究報告書
 - イ 個人研究活動

4 資料収集・修理・保管・利用

- (1) 考古資料…………… 22
- (2) 歴史資料…………… 23
- (3) 美術資料…………… 27
- (4) 民俗資料…………… 30
- (5) 写真資料…………… 31
- (6) 資料の燻蒸等…………… 32
- (7) その他の資料…………… 32
 - ア 図書
 - イ 映像
 - ウ 写真
 - エ 情報システム

5 展示・教育普及・学習支援

- (1) 常設展…………… 36
 - (2) 特別展…………… 36
 - (3) コレクション展…………… 49
 - (4) その他の展示…………… 51
 - (5) 学習支援事業…………… 56
 - ア 講座
 - イ 特別展記念講演会等行事
 - ウ 学芸員による展示解説
 - エ ミュージアムトーク
 - オ その他の行事
 - カ 子ども・青少年向け教育普及事業
 - キ 学校連携事業の状況
 - (6) ミュージアムライブラリー…………… 65
 - (7) 普及印刷物…………… 66
 - ア 図録
 - イ 広報印刷物
 - ウ 神奈川県立歴史博物館だより
 - (8) ボランティアの活動…………… 66
 - ア 活動状況及び実績
 - イ 博物館入門講座
 - ウ 専門研修
 - エ その他の研修
 - (9) 博物館実習生の受け入れ…………… 68
 - ア 見学実習
 - イ 実務実習
 - (10) 海外技術研修員の受け入れ…………… 70
- #### 6 資料
- (1) 条例・規則…………… 71
 - ア 神奈川県立の博物館条例
 - イ 神奈川県立の博物館組織規則
 - ウ 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則
 - (2) 利用案内…………… 75

1 沿革・理念

(1) 沿革

昭和 38 年 6 月	教育庁に博物館準備事務室を設置
昭和 41 年 11 月	神奈川県立博物館条例の制定により、神奈川県立博物館を設置 神奈川県立博物館組織規則の制定により、庶務部、学芸部の 2 部を置く
昭和 42 年 3 月	神奈川県立博物館開館
4 月	附属機関の設置に関する条例の一部改正により神奈川県博物館協議会を設置(委員 20 名)
6 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部に庶務課、経理課の 2 課を置く
昭和 43 年 4 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部に学芸課、人文課、自然課の 3 課を置く
昭和 44 年 3 月	旧館である旧横浜正金銀行本店が国の重要文化財に指定される
昭和 44 年 7 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部を管理部に、庶務課を管理課に名称変更
昭和 47 年 8 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課の名称を廃し、企画調整課、学芸第一課、学芸第二課及び学芸第三課の 4 課を置く
昭和 49 年 8 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部に施設保全課を置く
昭和 52 年 5 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課を廃止
昭和 53 年 9 月	文部省学術研究機関の指定を受ける
昭和 55 年 2 月	入館者数 100 万人達成
昭和 62 年 4 月	第 2 次新神奈川計画の重点政策「文化施設 21 世紀構想」の一環として、博物館再編整備事業策定
昭和 63 年 12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会が「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」を提出
平成 2 年 3 月	人文系博物館の整備計画・展示計画策定
平成 3 年 3 月	博物館総合情報システム整備計画、資料収集計画を策定
平成 4 年 3 月	展示基本設計
平成 5 年 3 月	改修工事基本・実施設計、展示工事実施設計
4 月	県立博物館休館(～7 年 3 月)
10 月	改修工事及び展示工事開始
平成 6 年 11 月	改修工事終了
平成 7 年 1 月	神奈川県立博物館条例改正に伴い「神奈川県立博物館」は「神奈川県立歴史博物館」と名称変更、神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、企画情報部に企画普及課及び情報資料課の 1 部 2 課を置き、管理部の施設保全課を廃止
3 月	展示工事終了、博物館情報システムの一部稼働開始 神奈川県立歴史博物館開館(18 日)
6 月	国の史跡に指定される
平成 9 年 7 月	博物館ボランティアが活動を開始
平成 11 年 2 月	金銅装笈・椿彫木朱漆笈・清拙正澄墨跡・石室善玖墨跡・源頼朝袖判下文・源頼家袖判下文が県の重要文化財に指定される 神奈川の職人の道具(17 職種 1,982 点)が県の有形民俗文化財に指定される
平成 11 年 4 月	重要文化財の公開承認施設として文化庁から承認される
平成 13 年 1 月	三浦市間口洞窟遺跡出土品(450 点)が県の重要文化財に指定される
平成 13 年 3 月	附属機関の設置に関する条例の一部改正により、神奈川県博物館協議会を廃止
平成 18 年 4 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部管理課と経理課を統合し管理課に改め、企画情報部企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる
平成 19 年 11 月	旧館である旧横浜正金銀行本店が、経済産業省により近代化産業遺産(横浜港周辺の関連建築物群)に認定される
平成 21 年 8 月	入館者数 200 万人達成

(2) 神奈川県立歴史博物館の理念

神奈川県立歴史博物館の前身は昭和42年開館の神奈川県立博物館である。昭和62年から自然系と人文系が分離分館する再編整備の検討が行なわれ、平成7年のリニューアル開館に至るまで、3回にわたって博物館活動の理念やテーマが検討・提案された。

ア 昭和63年12月、神奈川県立博物館整備構想懇談会から提出された「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」（以下「提言」という）

イ 平成2年3月に策定された「神奈川県立人文系博物館(仮称)整備計画(案)」（以下「整備計画」という）

ウ 平成7年3月の再編整備時に作られた「神奈川県立歴史博物館概要説明」（以下「概要」という）

ア 「提言」における活動理念・テーマ

(ア) 人文系博物館の「意義」（「提言」を要約、抜粋）

- a 文化の視点からの未来の探求
- b 考古、歴史、美術、民俗等を統合化した新しい文化史の創造
- c 歴史的、文化的特色による神奈川のアイデンティティの探求
- d 振幅の大きな神奈川の歴史にみる人々の生き方の探求
- e 神奈川の文化と内外の文化との交流や相互関係の探求
- f 文化史的意義のある資料の集積と後世への継承

(イ) 「基本テーマ」等の設定

a 基本テーマ：「文化の交流と変容」

上記の意義を踏まえ、また、神奈川の文化と歴史を専門的かつ学際的な観点から総合的にとらえる唯一の博物館として活動していくため、基本テーマが設定された。

b サブテーマ：「神奈川の文化と歴史を考える」「日本・世界の神奈川を考える」

空間的、時間的な広がりのある視点や、先人から受け継がれた地域の固有性をとらえる視点に立って2つのサブテーマが設定された。

c 展開の視点

これらの基本テーマ、サブテーマを、展示をはじめとした様々な博物館活動に反映させるため、次のような展開の視点が設けられた。

- 〔継 承〕 各時代の文化と時代を超えて継承される文化を歴史の流れの中でとらえる
- 〔交 流〕 他の国や他の地域との文化交流を空間的、時間的広がりの中でとらえる
- 〔変 容〕 文化の変容をダイナミックにとらえる
- 〔風 土〕 文化の特色を地域風土を通してとらえる

イ 「整備計画」における活動理念・テーマ

上記「提言」を受け、平成2年に「整備計画」が策定され、再編整備の具体的な内容がまとめられたが、「提言」における博物館の意義、性格、基本テーマなどは、歴史博物館のあるべき姿を示す目標・指針として継承されることとなった。

ウ 「概要」における活動理念・テーマ

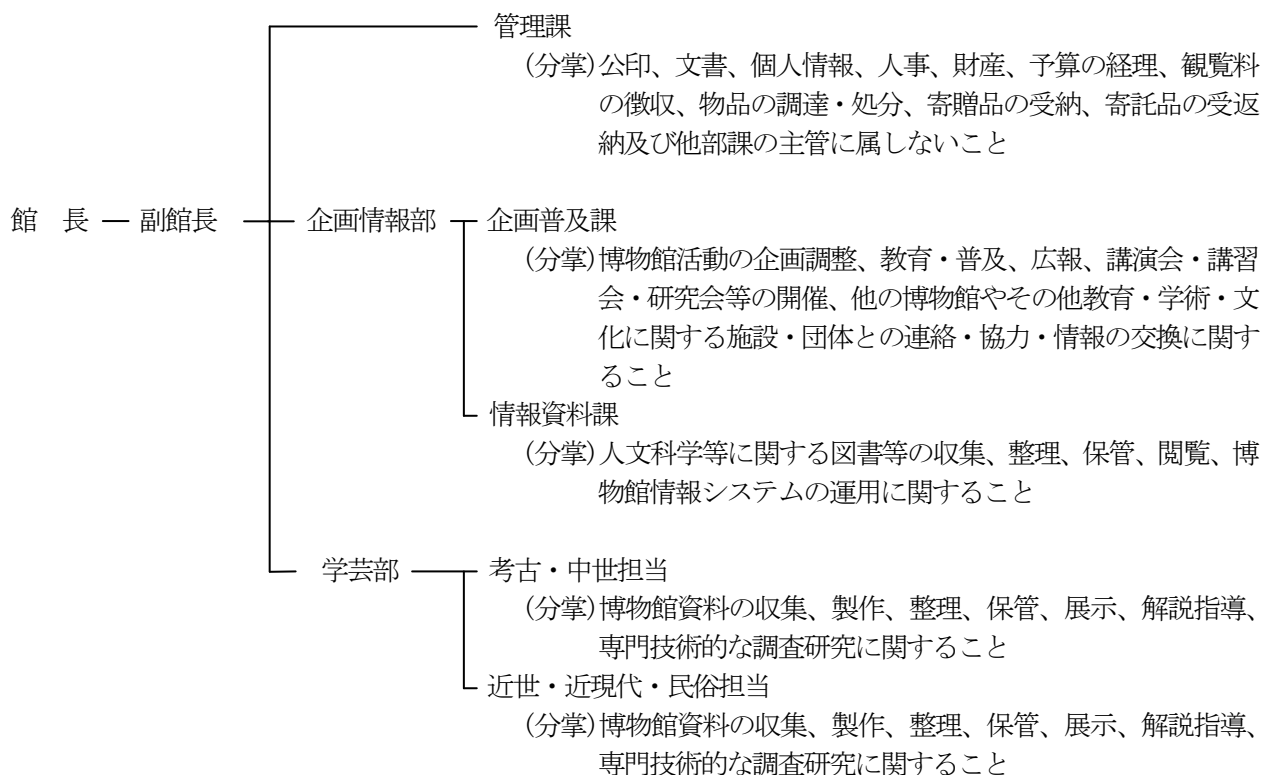
平成7年のリニューアル開館に際して作成された「概要」では、当館を「かながわの文化と歴史」を総合的に扱う博物館と位置づけ博物館活動の基本テーマとし、展示テーマを「文化の交流と変容」とすることが示された。

2 管理運営

(1) 組織

(平成 23 年 6 月 1 日現在)

ア 組織及び分掌



イ 職員名簿

館長(技術) (～5 月)	西川 杏太郎	非常勤事務補助員	野島 愛子
(6 月～)	薄井 和男	〃	鈴木 由佳
副館長	佐藤 宏	情報資料課長(6 月～)	田中 徹
管理課長(～5 月)	熊谷 淳	情報資料課 副主幹	津軽谷 静子
(6 月～)	橋本 千晴	主査(事務)	秋山 孝之
管理課 副主幹	布施 こづえ	主任専門員(技術)	井上 久美子
主査(事務)	樋渡 功	専門員(司書)	臼井 和子
〃	海老原 成介	専門員(事務) (6 月～)	岩田 正明
〃	加後 智佳子	非常勤事務補助員	石井 雅代子
専門員(事務)	石井 敏夫	非常勤資料整理員	鈴木 敏子
〃	宮川 明代	〃	斉藤 由樹
技幹(兼務)	諏訪 修平	〃	三澤 優一
非常勤自動車運転員	大塚 清志	〃	浅井 真里子
非常勤事務補助員	品矢 はる美	学芸部長(技術) (～5 月)	薄井 和男
企画情報部長	石井 真吾	(6 月～)	寺寄 弘康
企画普及課長(技術)	鳥居 和郎	(考古・中世担当)	
企画普及課 副主幹	谷口 美穂	副主幹	近野 正幸
〃 (6 月～)	藤牧 健	主任学芸員	古川 元也
主任学芸員	中野 雅之	学芸員	梅沢 恵
専門員(事務)	木村 卓司	〃	小井川 理
〃	長嶋 敏雄	(近世・近現代・民俗担当)	
非常勤学芸員	高橋 秀和	専門学芸員(～5 月)	寺寄 弘康
〃	佐藤 裕子	専門学芸員	古宮 雅明
非常勤教育普及員	草間 敏保	主任学芸員	嶋村 元宏

主任学芸員	桑山 童奈	専門員(技術)	長田 平
〃	丹治 雄一	〃	鈴木 通大
学芸員	角田 拓朗	非常勤資料整理員	吉澤 智恵子
専門員(事務)	鈴木 峰夫	〃	中村 茉貴

(2) 歳入・歳出

ア 歳入

(単位：千円)

科 目	金 額	内 訳
行政財産使用料	565	ショップ等建物使用料
歴史博物館使用料	13,080	観覧料収入(常設展 6,205、特別展 6,875)
立替収入	345	ショップ他電気・水道
雑入	5,496	図録販売、ライブラリー複写料金
教育受講料収入	72	県立機関活用講座受講料
合 計	19,558	

イ 歳出(人件費含まず)

(単位：千円)

事 業 名	金 額	内 訳
維持運営費	70,346	維持管理・事業運営
展示事業費	18,308	常設展示維持管理、特別展の開催、総合案内業務
調査研究事業費	473	総合研究・基礎研究、調査研究報告書の作成
資料整備費	12,354	博物館資料収集、資料修繕
学習支援事業費	1,147	講座・講演会の開催、ボランティア活動推進、 図書等資料整備、広報用資料作成
情報システム整備費	45,286	システム運用、データ入力等
県立機関活用講座開催事業費	167	講座の開催
緊急雇用創出事業臨時特例基金 委託等事業費	3,730	
地球温暖化対策県有施設整備事業 費	1,596	
合 計	153,407	

(3) 入館者状況

ア 入館者数

(単位：人)

月	展示室入館者			フリーゾーン 利用者	合 計
	有料入館者	無料入館者	小 計		
4	3,425	2,424	5,849	3,901	9,750
5	6,672	6,506	13,178	9,078	22,256
6	2,750	2,483	5,233	5,171	10,404
7	9,633	3,082	12,715	5,197	17,912
8	2,388	1,139	3,527	7,204	10,731
9	2,647	1,939	4,586	4,636	9,222
10	2,559	3,222	5,781	5,571	11,352

11	2,541	2,278	4,819	6,313	11,132
12	4,795	1,143	5,938	4,137	10,075
1	1,992	860	2,852	4,363	7,215
2	2,611	1,737	4,348	7,256	11,604
3	2,370	700	3,070	6,453	9,523
合 計	44,383	27,513	71,896	69,280	141,176

イ 有料入館者内訳

(単位：人)

月	個人				団体(団体扱い含む)				合計
	20歳以上	20歳未満	高校生	65歳以上	20歳以上	20歳未満	高校生	65歳以上	
4	1,176	60	14	1,839	301	13	0	22	3,425
5	2,545	156	26	3,143	739	40	0	23	6,672
6	943	91	8	1,179	454	58	0	17	2,750
7	3,237	222	67	4,624	1,335	75	0	73	9,633
8	1,316	115	135	449	345	28	0	0	2,388
9	1,036	160	13	842	443	82	0	71	2,647
10	1,041	88	5	1,059	344	21	0	1	2,559
11	1,148	98	77	979	199	8	0	32	2,541
12	3,126	158	40	1,327	102	2	0	40	4,795
1	1,064	70	18	664	79	2	0	95	1,992
2	1,597	98	27	711	65	19	0	94	2,611
3	1,392	87	39	669	41	0	0	142	2,370
合計	19,621	1,403	469	17,485	4,447	348	0	610	44,383

ウ 無料入館者内訳

(単位：人)

月	条例別表備考欄指定 の無料入館者 (A)				減免による無料入館者 (B)							合 計
	未就学 幼児	小学生	中学生	特別支 援学校	高校生	生徒引 率者	65歳 以上	優待券	招待券	障が い者	その他	
4	19	407	179	1	711	37	1	26	724	132	187	2,424
5	31	558	1,252	3	978	31	4	16	3,247	196	190	6,506
6	20	370	1,204	0	66	51	0	27	553	113	79	2,483
7	37	524	323	0	123	30	1	30	1,610	249	155	3,082
8	76	352	358	0	16	24	23	9	0	82	199	1,139
9	24	165	856	1	255	37	3	20	429	77	72	1,939
10	33	1,602	127	4	471	96	8	13	688	89	91	3,222
11	13	406	594	0	451	57	0	9	549	97	102	2,278
12	29	442	270	0	30	26	3	13	104	136	90	1,143
1	48	212	130	12	1	36	0	16	104	93	208	860
2	34	264	866	9	148	40	0	17	93	83	183	1,737
3	21	247	237	0	7	24	0	5	28	81	50	700
合計	385	5,549	6,396	30	3,257	489	43	201	8,129	1,428	1,606	27,513

エ 特別展の入館者状況(前掲表内数)

(単位：人)

特 別 展 名	有料入館者	無料入館者	合 計
曹洞宗大本山總持寺名宝 100 選	6,041	7,098	13,139
ワグマンが見た海 ―洋の東西を結んだ画家―	7,857	4,595	12,452
竹と民具 ―竹とともに暮らす―	2,859	6,065	8,924
合 計	16,757	17,758	34,515

(4) 広報・広聴

ア 広報実績

平成 23 年度の当館に係る広報実績は下記の通り(館のPR、特別展・テーマ展、催しもの等)。

媒体別	紙媒体				電波媒体		インター ネット	計
	新聞	雑誌	単行書	その他	テレビ	ラジオ		
件数	274	108	1	37	22	3	133	578

(5) 施設概要

ア 概要

(ア) 施設の規模

敷地面積	4,160.82 m ²
構造	石・煉瓦造り(一部鉄筋コンクリート造り)地上3階・地下1階
延床面積	10,565.47 m ²
部門別面積	展示部門＝約 3,896 m ² 、学習支援部門＝約 386 m ² 、収蔵部門＝約 619 m ² 研究部門＝約 1,306 m ² 、サービス部門＝約 438 m ² 、管理部門＝約 1,251 m ² その他共用部分＝約 2,670 m ²

(イ) 建物の特徴

旧館部分	旧横浜正金銀行本店本館(明治 37 年(1904)竣工、設計：妻木頼黄) ネオ・バロック様式
新館部分	神奈川県立博物館として新築(昭和 42 年(1967))
指定状況	国指定重要文化財(建物旧館部分・昭和 44 年(1969)3 月 12 日指定) 国指定史跡(平成 7 年(1995)6 月 27 日指定)

(ウ) 施設の状況

- 1 階：【展示室、学習支援関係諸室】
特別展示室、コレクション展示室、
ミュージアムライブラリー、ミュージアムショップ、喫茶室、情報処理室 等
- 2 階：【展示室、管理課・企画情報部関係諸室】
総合テーマ展示室(近世・近代・現代、民俗)
館長室、管理課、企画情報部、応接室、図書整理室、書庫 等
- 3 階：【展示室、学芸部関係諸室】
総合テーマ展示室(古代・中世)
学芸部、資料整理室、展示準備工作室、作業室、収蔵庫 等
- 地下1階：【講堂、バックヤード諸設備】
講堂、収蔵庫、燻蒸室、防災センター、写場、暗室、フィルム保管室
その他機械室、倉庫 等

イ 館内施設

1 階のフリーゾーンには来館者のために次の施設がある。

(ア) ミュージアムショップ

博物館の刊行物(展示解説書、特別展図録、研究報告)をはじめ、神奈川の文化や歴史に関する書籍、所蔵資料の絵はがき、博物館見学の記念になるような品々を販売する。運営は民間の企業が行っている。

(イ) ともしび喫茶室

来館者に休憩してもらえるように喫茶室がある。軽食、喫茶ができ、店内には県内の福祉施設で作られた品々も販売されている。運営は「神奈川県手をつなぐ育成会」が行い、知的障がい者の就業の場ともなっている。

ウ 外部協力

神奈川県立歴史博物館には、県内の博物館の質的向上や文化財に対する普及啓発を行う次の外部団体の事務局が設置されている。

(ア) 神奈川県文化財協会

昭和 29 年(1954)から活動している任意団体である。現在は会員に対しての講演会、見学会など、文化財に関する知識の啓発活動を中心に活動している。協会員数 224 人(平成 24 年 3 月 31 日現在)。

事務局長	副館長	佐藤 宏
事務局次長	学芸部長(～5 月) (6 月～)	薄井 和男 寺寄 弘康
事務局員	主任学芸員	嶋村 元宏
〃	学芸部 副主幹	近野 正幸
〃	情報資料課長(6 月～)	田中 徹
〃	副主幹	樋渡 功
〃	主査	加後 智佳子
〃	専門員(事務)	木村 卓司

(イ) 神奈川県博物館協会

昭和 30 年(1955)から活動している県内博物館施設の任意団体で、博物館の PR、職員の研修、会報の発行など各種活動を行っている。加盟館園数 99 館(平成 24 年 3 月 31 日現在)。

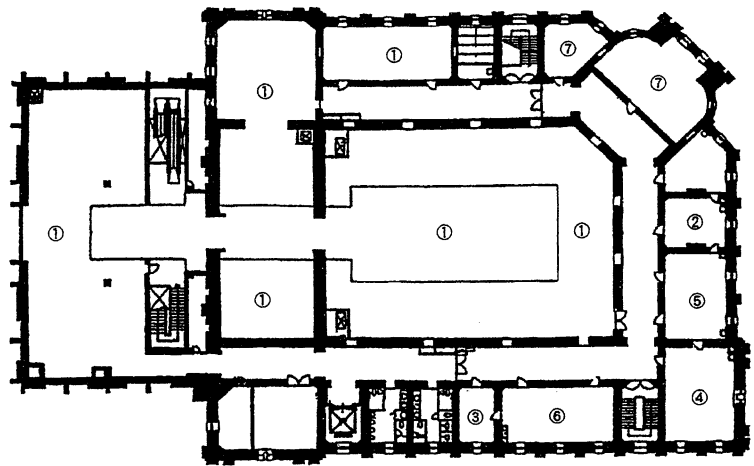
会長	館長(～5 月) (6 月～)	西川 杏太郎 薄井 和男
事務局長	副館長	佐藤 宏
事務局次長	学芸部長(～5 月) (6 月～)	薄井 和男 寺寄 弘康
人文科学部会幹事	学芸員	梅沢 恵
事務局員	副主幹	布施 こづえ
〃	専門員(事務)	鈴木 峰夫

地下平面図

-

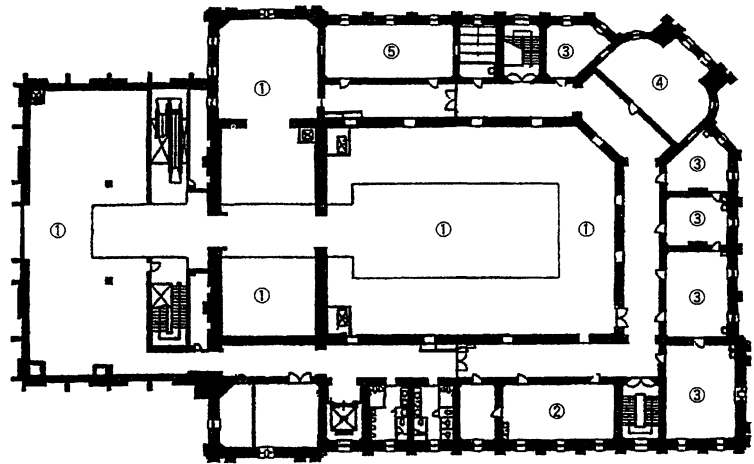
2階平面図

- ①展示室
- ②館長室
- ③第二応接室
- ④管理課
- ⑤応接室
- ⑥企画情報部
- ⑦図書室



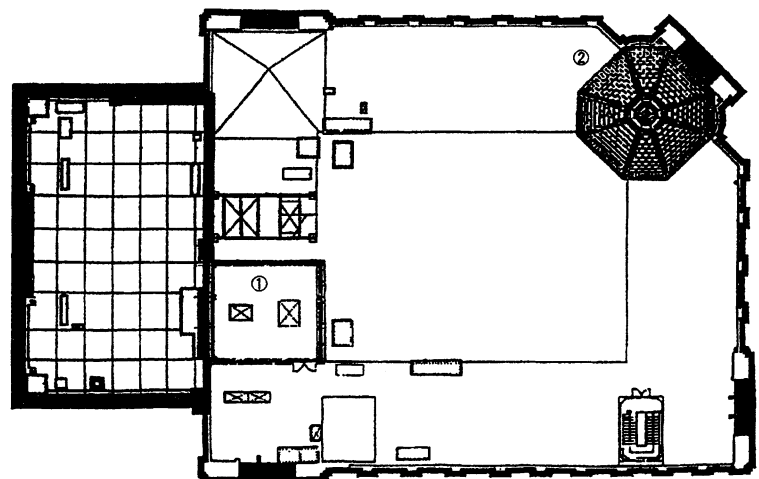
3階平面図

- ①展示室
- ②学芸部
- ③資料整理室
- ④展示機材倉庫
- ⑤収蔵庫



屋上平面図

- ①空調機械室
- ②ドーム



3 調査・研究

(1) 館独自の研究事業費によるもの

ア 総合研究

テーマ：近代日本の銀行建築に関する建築史的研究

担当：研究代表者 主任学芸員 丹治 雄一

共同研究者：中村 茂樹 氏(日本銀行文書局)、伊藤 稔 氏(日本銀行文書局)

関口 かをり 氏(日本銀行金融研究所貨幣博物館)、岡 義男 氏(Y.岡建築研究所)

期間：平成23～25年度

概要：本研究の目的は、明治・大正・昭和戦前期に日本全国に建てられた銀行建築を調査対象として、銀行建築を特徴づける詳細なデータ項目を盛り込んだ「近代銀行建築リスト」(仮称)を作成すること(リスト作成作業)と、それらをベースに研究会参加メンバーが設定した個別の研究課題に取り組むこと(研究作業)により近代日本の銀行建築の建築史的特徴を明らかにすることである。

3年の研究期間の初年度にあたる今年度は、外部から参画いただいた研究分担者にそれぞれ担当地域を振り分け、担当地域の銀行建築に関する網羅的なデータ収集作業を行った。また、今年度中に6回開催した研究会では、上記作業の進捗状況を確認するとともに、神奈川県立川崎図書館が所蔵する社史資料の共同調査や本研究に参画しない近代建築史研究者から研究方針に関する助言をいただく機会なども設定した。

イ 個別研究

テーマ：眞葛窯の活動と基準作例

担当：学芸員 小井川 理

期間：平成23年度

概要：眞葛焼は、明治3年、横浜に移り住んだ京都の陶工宮川香山(初代)によって開かれた窯である。初代香山は明治10年代の高浮彫作品、それに続く明治20年代以降の繊細な釉下彩作品で世界的な評価を得、明治29年には帝室技芸員となった、近代陶芸の名工である。初代に続いて二代が大正期に窯を継承し、昭和に入って三代へと引き継がれるが、昭和20年に横浜大空襲で窯場が壊滅。戦後、四代が復興に尽力したが叶わず、眞葛窯は幕を閉じた。近年、初代香山の高浮彫作品への注目が高まり、再評価が進んでいるが、窯の活動の詳細については未だ明らかになっていないことも多い。本研究では、横浜市歴史博物館に所蔵される眞葛窯関係文献資料の把握と、平成21年3月に寄贈を受けた眞葛焼ほか陶磁類およびその付属資料により、眞葛窯の活動の実際を把握することにつとめた。

ウ グループ研究

次のテーマでグループごとに研究を進めている。

考古：神奈川県内遺跡・遺物調査

中世：宋風文化の研究

近代：横浜の木版印刷に関する基礎的研究

現代：戦後横浜における映画館活動に関する基礎的研究

民俗：社会における贈答慣行

教育普及：小・中学校の見学実習を支援するワークシートの開発と検証

エ 調査研究成果報告会

開催日時：平成24年3月7日(水) 13:30～15:30

内容：総合研究及び個別研究の成果・途中経過と、報告書の内容について報告した。

(ア) 総合研究

- a 発表者：主任学芸員 丹治 雄一
テーマ：近代日本の銀行建築に関する建築史的研究
概要： 前記「ア 総合研究」を参照。

(イ) 個別研究

- a 発表者：学芸員 小井川 理
テーマ：眞葛窯の活動と新蔵資料について
概要： 前記「イ 個別研究」を参照。
- b 発表者：主任学芸員 桑山 童奈
テーマ：当館蔵「摺物東海道」について
概要： 東海道の風景に狂歌を添えた上下二巻の「摺物東海道」について、その絵柄の出典と思われる双六の存在を明らかにし、さらに狂歌が歌川広重（初代）の作例と共通すること指摘するなど、その成立について分析した。
- c 発表者：学芸員 角田 拓朗／資料整理員 中村 茉貴
テーマ：橘忠助氏旧蔵美術資料群より 明治期銅版刷版本について
概要： 橘忠助氏旧蔵美術資料群に含まれる、明治期の銅版刷りによる図書類の概要についての報告。その内容や刷りの種類、形態により、分類を試みた。結果として、江戸時代後期から明治前半にかけて、銅版刷りのおおよそのところが当該資料群には含まれていることわかり、全国でも類を見ないコレクションであることを指摘した。

(2) 日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの

神奈川県立博物館であった昭和 53 年度から、文部省学術研究機関の指定を受け、科学研究費助成金が交付されるようになった。神奈川県立歴史博物館に機構変更後も継続して指定されている。平成 23 年度の採択は 2 件である。

ア 研究種目名：基盤研究(C)

課題番号：80250231

研究課題：川島忠之助資料から見た明治期の横浜正金銀行

研究代表者：学芸部長 寺寄 弘康

研究実績概要： 平成20年度から開始した研究の最終年度に当たり横浜正金銀行リヨン出張所初代主任の川島忠之助資料（書簡、書類、写真など）の全容を明らかにするため、研究報告書を刊行した。

イ 研究種目名：若手研究(B)

課題番号：21720041

研究課題：中世鎌倉文化圏における絵画制作と外来文化受容に関する研究

研究代表者：学芸員 梅沢 恵

研究実績概要： 鎌倉幕府が開かれてから古河に鎌倉府が移転するまでの13～14世紀を中心に、鎌倉文化圏における絵画の制作および流通、宋・元時代絵画の受容の諸相を明らかにすることを目的として研究を行った。主な実績は次のとおりである。（1）作品調査の成果を映させた関連作品のデータを収集。（2）本研究に関連する諸作例について作品調査を行った。（3）文献史料を中心に東国における絵画制作、流通に関する記事を収集し（4）中世の鎌倉文化圏において制作された縁起絵巻や掛幅縁起を主たるテーマとし展覧会（2013年秋予定）の準備を進めた。（5）宝生寺（横浜市）所蔵絵画の調査、究を行った。宝生寺所蔵の絵画には鎌倉から室町時代に制作された東国様式を示す仏が多く伝存している。そのうち、涅槃図と羅漢図を中心に作品調査、研究を行った。果の一部はコレクション展示「修理完了記念涅槃図」の解説や論文（梅沢恵「宝生寺蔵の二種の羅漢図について」『神奈川県立博物館研究報告』38）等で発表した。（6）

月から毎月1回鎌倉・円覚寺所蔵の五百羅漢図についての研究会を行った。本作品は三十三幅が中国・元時代、十六幅が室町時代、一幅が江戸時代の補作からなり、鎌倉における外来文化の受容、作品の移動の問題を考える上で重要な作例である。各幅の画題についての検討を行い、画面に描かれている器物や人物の表現について詳しい注記を施す作業を進めている。(7) 光明寺(相模原市)所蔵の夢窓疎石像の調査研究を行った。画中には元時代の月江正印の賛があり、金襴の袈裟を着す点などは円覚寺黄梅院本とも近い。絵画の流通、日中文化交流を考える上で貴重な作例である本図に関する研究成果の一部は特別陳列「夢窓疎石と鎌倉の禅宗文化」(2012年9月)の展示解説、図録等で報告予定である。

(3) 個人研究活動

ア 研究報告書

(ア) 『神奈川県立博物館研究報告 ー人文科学ー』第38号 平成24年(2012)3月1日発行

a 種 別: 論文

表 題: 「円覚寺智真「夢記」と「仏日庵公物目録」

筆 者: 主任学芸員 古川 元也

要 旨: 本稿は鎌倉円覚寺に伝来する僧侶智真の記した「夢記」の成立について言及するものである。「夢記」について内容の検討を加えたのち、そこでの主張が寺域の確定にあり、寺院の経済活動を規定する寺領からの収益を保全するために、“夢想”“守護神”という装置を使って意図的に遺された史料であることを確認した。次いで、その寺域の確定にあたった修造司圭照監寺が仏日庵公物目録の伝領者と同一人物であることを指摘した。両史料は、当該期の政権主体の変化に即応するために寺内で作成されたと結論付けた。

キーワード: 鎌倉・円覚寺・夢記・仏日庵公物目録・鎌倉道・史料論

b 種 別: 論文

表 題: 「「チャールズ・ワグマン」という画家の位相 ー神奈川県立歴史博物館所蔵水彩画群と『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』の比較検証を中心としてー」

筆 者: 学芸員 角田 拓朗

要 旨: 本稿は、当館所蔵のチャールズ・ワグマンによる水彩画群と、それと同様の画面内容を示す『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』の挿画との関係を考察したものである。結果として、ワグマンによる二次制作等を明らかとし、当時の彼の制作過程や思考について言及した。特に彼のありようをプロデューサーという立場に位置づけることで、その振幅の大きい様式を考察する上での指針と改め、今後の研究の方向性あるいは枠組を試論として提示した。

キーワード: チャールズ・ワグマン・『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』・五姓田義松・来日外国人

c 種 別: 研究ノート

表 題: 「アメリカ人旅行家ウィリアムズ女史が観た明治の日本 ー当館所蔵『ウィリアムズ女史日本旅行記念蒐集資料』からー」

筆 者: 主任学芸員 嶋村 元宏

要 旨: 『ウィリアムズ女史日本旅行記念蒐集資料』を紹介し、そこからウィリアムズ女史の日本における活動を復元した。女史は横浜を起点に、日光や京都、長崎なども訪れ、世界漫遊化の典型といえる。その彼女の蒐集したモノを通じて、明治中期の日本の一端を明らかとした。

キーワード: 世界漫遊家・ジャポニスム・カナダ太平洋鉄道会社・日本観

d 種 別：資料紹介

表 題：「神奈川県立歴史博物館所蔵の土偶・人面把手」

筆 者：学芸員 千葉 毅

要 旨： 当館所蔵の土偶・人面把手14点を紹介し、それらが神奈川県域において重要な価値を有するものが多いことを指摘した。特に横浜市栄区公田ジョウロ塚遺跡出土の大型頭部資料は縄文時代の同様の資料の中でも最大級で謎が多く、その全体の形態について検討を加えた。

キーワード：縄文時代・土偶・人面把手

e 種 別：資料紹介

表 題：「横須賀市蛭畑（ひるばたけ）遺跡出土の人面付土器について」

筆 者：考古担当 近野 正幸

要 旨： 横須賀市小矢部1丁目に所在する蛭畑遺跡出土の人面付土器について、昨今の事例を含め再検討を加えた。結果、本資料が弥生時代中期後葉における平作川中流域の中核集落を形成していた集団の性格を反映するもの、東日本への文化や墓制の流入に伴う変化に関連して出現したものと位置付けることが可能と確認した。

キーワード：蛭畑（ひるばたけ）遺跡・人面付土器・東日本弥生時代

f 種 別：資料紹介

表 題：「宝生寺所蔵の二種の羅漢図について」

筆 者：学芸員 梅沢 恵

要 旨： 宝生寺所蔵の二種の羅漢図の紹介。一種は、張玄様の対幅の十六羅漢図。もう一種は、一幅に四尊の羅漢を描く。いずれも大陸から舶載された羅漢図の図像やその影響下に制作された絵画様式を示しており、中世の鎌倉文化圏の絵画制作及び舶載画の受容を物語る貴重な作例といえる。

キーワード：羅漢図・宝生寺（横浜市南区）

イ 個人研究活動

〈凡例〉（刊行年などは西暦で統一）

1 著作

- (1) 単著・共著・学術論文
- (2) 書評・余録
- (3) 資(史)料紹介

2 学術口頭報告

3 図録執筆・解説書執筆

4 新聞・雑誌等への寄稿

5 各種調査委員会等

6 講座講師等(特に館名などを記さないものは当館での実施。)

7 ここ1年間の課題・研究テーマ

(企画普及課)

鳥居 和郎（企画普及課長・専門学芸員・歴史・中世）

4 「博物館は市民から支持されているのだろうか」(『院友学芸員』5号、p.4、國學院大学、2012年3月)

5 箱根町文化財保護委員会委員

小田原市郷土文化館協議会委員

小田原市文化財保護委員会委員

小田原城耐震改修等検討委員会委員

6 関東戦国史講座「戦国大名北条氏と周辺大名 一今川、武田、上杉、徳川、豊臣からみた関東の戦国史一」
「戦国大名北条氏の領国支配と外交について」(2012年2月5日)

葉山町民大学(大学提携・生涯学習講座)講師(於：関東学院大学葉山セミナーハウス)

「戦国大名北条氏の一向宗『禁令』と三浦半島」(2012年3月5日)

- 7 周辺博物館との連携事業の検討。後北条氏の京都外交に関する史料の検討。

中野 雅之(主任学芸員・教育普及)

- 7 博物館と学校教育の連携におけるワークシートの活用について

(情報資料課)

井上 久美子(主任専門員・技術)

- 5 文化財写真技術研究会
- 6 時宗文化財調査(2011年6月25日～28日、10月28日～11月1日、2012年2月20日)
神奈川県教育局生涯学習課 文化財ポスター撮影(2011年10月18日)

(学芸部)

薄井 和男(館長・美術・中世)

- 1(1) 「鎌倉と安房の仏像」(特別企画展『中世の安房と鎌倉』図録所収、館山市立博物館、2012年3月)
- 5 相模原市文化財保護審議会委員
逗子市文化財保護審議会委員
厚木市文化財保護審議会委員
川崎市文化財保護審議会委員
大磯町文化財保護審議会委員
平塚市文化財保護審議会委員
時宗文化財調査委員
- 7 県内所在の神社所蔵の神像調査を行った。

古川 元也(主任学芸員・歴史・中世)

- 1(1) 「中世唐物再考 ―記録された唐物」
(『唐物と東アジア』所収、勉誠出版社、pp. 131-145、2011年10月)
「円覚寺智真「夢記」と「日仏庵公物目録」」
(『神奈川県立博物館研究報告 一人文科学一』第38号、pp. 1-14、2012年3月1日)
「流転する中世文書への視角：園城寺文書・東大寺文書の事例」
(『史学』第81巻、第1・2号、三田史学会、pp. 283-299、2012年3月)
- (2) 「当館所蔵の赤羽刀 ―コレクション展「甞る名刀」展によせて―」
(『神奈川県立歴史博物館だより』vol. 17、No.3、通巻189号、pp. 2-4、2011年12月28日)
「慶應義塾の古文書・中世文書 中島報告に対するコメント」
(三田史学会大会シンポジウム、2011年6月18日、於：慶應義塾大学)
「大和家文書について ―散逸した文書とその問題点―」
(第44回日本古文書学会大会、2011年9月25日、於：慶應義塾大学)
- 3 展示図録『都市を描く ―京都と江戸―』(展示プロジェクト委員として企画参加、大学共同利用機関法人人間文化研究機構、pp. 1-240、2011年3月)
- 4 コラム記事「甞る名刀 ―赤羽刀(あかばねとう)― の魅力」
(『かもめ広場』電子版、神奈川県庁内報、2012年1月)
- 5 国立歴史民俗博物館共同研究員
三田史学会(慶應義塾大学)委員会委員
日本古文書学会大会運営委員・『古文書研究』(吉川弘文館)編集委員
- 6 かながわ遊学セミナー「中世人の生活世界」(2011年5月10日、於：神奈川地区センター)
鎌倉市自主講座五輪会「鎌倉の日蓮信仰」(2011年5月13日、於：鎌倉市生涯学習センター)
歴史めぐりウォーキング講座「都筑の中世・鎌倉～戦国の歴史」
(2011年5月21日、於：仲町台地区センター)

栄区鎌倉研究会歴史講座「源頼朝の生涯 ―その虚像と実像―」(2011年6月15日、於：あーすぷらざ)
 かねさわ歴史の会「古記録にみる応仁の乱 時代の世相」(2011年11月30日、於：金沢地区センター)
 山北町地方史研究会文化講演会「開かれたタイムカプセル！山北町に伝えられてきたもう一つの箱根権現絵巻」(2012年1月29日、於：山北町立中央公民館)
 港南区歴史講座「南関東に生きた中世武士」(2012年2月25日、於：横浜市港南区図書館)
 かねさわ歴史の会「古記録にみる本能寺の変 時代の世相」(2012年3月28日、於：金沢地区センター)
 7 展示に資する日本中世宗教文化史の研究。また、コレクション展示に向けて16世紀の相州刀の研究を行った。継続的研究としては、請求文物等をはじめとする非文献資料を調査・研究し、記録との比較検討を通じて総体的な歴史復元に資することが出来る部分の検証を試みた。

梅沢 恵 (学芸員・美術・中世)

- 1(1) 「春日におけるイメージの変相 山の端の円相をめぐって」
 (『春日の風景 麗しき聖地のイメージ』(展覧会図録) 根津美術館、2011年10月)
- (2) 「コレクション展示『修理完成記念特別公開 涅槃図』について」
 (『神奈川県立歴史博物館だより』vol. 17、No2、通巻188号、pp. 4-6、2011年8月10日)
- (3) 資料紹介「宝生寺所蔵の二種の羅漢図について」
 (『神奈川県立博物館研究報告 ー人文科学ー』第38号、pp. 89-96、2012年3月1日)
- 5 横浜市文化財総合調査主任調査員
- 6 神奈川県文化財協会 第4回見学会 講師
 「コレクション展示『修理完成記念特別公開 涅槃図』について」(2011年8月21日)
- 7 館蔵の中近世絵画に関する調査研究および平成22年度科学研究費若手研究(B)「中世鎌倉文化圏における絵画制作と外来文化受容に関する研究」に関連した調査研究を中心に行った。

小井川 理 (学芸員・美術・中世)

- 2 「出産・成長にかかわる「白絵」の資料について」
 (国立歴史民俗博物館共同研究「民俗儀礼の変容に関する資料論的研究」(研究代表：山田 慎也)
 第3回研究会発表、2011年12月17日、於：国立歴史民俗博物館)
- 3 特別展図録『御移転100年記念 曹洞宗大本山總持寺 名宝100選』
 (作品解説、曹洞宗大本山總持寺、2011年4月1日)
 特別展図録『竹と民具 一竹とともに暮らすー』(作品解説、神奈川県立歴史博物館、2011年9月10日)
 特別陳列「鎌倉彫と眞葛焼」展示解説リーフレット(神奈川県立歴史博物館、2011年11月)
- 4 「県立歴史博物館特別展 曹洞宗大本山總持寺 名宝100選 <5> 鎌倉彫の技光る優品」
 (『毎日新聞』、2011年5月15日)
- 5 国立歴史民俗博物館共同研究員
- 7 館蔵工芸資料に関する調査研究。特別展「曹洞宗大本山總持寺 名宝100選」にかかる總持寺収蔵資料の調査研究。

千葉 毅 (学芸員・考古)

- 1(1) 「房総半島および周辺地域における大木諸型式(7b式~8b式)の研究」
 (共著、『下総考古学』22、下総考古学研究会、2011年5月)
- (3) 資料紹介「神奈川県立歴史博物館所蔵の土偶・人面把手」
 (『神奈川県立博物館研究報告 ー人文科学ー』第38号、pp. 55-70、2012年3月1日)
- 2 「称名寺式期における東海地方~関東地方南西部の位置づけ」
 (「東海縄文研究会 第2回例会」、東海縄文研究会、2011年7月16日、於：名古屋大学)
 「神奈川県の土偶 ー横浜市・川崎市域ー」
 (「第9回 土偶研究会」、土偶研究会、2012年3月18日、於：岩手県立博物館)
- 6 「縄文時代の不思議な掘立柱建物」
 (「かながわ考古学同好会例会」、2011年5月25日、於：神奈川県埋蔵文化財センター)
 「縄文時代のいろいろなモノ・コト ー東日本を中心にー」・「縄文時代の鎌倉」

（「玉縄考古学講座」、鎌倉市生涯学習推進委員会、2011年6月4日・18日、於：玉縄学習センター）
「縄文時代の情報ネットワーク」

（「第2回考古学講座」、神奈川県教育委員会、2011年9月11日、於：神奈川県民センター）
「称名寺貝塚のはなし」（「ばおぼぶ講座」、2011年9月25日、於：カフェギャラリー&窯 ばおぼぶ）
「縄文時代のかながわ・鎌倉」

（「神奈川県埋蔵文化財センタースクールセミナー」、2011年11月2日、於：北鎌倉女子学園）

- 7 縄文時代の人々の交流や移動、あるいは情報の動きをテーマに研究している。具体的には、南関東地方を中心とした地域をフィールドとして、遺構や遺物に周辺地域からの影響や要素を見出し、それらが流入する背景やその仕方、あるいは時間的な変化について検討している。

また、当館が所蔵している考古資料のうち、当館が発掘調査したものを中心に現在の視点から再整理、再検討を進めている。平成23年度には、特に縄文時代の土偶・人面把手について基礎的な整理・報告を行った。

寺崎 弘康（学芸部長・歴史・現代）

- 1(1) 『新横須賀市史 資料編近現代3』解説執筆（横須賀市、2011年7月）
『川島忠之助資料から見た明治期の横浜正金銀行』
（平成20年度～平成23年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書、2012年3月）
- (2) 『「関東大震災」研究の新潮流』討論会要旨
（『年報首都圏史研究2011』、首都圏形成史研究会、2011年12月）
- 5 横須賀市史専門委員
首都圏形成史研究会常任委員
- 6 川崎市歴史的資料等取扱施設連絡会（2010年10月29日、於：川崎市市民ミュージアム）
国宝史蹟研究会（2010年11月7日）
- 7 横浜正金銀行頭取及び役員の旧蔵資料を収集し、その整理と分析を進めた。

古宮 雅明（専門学芸員・歴史・近世）

- 5 日本史教材開発委員会委員（神奈川県教育委員会）
- 6 横浜市民公開講座「超高精細デジタル画像が開く未来」講師
（2012年3月16日、於：東京芸術大学大学院映像研究科馬車道校舎）
- 7 近世災害史及び東海道絵図の研究を進めている。

嶋村 元宏（主任学芸員・歴史・近代）

- 1(1) 研究ノート「アメリカ人旅行家ウィリアムズ女史が見た明治の日本 ―当館所蔵『ウィリアムズ女史日本旅行記念蒐集資料』から―」
（『神奈川県立博物館研究報告 ―人文科学―』第38号、pp.39-54、2012年3月1日）
- 1(2) 「横浜開港をめぐって」（『ボランティアニュース』第64号、神奈川県立歴史博物館ボランティア会、pp.1-2、2012年3月16日）
- 3 『江戸時代 来日外国人人名辞典』
（岩下哲典編、東京堂、要説「商人」、項目執筆14点、2011年9月11日）
『明治時代史大辞典』（宮地正人他編、吉川弘文館、項目執筆4点、2011年11月22日）
- 4 「開国史ひもとく幕末資料 阿部家「饗応之図」福山市に寄託」
（『中國新聞』、1,24面、2011年8月17日）
「かながわ交響楽 多文化受容 発展の歴史」（『読売新聞』、社会面、2012年3月10日）
- 7 ここ1年間の課題・研究テーマ「19世紀中葉の国際秩序の変容」をメインテーマに研究を継続した。特に上半期は、前年度来進めていた「ウィリアムズ女史日本旅行記念蒐集資料」研究のまとめを行った。下半期は、平成24年夏に開催を予定している特別展を充実させるべく、ペリー来航関係画像研究に集中した。

桑山 童奈（主任学芸員・美術・近世）

- 1(1) 「浮世絵師と地方のつながり ―浮世絵師の署名がある〈地方出版物〉について―」
（『太田記念美術館紀要 浮世絵研究』第2号、太田記念美術館、pp. 5-26、2012年3月）
「〈横浜浮世絵〉とは何か？ ―郷土史のなかの浮世絵―
（『豊饒の日本美術 ―小林忠先生古稀記念論集』、藝華書院、pp. 286-291、2012年）
『謎解き浮世絵叢書 小林清親 東京名所図』
（町田市立国際版画美術館監修、河野結美・湯川説子と共著、ニ玄社、2012年）
- 2 国際浮世絵学会第16回国際浮世絵大会「神奈川県立歴史博物館蔵〈摺物東海道〉について」
（2011年11月26日、於：学習院大学）
- 5 国際浮世絵学会理事、企画委員
- 6 國學院大学ホームカミングデー「浮世絵のたのしみ」
（2011年11月5日、於：國學院大学渋谷キャンパス）
- 7 常設展示テーマ3、4の充実を目指したほか、上記2の「摺物東海道」について研究した。

丹治 雄一（主任学芸員・歴史・近代）

- 1(2) 「書評『報告書 横浜・関東大震災の記憶』」
（『年報 首都圏史研究 2011(第1号)』pp. 96-98、2011年12月）
- 5 首都圏形成史研究会常任委員
- 6 MUFJ(三菱UFJ フィナンシャルグループ)エクステンションカレッジ講師
「旧横浜正金銀行本店本館について」(2011年6月11日、於当館)
神奈川県立図書館図書館カレッジ「聴く・見る・感じる 神奈川の名建築」現地見学会講師
「旧横浜正金銀行本店本館について」(2011年11月19日、於神奈川県立歴史博物館)
- 7 総合研究「近代日本の銀行建築に関する建築史的研究」を立ち上げ、外部の研究分担者の参画を得て、全国の戦前創建になる銀行建築の基本データの収集を進めた。また、神奈川県庁本庁舎(1928年創建)とそれに先立つ三代の歴代県庁舎の建築史的調査を行い、県庁本庁舎6階に整備した「神奈川県庁本庁舎歴史展示室」(2012年3月開室)の展示計画を立案した。

角田 拓朗（学芸員・美術・近代）

- 1(1) 「ワグマンの人物像について 特別展「ワグマンが見た海 ―洋の東西を結んだ画家―」によせて」(『神奈川県立歴史博物館だより』vol. 17、No.1、通巻187号、pp. 2-5、2011年5月24日)
「【研究ノート】五姓田義松旧蔵作品群とチャールズ・ワグマン」
（『神奈川県立歴史博物館だより』vol. 17、No.1、通巻187号、pp. 6-7、2011年5月24日）
「ワグマンが見た海 ―理想郷を求めて―」(特別展図録『ワグマンが見た海 ―洋の東西を結んだ画家―、神奈川県立歴史博物館、pp. 5-10、2011年6月)
「チャールズ・ワグマンの個人様式の具体像を問う ―明治洋画・来日外国人・報道／芸術―」
（『鹿島美術研究』年報28号別冊、鹿島美術財団、2011年11月）
「新出の五姓田義松関係資料について ―肖像・風景・実像―」
（『近代画説』20、明治美術学会、2011年12月）
「ワグマンと暁斎の接点」(『暁斎』108、河鍋暁斎記念美術館、2012年1月)
「「チャールズ・ワグマン」という画家の位相 ―神奈川県立歴史博物館所蔵水彩画群と『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』の比較検証を中心として」
（『神奈川県立博物館研究報 ―人文科学―』第38号、pp. 15-38、2012年3月1日）
- 2 「新出の五姓田義松関係資料について ―橘忠助氏旧蔵美術資料群の概要報告を兼ねて―」
（明治美術学会例会、2011年6月18日、於：神奈川県立歴史博物館）
「美人画を研究することの意義とその課題 ―再興院展出品作を事例としながら―」
（美人画研究会、2012年1月29日、於：神奈川県立歴史博物館）
「橘忠助氏旧蔵美術資料群より 明治期銅版画版本について」
（神奈川県立歴史博物館研究成果報告会、中村茉貴との共同発表、2012年3月7日）
- 3 特別展図録『ワグマンが見た海 ―洋の東西を結んだ画家―』(神奈川県立歴史博物館、2011年6月)

- 4 「文化を語る 日本を愛した洋画の伝道者「ワグマンが見た海 一洋の東西を結んだ画家」」
 (『読売新聞』、2011 年 5 月 26 日)
 談話記事「美術の開国、横浜とワグマンの二人の弟子」(『芸術新潮』7 月号、新潮社、2011 年 6 月)
 「西洋を伝えた画家 ワグマンと横浜〈1〉 幕末動乱の目撃者 波乱の果て 定住の地」
 (『神奈川新聞』、2011 年 6 月 27 日)
 「西洋を伝えた画家 ワグマンと横浜〈2〉 風刺画に横浜への愛情 下関戦争 同情する絵柄も」
 (『神奈川新聞』、2011 年 6 月 29 日)
 「西洋を伝えた画家 ワグマンと横浜〈3〉 娯楽の数々が初輸入 現代文化史の「最古層」」
 (『神奈川新聞』、2011 年 7 月 1 日)
 「西洋を伝えた画家 ワグマンと横浜〈4〉 洋画で東西を結ぶ 売れる「商品」を量産」
 (『神奈川新聞』、2011 年 7 月 4 日)
 「西洋を伝えた画家 ワグマンと横浜〈5〉 パリで輝いた弟子 五姓田義松との深い絆」
 (『神奈川新聞』、2011 年 7 月 6 日)
 談話記事「美の履歴書 209 チャールズ・ワグマン「宿場」 日はどっちに出ている」
 (『朝日新聞』、2011 年 6 月 29 日)
- 6 「特別展「ワグマンが見た海 一洋の東西を結んだ画家」について」
 (横浜シティガイド協会 研修会、2011 年 7 月)
 「特別展「ワグマンが見た海 一洋の東西を結んだ画家」について」
 (横浜文芸懇話会 見学会、2011 年 7 月)
 「特別展「ワグマンが見た海 一洋の東西を結んだ画家」について」
 (洋学史学会 7 月例会、2011 年 7 月)
 「特別展「ワグマンが見た海 一洋の東西を結んだ画家」について」
 (神奈川県文化財協会 平成 23 年度第 3 回研修会、2011 年 7 月)
- 第 31 回馬車道を描く日曜画家展 審査員(2011 年 11・12 月)
 「特別展「ワグマンが見た海」こぼれ話」
 (横浜美術協会・神奈川女流美術協会・横浜文芸懇話会 第 58 回ワグマン祭、2012 年 2 月)
- 7 橘忠助氏旧蔵美術資料群に関する調査研究、特に五姓田義松関係資料群について。
 また、日本学術振興会科学研究費助成事業「基盤研究 (C) 新出と既知の高橋由一作《西周像》について」(平成 23 年度～25 年度 課題番号：23520140 研究代表：長門佐季) の分担研究者として、高橋由一の関係事績について調査研究を行った。

長田 平 (専門員・民俗)

- 3 特別展図録『竹と民具 竹とともに暮らすー』(総論、コラム、資料解説)
 (編著、pp.1-88、神奈川県立歴史博物館、2011 年 9 月 10 日)
- 4 「竹と民具 竹とともに暮らす(1) 優れた特性 生かした先人」(『朝日新聞』、2011 年 9 月 6 日)
 「竹と民具 竹とともに暮らす(2) 頑丈さ利用 かぶとも」(『朝日新聞』、2011 年 9 月 7 日)
 「竹と民具 竹とともに暮らす(5) 地域で形違う米揚げザル」(『朝日新聞』、2011 年 9 月 13 日)
 「特別展『竹と民具 一竹とともに暮らすー』」
 (『神奈川県立歴史博物館だより』vol.17、No2、通巻 188 号、pp.7-8、2011 年 8 月 10 日)
- 5 愛川町新郷土資料館運営委員会委員
 葉山町文化財保護委員会委員
- 6 神奈川県文化財協会見学会講師 特別展「竹と民具 竹とともに暮らすー」(2011 年 9 月 28 日)
 県博講座「竹と民具」第 1 回「竹と民具」(2011 年 10 月 1 日)
- 8 竹製民具、流通民具を通して技術伝承の研究を行い、その成果を特別展に反映した。また、年中行事についての研究を継続している。

鈴木 通大 (専門員・民俗)

- 1(1) 「竹のフォークロア 一年中行事・儀礼にあらわれた竹を中心にー」(特別展図録『竹と民具 一竹とともに暮らすー』所収、pp.11-16、神奈川県立歴史博物館、2011 年 9 月 10 日)

「大山信仰関係文献目録解題」

(関東民具研究会編『相模・武蔵の大山信仰』所収、pp.143-154、岩田書院、2011年9月)

- 3 特別展図録『竹と民具 一竹とともに暮らすー』(共編、神奈川県立歴史博物館、2011年9月10日)
- 4 「竹と民具 竹とともに暮らす(3) 雨乞いの水筒に神秘性」(『朝日新聞』、2011年9月8日)
「竹と民具 竹とともに暮らす(4) 竹の皮に意外な使い道」(『朝日新聞』、2011年9月10日)
- 5 文化庁文化審議会第五専門調査会委員
大和市文化財保護審議会委員
- 6 県博講座「竹と民具」第4回「竹と信仰」(2011年10月22日)
藤沢市公文書館歴史講座「大正～昭和の生業と暮らし ー記録・史料とフォークロアー」第3回「記録・史料の民俗学的活用」(2011年11月22日)
藤沢市公文書館歴史講座「大正～昭和の生業と暮らし ー記録・史料とフォークロアー」第4回「日記が語る農業と暮らし」(2011年11月29日)
- 7 竹製の信仰民具および竹の民俗に関する調査研究を実施し、特別展「竹と民具」に反映させた。
また天狗・飯縄信仰、茶湯寺参り・先祖供養・他界観に関する継続的な研究を実施している。

4 資料収集・修理・保管・利用

〈凡例〉

ア 購入、 イ 寄贈・寄託・借用、 ウ 修理、 エ 貸出、 オ 特別利用、 カ その他

(1) 考古資料

イ 寄贈・寄託・借用
(借用)

No.	資 料 名	件一点	当初借用年月日
1	宗元寺軒瓦 外	1 件 1,088 点	昭和 46 年 1 月 1 日
2	草創期の石器(慶應義塾湘南藤沢キャンパス内遺跡)	1 件 20 点	平成 7 年 2 月 10 日
3	壺(横須賀高校裏山遺跡) 外	1 件 3 点	平成 7 年 2 月 10 日
4	饒益神宝(中原上宿遺跡出土)	1 件 1 点	平成 8 年 3 月 1 日
5	藤沢市代官山遺跡出土土器 外	1 件 283 点	平成 21 年 3 月 1 日
6	相模原市川尻中村遺跡出土土器 外	1 件 16 点	平成 23 年 8 月 19 日
7	平塚市湘南新道関連遺跡 外	1 件 218 点	平成 23 年 12 月 27 日
8	綾瀬市寺尾遺跡出土石器 外	1 件 209 点	平成 24 年 3 月 9 日
	合 計	8 件 1,838 点	

エ 貸出

No.	申請者・目的	資 料 名	件一点	利用方法	利用期間
1	横浜市歴史博物館 「大昔の村を掘る ー三殿台遺跡と横浜の考古学」	三殿台遺跡出土 縄文土器 縄文時代土製品 縄文時代石器 弥生時代石器 (赤星直忠資料) 三殿台遺跡出土遺物	5 件 25 点	展示	平成 23 年 2 月 10 日 ～ 6 月 9 日
2	横浜市歴史博物館 「海にこぎ出せ！弥生人」	間口洞窟遺跡出土 骨角器・土器 (県指定重要文化財) 離頭銛模型 大浦山洞窟遺跡出土 貝輪 毘沙門 B・C 洞窟遺 跡出土骨角器 向ヶ崎 B 洞窟遺跡出 土骨角器	5 件 50 点	展示	平成 24 年 3 月 21 日 ～ 6 月 10 日

オ 特別利用

No.	申請者・目的	資 料 名	件一点	利用方法	利用期間
1	鳥取県埋蔵文化財センター 『青谷上寺地遺跡フォー ラム予稿集』掲載	間口洞窟遺跡出土骨角器(写真)	1 件 3 点	掲載	平成 23 年 9 月 15 日
		間口洞窟遺跡出土骨角器(実測図)	1 件 12 点	転載	～ 10 月 1 日
2	横浜市歴史博物館	間口洞窟遺跡他資料	1 件 100 点	閲覧・撮影	平成 24 年 2 月 17 日

(2) 歴史資料

ア 購入

No.	資 料 名	件一点
1	桜井家文書（全19通のうち9通）	1件9点

資料の概要： 桜井家文書とは、後北条氏の家臣桜井氏に伝来した文書群である。当館は既に戦国時代の文書については収集を行っているが、本年度より越前時代の19通について順次収集を行うこととなった。先ず本年度は、秀康（越前松平家初代）と忠直（2代）が武兵衛に与えた知行充行状、掟書。また、「桜井武兵衛覚書」として知られる武兵衛自身が参加した合戦について記した記録など9通の購入を行った。

天正18年（1590）の小田原合戦後、戦国大名北条氏の家臣は帰農、あるいは他家へ仕官するなどその身の処し方は様々であったが、桜井武兵衛は結城秀康（徳川家康次男）に仕え、秀康が関ヶ原の合戦後、越前へ転封すると武兵衛もこれに従った。越前松平家に仕官した北条氏の遺臣は「結城秀康給帳」などから40名を超えることが確認できるが、北条時代と結城（松平）時代の文書を原本のまま伝えるのは桜井氏のみであり、北条氏遺臣の近世武家社会における状況や、越前松平家の初期段階の研究のために大変興味深い文書群である。

内訳	資 料 名	年 月 日	宛 先	形式	数量	単位	法量(縦×横) cm
1	我等はしりめくり之覚 (桜井武兵衛覚書)	年未詳 9月19日	—	継紙	1	通	32.5 × 96.5
2	結城秀康知行充行状	慶長6年9月9日	桜井武兵衛	堅紙	1	通	31.8 × 47.3
3	結城秀康知行充行状	慶長8年1月9日	桜井武兵衛	堅紙	1	通	31.6 × 46.5
4	松平忠直掟書	慶長12年9月7日	桜井武兵衛	堅紙	1	通	35.8 × 50.3
5	松平忠直知行充行状	元和2年8月22日	桜井武兵衛	堅紙	1	通	36 × 52.3
6	松平忠直知行充行状	元和2年8月22日	桜井甚之助	堅紙	1	通	36 × 52.5
7	松平忠直重臣連判状	(元和3年)11月1日	桜井佐助	堅紙	1	通	32 × 32.2
8	松平忠直黒印状	元和9年1月7日	桜井武兵衛	堅紙	1	通	35.8 × 51.8
9	松平忠直知行充行状	元和9年1月15日	桜井武兵衛	継紙	1	通	36.2 × 153.3

イ 寄贈・寄託・借用 (寄贈)

No.	寄贈主	資 料 名	件一点
1	個人(東京都在住)	老中達	1件1点
2	個人(東京都在住)	達	1件1点
3	個人(東京都在住)	目付通達	1件1点
4	個人(東京都在住)	老中書簡案	1件1点
5	個人(東京都在住)	老中達	1件1点
6	個人(東京都在住)	ロシア船退帆の節、ロシア使節の残した文書写	1件1点
7	個人(東京都在住)	老中達	1件1点
8	個人(東京都在住)	老中達	1件1点
9	個人(東京都在住)	老松替唄	1件1点
10	個人(東京都在住)	万国人物之図	1件1点
11	個人(東京都在住)	(御固図)	1件1点

12	個人(東京都在住)	(御固図)	1 件 1 点
13	個人(東京都在住)	簡易画鋏	1 件 1 点
14	個人(東京都在住)	試験による出る時局中心要語の書取	1 件 1 点
15	個人(鎌倉市在住)	自動式東芝ゆで卵器	1 件 1 点
16	個人(厚木市在住)	澁留商会家紋名入り 大風呂敷	1 件 1 点
17	個人(東京都在住)	天保豆板銀	1 件 1 点
18	個人(東京都在住)	安政豆板銀	1 件 1 点
19	個人(東京都在住)	変形安政豆板銀	1 件 1 点
20	個人(東京都在住)	船磁石	1 件 1 点

(寄託)

No.	資 料 名	件一点	当初寄託年月日
1	帝政ロシア製 32 ポンド砲(旧居留地 90 番出土の大砲)	1 件 1 点	平成 16 年 2 月 1 日
2	長谷川家文書	1 件 22 点	平成 23 年 2 月 17 日
3	大太鼓	1 件 1 点	平成 23 年 2 月 18 日

(借用)

No.	資 料 名	件一点	当初借用年月日
1	烏帽子形兜	1 件 1 点	昭和 43 年 10 月 22 日
2	古瀬戸瓶子	1 件 1 点	昭和 45 年 9 月 1 日
3	刀片(三増合戦場出土)	1 件 1 点	昭和 47 年 6 月 10 日
4	関山家文書	1 件 24 点	昭和 47 年 9 月 8 日
5	久崎家資料	1 件 197 点	昭和 47 年 9 月 13 日
6	瀬戸 四耳壺 外	1 件 3 点	昭和 48 年 7 月 1 日
7	渥美 灰釉壺 外	1 件 5 点	昭和 48 年 10 月 1 日
8	本多家文書	1 件 953 点	昭和 49 年 3 月 1 日
9	御用取締りのぼり	1 件 1 点	昭和 49 年 4 月 26 日
10	嘆願書	1 件 1 点	昭和 52 年 3 月 23 日
11	生麦村新地実測図(神奈川県令中島信行宛)	1 件 5 点	昭和 52 年 12 月 1 日
12	舊荻野山中建物之繪図 外	1 件 19 点	昭和 53 年 12 月 1 日
13	寺井家文書	1 件 16 点	昭和 55 年 2 月 15 日
14	散弾銃	1 件 1 点	昭和 55 年 4 月 1 日
15	羽柴秀吉知行充行状 天正十一年六月五日付	1 件 1 点	昭和 58 年 5 月 20 日
16	平本家文書	1 件 1,309 点	昭和 58 年 10 月 14 日
17	黒船来航絵巻	1 件 1 点	平成 4 年 5 月 15 日
18	日月鳳凰螺鈿鞍	1 件 1 点	平成 4 年 11 月 1 日
19	旧小田原城天守閣模型	1 件 1 点	平成 5 年 12 月 15 日
20	辰御年貢可納割付之事 外	1 件 2 点	平成 6 年 7 月 20 日
21	享保十四年九月酉之内検見引牒 外	1 件 22 点	平成 6 年 10 月 7 日
22	黒地竹矢来に小花模様小袖裂 外	1 件 11 点	平成 8 年 2 月 1 日
23	長禄元年銘板碑 同破片	1 件 2 点	平成 13 年 5 月 1 日
24	桜井武兵衛覚書(松平忠直知行充行状)	1 件 10 点	平成 17 年 3 月 1 日
25	中国青磁 碗 線描き蓮弁文 外	1 件 50 点	平成 18 年 6 月 1 日
26	茅ヶ崎市出土板碑関係(梵字板碑、破片)	1 件 4 点	平成 20 年 7 月 1 日
27	旧横浜正金銀行本店本館改修工事関係資料 一括	1 件 1 点	平成 20 年 9 月 1 日
28	旧横浜正金銀行本店本館彩色立面図 外	1 件 119 点	平成 22 年 10 月 15 日
29	銅造 明治天皇立像 外	1 件 3 点	平成 23 年 12 月 15 日

30	唐船渡来ニ付御手配	1 件 1 点	平成 24 年 3 月 6 日
	合 計	30 件 2,766 点	

エ 貸出

No.	申請者・目的	資 料 名	件一点	利用 方法	利用期間
1	港区立港郷土資料館 コーナー展 「江戸開府前の港区」	寛永三年版「東鑑」巻一、巻二三	2 件 4 点	展示	平成 23 年 4 月 19 日～ 6 月 22 日
		寛永再版「東鑑」巻一、巻二三			
2	福井県立歴史博物館 特別展「鉄道博覧会」	ペリー献上蒸気機関車模型	9 件 9 点	展示	平成 23 年 6 月 2 日～ 9 月 7 日
		嘉永 4 年 別段風説書（阿部家資料）			
		黒船絵巻			
		鉄道独案内 鶴見			
		鉄道独案内 横浜			
		鉄道独案内 川崎			
		蒸気車出発時刻運賃附			
		横浜鉄道館蒸気車往還之図			
		東京横浜共貸金附			
3	那須塩原市那須野が原博 物館 特別展 「近代鉄道事情－那須 野が原に汽笛が響く－」	亜墨利加船渡来横浜之真景	3 件 3 点	展示	平成 23 年 9 月 21 日～ 12 月 8 日
		ペリー献上蒸気機関車模型			
		鉄道寮 御幸臨鉄道開業縦観券			
4	熊谷市立熊谷図書館 企画展 「斎藤氏と聖天堂展」	成田氏長書状 聖天院宛 年未詳三月八日付	1 件 1 点	展示	平成 23 年 9 月 21 日～ 12 月 14 日
5	品川区立品川歴史館 特別展 「品川台場－幕末期江 戸湾防備の拠点－」	『日本遠征石版画集』のうち 「ペリー肖像」	3 件 6 点	展示	平成 23 年 10 月 4 日～ 11 月 25 日
		嘉永 5 年 別段風説書（阿部家資料）			
		近海見分之図			
6	財団法人馬事文化財団 企画展 「ススメ！小田原北条 氏」	鉄黒漆塗四十八間筋兜鉢	14 件 14 点	展示	平成 23 年 10 月 15 日～ 12 月 14 日
		旗指物(狭山北条家所用)			
		陣羽織(狭山北条家所用)			
		小田原衆所領役帳			
		北条氏康版物(辰 8 月 10 日付)			
		小田原陣仕寄陣取図(複製)			
		伊勢宗瑞制札(永正 15 年 2 月 3 日付)〈借 用資料〉			
		北条氏綱制札(大永 4 年 4 月 10 日付)〈借 用資料〉			
		北条家朱印状(天文 5 年 8 月 27 日付)〈借 用資料〉			
		北条家伝馬手形(子年 6 月 15 日付)〈借用 資料〉			
		北条家伝馬手形(丑年 3 月 15 日付)〈借用 資料〉			
		関山隼人訴状(天正 14 年 6 月 28 日付)〈借			

		用資料) 落合三河守陳情(天正14年7月16日付) 〈借用資料〉 山角康定書状(天正14年7月18日付)〈借用資料〉			
7	東京都江戸東京博物館 神戸市立博物館 広島県立美術館 京都府京都文化博物館 NHK大河ドラマ50年 特別展 「平 清盛」	奈良絵本 平家物語 二十四冊のうち十一冊 源平合戦図屏風 後白河法皇像 (複製) 古神宝類のうち 沃懸地杏葉螺鈿太刀 (模造) 伝源頼義奉納 古神宝類のうち 朱漆弓 (模造) 古神宝類のうち 黒漆矢 (模造) 古神宝類のうち 沃懸地杏葉螺鈿平胡録 (模造)	7 件 18 点	展示	平成 23 年 12 月 20 日～
8	鶴岡八幡宮 平成 24 年新春特別展	赤糸威鎧兜大袖付 (模造) 小山朝政充源頼朝袖判下文 (複製)	2 件 2 点	展示	平成 23 年 12 月 27 日～ 平成 24 年 2 月 10 日

オ 特別利用

No.	申請者・目的	資 料 名	件一点	利用 方法	利用期間
1	(株)宝塚クリエイティブ アーツ 「タカラヅカスカイステ ージ」放映	横浜宝塚劇場写真アルバム	1 件 2 点	閲覧 ・ 撮影	平成 23 年 6 月 4 日 ～ 6 月 14 日
2	個人 原稿作成	横浜居留地模型	1 件 1 点	撮影	平成 23 年 6 月 30 日
3	横須賀市 『横須賀市史資料編近 現代Ⅲ』掲載	横須賀鈴木家文書の内、 ①選挙資格の調査について ②宗教団体法実施につき壇信徒への通知 ③血液型検査につき通知 ④復員者帰還者伝染病予防につき回覧	1 件 4 点	掲載	平成 23 年 7 月 1 日 ～ 7 月 31 日
4	個人 江戸湾海防史の調査	近海見分之図	1 件 4 点	閲覧・ 撮影	平成 23 年 8 月 5 日
5	個人 研究資料	円覚寺仏殿模型	1 件 1 点	撮影	平成 23 年 9 月 3 日
6	建長寺 研究	写経石 (建長寺内出土分)	1 件 19 点	閲覧・ 撮影	平成 23 年 10 月 6 日
7	vivi 「日本のマジック」放映	エルギン卿遣中日使節録	1 件 1 点	放映	平成 23 年 12 月 28 日
8	東京芸術大学大学院映像 研究科 横浜市民講座	従江戸長崎迄海陸之図	1 件 1 点	撮影	平成 24 年 2 月 22 日 ～23 日

(3) 美術資料

ア 購入

No.	資 料 名	件一点
1	「賀来惟熊像」 (渡辺幽香)	1 件 1 点
2	東海道五十三次 (六) 戸塚 (葛飾北斎)	1 件 1 点

No.1

名 称：「賀来惟熊像」 (渡辺幽香)

員 数：1 点

法 量：127.5 cm×50.7 cm

説 明：五姓田派の一人渡辺幽香の作。彼女の絹地肖像画は少なく、その中でも本作は描写力に秀でた優品といえる。像主の賀来惟熊は大分県宇佐の地主。画面上部には南一郎平による賛が記されている。

No.2

名 称：葛飾北斎 東海道五十三次 (六) 戸塚

員 数：1 枚

法 量：中判錦絵 22.3×16.6 cm

説 明：署名はないが、北斎の7種ある東海道揃物のひとつ。「戸塚」という名称であるが、鎌倉の大仏が描かれる。錦絵に鎌倉の大仏が描かれた例は少なく、貴重な作例である。文化年間(1804～18)。

イ 寄贈・寄託・借用

(寄贈)

No.	寄贈主	資料名	件一点
1	個人(岩手県在住)	旧橘忠助氏旧蔵美術資料群	一括

(寄託)

No.	資 料 名	件一点	当初寄託年月日
1	江の島関係浮世絵コレクション	1 件 88 点	昭和 56 年 4 月 1 日
2	重要文化財 木造他阿真教坐像	1 件 1 点	平成 17 年 5 月 24 日
3	束帯天神像 外	7 件 10 点	平成 21 年 4 月 24 日
4	祖栄筆 柳に鷺図 外	8 件 8 点	平成 21 年 8 月 1 日
5	眞葛焼	13 件 19 点	平成 22 年 3 月 1 日
6	向獅子香爐	1 件 1 点	平成 23 年 6 月 29 日
7	竹生島祭礼図 外	1 件 5 点	平成 23 年 8 月 14 日
8	高浮彫牡丹二眠猫覚醒大香炉 外	1 件 5 点	平成 24 年 3 月 27 日
	合 計	33 件 137 点	

(借用)

No.	資 料 名	件一点	当初借用年月日
1	県重要文化財 紙本墨画淡彩 十六羅漢図 外	1 件 17 点	昭和 44 年 3 月 1 日
2	県重要文化財 絹本著色 熊野権現影向図	1 件 1 点	昭和 44 年 3 月 1 日
3	県重要文化財 絹本著色 両界曼荼羅図 外	1 件 37 点	昭和 44 年 7 月 1 日
4	東山天皇即位図屏風	1 件 1 点	昭和 47 年 6 月 17 日
5	常滑印花文壺 外	1 件 12 点	昭和 48 年 3 月 1 日

6	東海道図屏風	1件1点	昭和49年7月1日
7	源氏物語図屏風	1件2点	昭和50年3月10日
8	絹本着色 七星如意輪曼荼羅図 外	1件37点	昭和50年6月1日
9	横浜浮世絵	1件473点	昭和52年1月10日
10	張交屏風	1件1点	昭和52年7月15日
11	下村観山デスマスク 外	28件414点	昭和53年4月1日
12	木造薬師如来坐像	1件1点	昭和56年2月25日
13	大小暦コレクション(長谷部コレクション)	1件40点	昭和59年4月1日
14	双六(下村観山)	1件1点	昭和59年7月1日
15	海岸風景図(司馬江漢)	1件2点	昭和60年12月1日
16	鴉図(以天宗清) 外	1件2点	昭和63年7月7日
17	短刀(チャールズ・ワーグマン所用)	1件1点	平成2年8月25日
18	江島金沢八景図屏風 外	1件4点	平成4年12月1日
19	本牧風景 外	1件2点	平成5年6月15日
20	鶴岡八幡宮境内出土品の内 板草履の芯 外	1件19点	平成7年3月1日
21	梵鐘	1件1点	平成10年1月1日
22	仁清意鶏形香合 外	1件4点	平成12年3月1日
23	俵藤太絵巻	1件5点	平成12年5月1日
24	好色十二候 外(喜多川歌麿)	1件12点	平成12年12月20日
25	箱根権現縁起絵巻 付 納入箱	1件2点	平成13年8月1日
26	闘鶏下絵 外(下村観山)	1件3点	平成21年3月1日
27	高浮彫大鷲雀捕獲花瓶 外	5件7点	平成23年10月8日
28	高浮彫桜ニ群鳩大花瓶 外	1件2点	平成23年10月8日
	合 計	56件1,090点	

エ 貸出

No.	申請者・目的	資 料 名	件-点	利用 方法	利用期間
1	山梨県立博物館 特別展 「北斎の富嶽三十六景」	琉球八景 長虹秋霽 (葛飾北斎) 江ノ島祭礼 (葛飾北斎) 不二八景図 (葛飾北斎) 東海道五十三次(折本) (葛飾北斎) 東海道五十三次 戸塚 (葛飾北斎)	5件5点	展示	平成23年 3月8日 ～ 5月17日
2	東京国立博物館 特別展「写楽」	初代芳沢いろはの傾城吾妻	1件1点	展示	平成23年 4月26日 ～ 6月28日
3	サントリー美術館 展覧会 「不滅のシンボル 鳳凰と 獅子」	「座敷芸瀬川石橋」(西村重長)	1件1点	展示	平成23年 5月31日 ～ 8月2日
4	城西国際大学水田美術館 特別展 「近世版画の色と技ー浮世 絵から若冲の拓版画まで」	「東海道五十三次之内 由井 薩捶嶺」 (初代 歌川広重) 「東海道五十三次之内 見附 天龍川図」 (初代 歌川広重) 「富嶽三十六景 東都浅草本願寺」 (葛飾北斎)	5件5点	展示	平成23年 6月14日 ～ 7月22日

		「富嶽三十六景 遠江山中」 (葛飾北斎)			
		「やつし草摺引」 (勝川春潮)			
5	三井記念美術館 特別展 「日本美術に見る『橋』 ものがたり 一天の橋立 から日本橋まで」	諸国名橋奇覧 足利行道山くものかけはし (葛飾北斎)	15 件 15 点	展示	平成 23 年 6 月 28 日 ～ 9 月 8 日
		諸国名橋奇覧 かめみど天神たいこはし (葛飾北斎)			
		諸国名橋奇覧 飛越の堺つりはし (葛飾北斎)			
		諸国名橋奇覧 東海道岡崎矢はぎのはし (葛飾北斎)			
		諸国名橋奇覧 摂州天満橋 (葛飾北斎)			
		諸国名橋奇覧 すほうの国きんたいはし (葛飾北斎)			
		東海道五拾三次 保土ヶ谷 新町橋 (初代 歌川広重)			
		東海道五拾三次之内 掛川 秋葉山遠望 (初代 歌川広重)			
		東海道五拾三次 吉田 豊川橋 (初代 歌川広重)			
		東海道五拾三次之内 岡崎 矢矧之橋 (初代 歌川広重)			
		名所江戸百景 大はしあたけの夕立 (初代 歌川広重)			
		名所江戸百景 亀戸天神境内 (初代 歌川広重)			
		東都名所 両国之宵月 (初代 歌川広重)			
		東海道五拾三次 藤沢 (初代 歌川広重)			
		東海道五拾三次 由井 (初代 歌川広重)			
6	佐川美術館 郡山市立美術館 「没後 150 年記念 破天 荒の浮世絵師－歌川国芳」	東都名所 洲崎初日出の図	3 件 3 点	展示	平成 23 年 8 月 24 日 ～ 平成 24 年 1 月 13 日
		東都名所 両国柳ばし			
		東都富士見三十六景 昌平坂の遠景			
7	鎌倉国宝館 特別展「鎌倉×密教」	寶生寺所蔵 木造 大日如来坐像	4 件 5 点	展示	平成 23 年 9 月 30 日 ～ 11 月 30 日
		寶生寺所蔵 絹本著色 両界曼荼羅			
		弘明寺所蔵 絹本著色 七星如意輪曼荼羅			
		絹本著色 大勝金剛像			
8	茨城県立歴史館 特別展「妖怪見聞」	新形三十六怪撰 茂林寺の文福茶釜	2 件 2 点	展示	平成 23 年 10 月 6 日 ～ 12 月 6 日
		新形三十六怪撰 老婆鬼腕を持去る図			
9	島根県立石見美術館 企画展「雪舟 花鳥を描く」	祥啓筆 花鳥図	2 件 2 点	展示	平成 23 年 10 月 12 日 ～ 12 月 1 日
		興悦筆 花鳥図			

10	サントリー美術館 特別展「南蛮美術の光と影 《泰西王侯騎馬図屏風の謎》」	南蛮屏風	1 件 2 点	展示	平成 23 年 10 月 13 日 ～ 11 月 18 日
11	横須賀美術館 企画展「正岡子規と美術」	五姓田義松 正岡子規肖像 五姓田義松 従軍記者露営図 五姓田義松 日清戦勝図 五姓田義松 揚峯嶺砲台激戦図 五姓田義松 俘虜図 五姓田義松 ロシア兵士像 浅井忠 『従征画稿 第二集』 浅井忠 『従征画稿 第二集』	8 件 8 点	展示	平成 24 年 1 月 12 日 ～ 4 月 27 日
12	古河歴史博物館 企画展 「二世五姓田芳柳の世界」	初代五姓田芳柳 西洋老婦人像 初代五姓田芳柳 井田譲像 チャールズ・ワーグマン 街道 チャールズ・ワーグマン 宿場 五姓田義松 五姓田一家之図 五姓田義松 少女像 五姓田義松 横浜根岸相沢村 五姓田義松 井田磐楠像	10 件 10 点	展示	平成 24 年 3 月 6 日 ～ 5 月 15 日

オ 特別利用

No.	申請者・目的	資 料 名	件一点	利用 方法	利用 期間
1	郡山市立美術館 『郡山市立美術館 研究紀要』執筆の ための調査及び 撮影	橘資料群の内 ①写真アルバム ②『明治初期洋画壇回顧』	1 件 2 点	閲覧 ・ 撮影	平成 24 年 3 月 16 日

(4) 民俗資料

イ 寄贈・寄託・借用

(寄贈)

No.	寄贈主	資料名	件一点
1	個人（横浜市在住）	芋振り籠	1 件 1 点
2	個人（横浜市在住）	野菜籠	1 件 1 点
3	個人（横浜市在住）	椀籠	1 件 1 点
4	個人（横浜市在住）	鯉鮓掬い	1 件 1 点
5	個人（横浜市在住）	小箒	1 件 1 点
6	個人（横浜市在住）	弦鋸	1 件 1 点
7	個人（横浜市在住）	竹挽き	1 件 1 点
8	個人（横浜市在住）	剥ぎ包丁	1 件 1 点
9	個人（横浜市在住）	削り包丁	1 件 1 点
10	個人（横浜市在住）	クリガマ	1 件 1 点
11	個人（横浜市在住）	御用籠	1 件 1 点
12	個人（鎌倉市在住）	武具雛形	1 件 1 点

13	個人（相模原市在住）	浄瑠璃人形	1 件 35 点
14	個人（相模原市在住）	浄瑠璃本	1 件 29 点
15	個人（伊勢原市在住）	ダイカイ	1 件 1 点
16	個人（相模原市在住）	帳場格子	1 件 1 点
17	個人（相模原市在住）	帳場机	1 件 1 点

（借用）

No.	資 料 名	件一点	当初借用年月日
1	階段 外	1 件 4 点	昭和 43 年 4 月 1 日
2	神楽面 外	1 件 151 点	昭和 44 年 12 月 11 日
3	お食初め膳 外	1 件 3 点	昭和 46 年 10 月 23 日
4	ポンプ	1 件 1 点	昭和 47 年 3 月 1 日
5	燭台	1 件 1 点	昭和 47 年 3 月 6 日
6	長持 外	1 件 2 点	昭和 47 年 3 月 6 日
7	お歯黒さし 外	1 件 2 点	昭和 47 年 3 月 8 日
8	お歯黒の道具	1 件 1 点	昭和 47 年 3 月 11 日
9	ミノ	1 件 2 点	昭和 47 年 7 月 11 日
10	天狗の面 外	1 件 3 点	昭和 48 年 2 月 27 日
11	帳場格子 外	1 件 15 点	昭和 48 年 3 月 2 日
12	結納樽	1 件 1 点	昭和 48 年 4 月 1 日
13	スエヒロ	1 件 3 点	昭和 48 年 8 月 20 日
14	鏡台と鏡 外	1 件 4 点	昭和 49 年 4 月 26 日
15	張子面木型	1 件 7 点	昭和 51 年 6 月 19 日
16	獅子皿 外	1 件 9 点	昭和 54 年 3 月 1 日
17	婚礼用具	1 件 1 点	昭和 54 年 3 月 1 日
18	足踏み脱穀機	1 件 2 点	平成 6 年 4 月 15 日
	合 計	18 件 212 点	

エ 貸出

No.	申請者・目的	資 料 名	件一点	利用方法	利用期間
1	相模原市立博物館 常設展示	鍬	1 件 4 点	展示	平成 23 年 11 月 1 日 ～ 平成 24 年 10 月 31 日

（5）写真資料

ア 平成 23 年度写真撮影資料

（ア） 特別展図録用

- ・『曹洞宗大本山總持寺名宝 100 選』
- ・『ワグマンが見た海 一洋の東西を結んだ画家ー』
- ・『竹と民具 一竹とともに暮らすー』

（イ） コレクション展示用

- ・『修理完成記念特別公開 涅槃図』
- ・『甦る名刀 一館蔵赤羽刀からー』

（ウ） 特別陳列用

- ・『鎌倉彫と眞葛焼』

（エ） 収蔵資料

- ・浮世絵（丹波コレクション）

(6) 資料の燻蒸等

IPM(総合的病害虫管理 Integrated Pest Management)に基づき、薬剤による定期的な燻蒸は行わなかった。ただし、露出展示の比率が高く虫害の危険のある民俗分野展示室に殺虫を目的とした密閉燻蒸を、資料状態が良好でなくカビ被害の危険のある版本資料に滅菌を目的とした燻蒸を実施した。また、年間を通して定期的に館内の虫菌相・保存環境調査を実施し、必要に応じて脱酸素剤や二酸化炭素ガスによる処理を行なっている。

(7) その他の資料

ア 図書

平成 23 年度図書資料の状況は次のとおりである。大学等の関係機関からの寄贈も多く、当館の貴重な資料として活用されている。

受 入 数	購 入	寄 贈	計	総 数	ライブラリー公開数
図 書(冊)	12	402	414	17,694	3,541
逐次刊行物(タイトル)	22	66	88	3,696	76

※逐次刊行物はタイトル数で、寄贈は新規のみの数値。

イ 映像

ライブラリーのおよそ 300 本のビデオテープや DVD が利用できる。分類は次のとおり。

A 古代、B 中世、C 近世、D 近代、E 現代、F 民俗、G 当館・博物館、H 日本の歴史、I その他

ウ 写真

展示・調査研究資料として、収蔵資料を中心に撮影したフィルム 96,631 枚を保存し、データベース化するとともに、写真の特別利用として貸出しを行っている。

特別利用件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件 数	23	22	16	25	17	25	18	28	22	27	22	23	268
点 数	60	39	28	45	47	87	48	40	95	73	38	165	765

エ 情報システム

(ア) システム整備の目的と背景

- ・学習の支援
高度な知的欲求ニーズへの対応
- ・博物館活動の活性化、効率化
- ・研究活動の高度化
各種アプリケーションの利用
博物館が所有する情報の活用
- ・情報公開

博物館の再編整備の方向（「県立博物館整備構想に関する提言」昭和 63 年度）

- (1) 高度情報化社会における自然・文化の情報センター
- (2) 映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点
- (3) 内外の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

(イ) システム開発と運用

システム基本設計・詳細設計	平成 5 年度
---------------	---------

システム運用開始	平成 7 年度
システム更新	平成 13 年度、平成 17～18 年度、平成 23 年度

(ウ) 稼動しているシステム（「デジタル・ミュージアム」）の内容

a 展示情報システムの内容

ミュージアムライブラリーに設置された 3 台の来館者用パソコンで提供。一部の資料については、高精細の拡大画像も提供。

従来、館内利用に限定されていた展示情報システムは、当館のホームページに掲載され、利用者が自宅や学校で閲覧可能(タイトルのうち、No2 絵馬、No5 水墨画、No11 収蔵コレクション、No12 神奈川の自然～No15 図書・雑誌検索は除く)。

No.	タイトル	内容
1	浮世絵	博物館所蔵の約 7,000 点ある浮世絵の中から、浮世絵の歴史、神奈川を描いた浮世絵、横浜浮世絵、著名な浮世絵師たち、一枚の絵から見る江戸時代の風俗など、テーマごとに選択した 230 点の浮世絵を紹介。
2	絵馬	神奈川県でよく見ることが出来る絵馬や珍しい絵馬など 125 点を紹介。
3	関東大震災	震災時の惨状等を伝える写真資料 70 点を紹介。
4	古地図	平成 9 年度に開催した古地図の特別展に出品された作品の中から代表的な作品 85 点を紹介。
5	水墨画	平成 10 年度に開催した水墨画の特別展に出品された作品の中から代表的な作品 85 点を紹介。
6	横浜正金銀行	かつて世界三大為替銀行の一つに数えられた横浜正金銀行の写真資料 221 点を紹介。
7	眞葛焼	かつて世界に名を知られた横浜の焼き物の中から 46 点を紹介。
8	後北条関係文書	戦国大名北条氏の多様な文書の世界を人物などとともに 118 点を紹介。
9	東海道分間絵図	東海道の情景を描いた道中案内記(1 件 5 冊)を紹介。拡大画像により、細部まで見る事が可能。
10	県有形民俗文化財 神奈川の職人の道具	神奈川県指定有形民俗文化財「神奈川の職人の道具コレクション」(17 職種 1,982 点)のうち、大山水地師小田原物差職人、下駄職人、傘職人の道具など、338 点を紹介。
11	収蔵コレクション	収蔵データベースの一部について、概要を一覧形式で提供する。 考古：206 点、彫刻：14 点、浮世絵：117 点
12	神奈川の自然	神奈川に生息する動植物、神奈川産の鉱物、相模湾の魚について、画像、解説文、分布図等をいろいろな検索方法で提供する。 鳥：218 種、植物：2,969 種、チョウ：110 種 トンボ：89 種、相模湾の魚：329 種、コケ：82 種 鉱物：126 種、関東ローマ層：1,013 点、菌類：164 種
13	日本で見られる恐竜	国内の博物館で展示されている恐竜について、画像や解説文を提供する。
14	酒井コレクション細密画	酒井恒博士夫妻が書かれたカニ原色細密画、660 種の画像を提供する。
15	図書・雑誌検索	生命の星・地球博物館のライブラリーで所蔵している図書 17,743 冊、雑誌 3,294 タイトルが検索できる。

※なお、No.12～15 は、神奈川県立生命の星・地球博物館が作成・提供。

b 業務システムの内容

・収蔵資料管理システム

収蔵品管理機能、画像登録機能、受入管理機能、特別利用管理運用機能、
各種帳票ラベル出力機能

・図書文献管理システム

(エ) システム構成

a 概要

- ・サーバOS : Red Hat Enterprise Linux ES v3、Windows Server 2008
- ・クライアントOS : Windows7

b 設置機器

(a) 情報処理室・電源室

収蔵システムサーバ 1 台、Web サーバ 1 台、展示情報用サーバ 1 台
アップデートサーバ 1 台、図書サーバ 1 台、作業用パソコン 7 台

(b) ミュージアムライブラリー

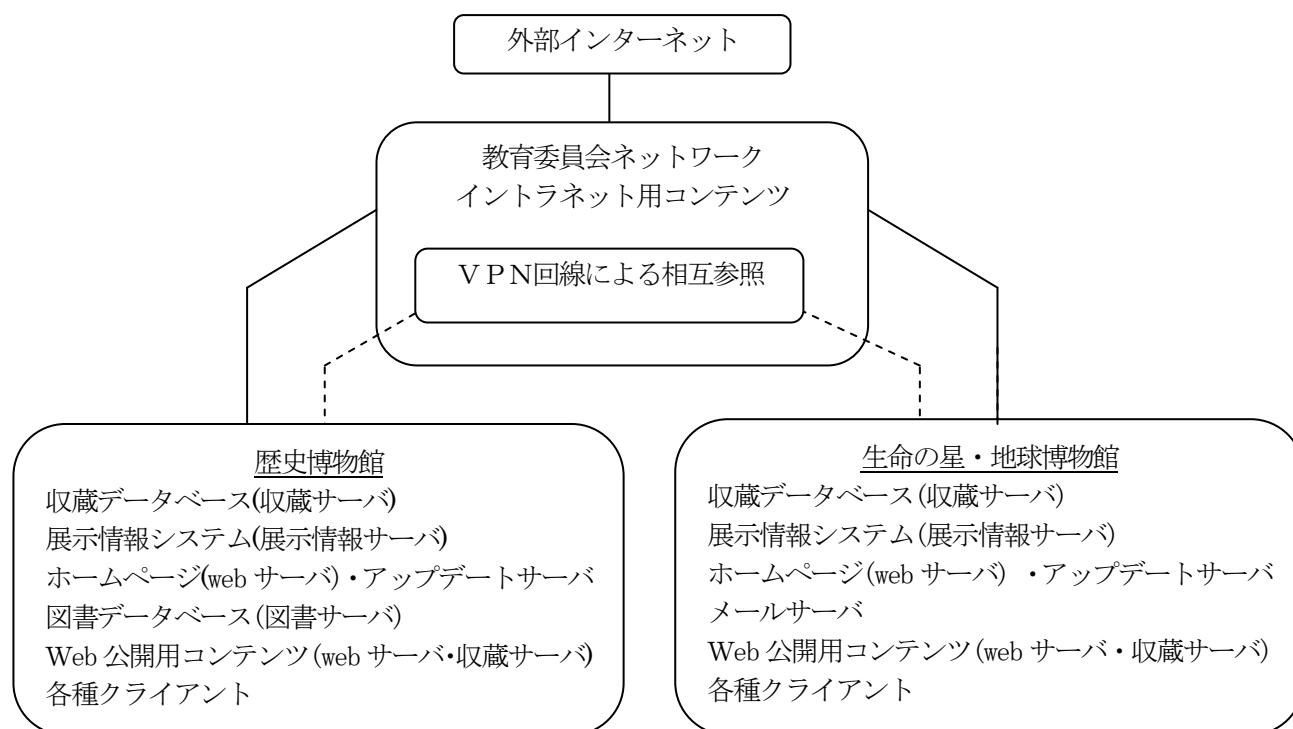
来館者用パソコン 3 台
レファレンス用パソコン 2 台

(c) 展示機材倉庫・印刷室

画像入力用パソコン 2 台

(d) 学芸部室・学芸部各資料整理室・管理課室・企画情報部室・図書資料整理室・写真室・暗室
各室作業用パソコン 計 41 台

(オ) 歴史博物館システム機器構成図



(カ) 歴史博物館ホームページ アクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HP	41,360	54,889	38,416	57,557	52,449	39,471	30,570	31,149	41,840	37,199	35,733	37,760	498,393
携帯	4,146	5,436	4,553	5,591	4,755	3,732	2,848	2,719	4,161	3,084	3,213	3,776	48,014
合計	45,506	60,325	42,969	63,148	57,204	43,203	33,418	33,868	46,001	40,283	38,946	41,536	546,407

参考(内数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
デジタル ミュージアム	3,024	4,787	3,853	3,959	5,104	3,744	3,179	3,021	3,746	3,175	3,257	3,509	44,358
子ども向け ページ	613	866	969	905	728	619	700	614	575	655	650	815	8,709

5 展示・教育普及・学習支援

(1) 常設展

当館の常設展示は「文化の交流と変容」という基本テーマに基づき、「かながわの文化と歴史」について、五つの時代に分け、それぞれのテーマのもとに、人々の生活や信仰、政治や経済の変化、外来文化の影響などを、さまざまな角度からとらえ、歴史的視点で展開している。

- 1 さがみの古代に生きた人びと
 - ・大地に生きる狩人
 - ・海への進出
 - ・米づくり、はじまる
 - ・古墳を築く
 - ・都とさがみの国
- 2 都市鎌倉と中世びと
 - ・源頼朝と東国武士団
 - ・戦国大名後北条氏
 - ・掘り起こされた鎌倉
 - ・唐物とその影響
 - ・民衆と仏教
- 3 近世の街道と庶民文化
 - ・宿場と関所
 - ・庶民信仰と名所めぐり
 - ・村の支配と生活
 - ・相武の産物と江戸
- 4 横浜開港と近代化
 - ・蒸気船が導いた新たな時代
 - ・世界へ開かれたみなと YOKOHAMA
 - ・文明開化の音
 - ・近代化と神奈川
 - ・横浜浮世絵に見る神奈川
 - ・横浜正金銀行
- 5 現代の神奈川と伝統文化
 - ・関東大震災を越えて
 - ・昭和恐慌と社会変化
 - ・戦時体制と敗戦
 - ・占領から講和へ
 - ・高度経済成長と環境の変化
 - ・メディアコミュニケーション
 - ・変貌する町と村
 - ・イエと暮らし
 - ・くらしの中の祈り
 - ・なりわいと儀礼
 - ・伝承される技術と芸能

(2) 特別展

ア 「御移転 100 年記念 能登から鶴見の地へ 曹洞宗大本山總持寺 名宝 100 選」

会 期：平成 23 年 4 月 16 日(土)～5 月 22 日(日)

主 催：曹洞宗大本山總持寺、鶴見大学仏教文化研究所、神奈川県立歴史博物館

後 援：毎日新聞社横浜支局、神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、読売新聞東京本社横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、tvk(テレビ神奈川)

展示資料件数：85 件

入場者数：13,139 名(有料 6,041 名、無料 7,098 名)

担 当：学芸部長 薄井 和男、学芸員 小井川 理

概 要： 現在、横浜市鶴見区に所在する曹洞宗大本山總持寺は、元亨元年(1321)、瑩山紹瑾禅師によって能登(現石川県輪島市)の地に開かれた古刹である。以来、能登にあって人々の信仰を集めていたが、明治 31 年(1898)、不慮の火災により伽藍の大部分が焼失したのを契機として、時代の推移と宗門の要請により同 44 年(1911)、横浜鶴見の地へ移転した。平成 23 年は、總持寺が横浜に移転して 100 年にあたり、これを記念して、總持寺の文化財を一堂に公開し、横浜

市民をはじめ、広く県民や首都圏の人々に紹介することを目的として、特別展を開催した。

展示では、第一章として、瑩山紹瑾頂相（重文）、前田利家夫人像（重文）などの能登伝来の品々を紹介した。第二章では、横浜移転後、実業家村井吉兵衛から寄進されたものなどを中心に近代蒐集の品々を紹介した。また、参考展示として、横浜移転前後の古写真や絵図を展示し、また現代の什具や僧具から曹洞宗大本山として寺内で受け継がれている修行の様子的一端を紹介した。開催にあたっては、能登の故地に所在する總持寺祖院より観音菩薩坐像の、また、直末寺である大船観音寺より観音菩薩立像の特別出品を受けた。

○特別展開連行事

①記念講演会Ⅰ（無料、ただし特別展観覧券が必要）

日 時：4月23日（土）14:00～16:00

演 題：「總持寺の歴史 ―中世を中心として―」

講 師：神奈川県文化財協会 会長（当時）、鶴見大学仏教文化研究所 顧問 納富 常天 氏

応募者：67名

受講者：56名

②記念講演会Ⅱ（無料、ただし特別展観覧券が必要）

日 時：5月7日（土）14:00～16:00

演 題：「三橋鎌岳作鎌倉彫前机修理報告」

講 師：鶴見大学 教授、鶴見大学仏教文化研究所 所員 加藤 寛 氏

応募者：59名

受講者：58名

③記念行事「大本山總持寺山内めぐり」

日 時：4月22日（金）14:00～16:00

見学先：大本山總持寺

講 師：講 師：大本山總持寺 寺僧及び大本山總持寺宝物殿 学芸員

応募者：86名

参加者：55名

④学芸員による展示解説

・第1回

日 時：4月24日（日）13:30～

講 師：学芸部長 薄井 和男

参加者：108名

・第2回

日 時：5月1日（日）13:30～

講 師：大本山總持寺宝物殿 学芸員 遠藤 ゆかり氏

参加者：50名

・第3回

日 時：5月8日（日）13:30～

講 師：学芸員 小井川 理

参加者：62名

・第4回

日 時：5月15日（日）13:30～

講 師：大本山總持寺宝物殿 学芸員 内藤 沙織氏

参加者：98名



○出品目録

(凡例) No、資料名、作者名、制作年代、技法・材質、所蔵等

- 1 瑩山紹瑾像（重要文化財） 元応元年(1319) 絹本着色 大本山總持寺
- 2 峨山韶碩像 江戸時代 絹本着色 大本山總持寺
- 3 象山徐芸像（横浜市指定文化財） 江戸時代 絹本着色 大本山總持寺
- 4 前田利家像（横浜市指定文化財） 江戸時代 絹本着色 大本山總持寺
- 5 前田利家夫人像（重要文化財） 江戸時代 絹本着色 大本山總持寺
- 6 釈迦三尊像 室町時代 絹本着色 大本山總持寺
- 7 釈迦三尊像 雲谷等璠 江戸時代 紙本墨画淡彩 大本山總持寺
- 8 十六羅漢像（横浜市指定文化財） 鎌倉時代 絹本着色 大本山總持寺 （※補作4幅は、豪潮寛海筆、江戸時代の作）
- 9 蘆葉達磨・墨梅図 中国・元時代 絹本墨画淡彩 大本山總持寺
- 10 三宝大荒神像 室町時代 紙本着色 大本山總持寺
- 11 提婆達多像（重要文化財） 朝鮮・高麗時代 紙本着色 大本山總持寺
- 12 日月蓮池図 朝鮮・李朝時代 絹本着色 大本山總持寺
- 13 鶴図板戸 佐藤紫煙筆 大正10年(1921) 板着色 大本山總持寺
- 14 釈迦如来坐像 中国・清時代か 木造 大本山總持寺
- 15 前田利家坐像 近代 木造 大本山總持寺
- 16 鎌倉彫前机 三橋鎌岳作 大正時代 大本山總持寺
- 17 刺繍獅子吼文大法被（パネル展示）（原品は重要文化財） 江戸時代 絹 大本山總持寺
- 18 六角形桐紋木画菓子器 明治時代 木造 大本山總持寺
- 19 観音堂縁起（重要文化財） 瑩山紹瑾筆 元亨元年(1321) 紙本墨書 大本山總持寺
- 20 定賢寺領敷地寄進状 元亨元年(1321) 紙本墨書 大本山總持寺
- 21 峨山韶碩置文 貞治3年(1364) 紙本墨書 大本山總持寺
- 22 峨山法嗣目録 貞治5年(1366) 紙本墨書 大本山總持寺
- 23 總持寺住山記 室町～明治時代 紙本墨書 大本山總持寺
- 24 伝光録 明和4年(1767) 紙本墨書 大本山總持寺
- 25 瑩山清規 明治4年(1871)以前 紙本版木 大本山總持寺
- 26 天童如浄和尚録（横浜市指定文化財） 鎌倉時代 紙本墨書 大本山總持寺
- 27 前田利家朱印状 天正18年(1590) 紙本墨書 大本山總持寺
- 28 能州諸嶽山總持禪寺図 江戸時代 紙本着色 大本山總持寺
- 29 大本山總持寺全景 大正11年(1922) 紙本版画 大本山總持寺
- 30 宝冠釈迦如来坐像 古代インドか 石造 大本山總持寺
- 31 達磨大師坐像 桃山～江戸時代 木造彩色 大本山總持寺
- 32 達磨大師坐像 江戸時代 木造彩色 大本山總持寺
- 33 小金銅仏（観音菩薩立像、観音菩薩半跏像、迦陵頻伽像） 中国・唐時代 銅造鍍金 大本山總持寺
- 34 愛染明王坐像 江戸時代 木造彩色 大本山總持寺
- 35 二王立像 江戸時代 木造 大本山總持寺
- 36 地藏菩薩立像 江戸時代 木造彩色 大本山總持寺
- 37 大黒天立像 江戸時代 木造 大本山總持寺
- 38 蔵王権現立像 平安時代 木造 大本山總持寺
- 39 蔵王権現立像 鎌倉時代 銅造 大本山總持寺
- 40 男神坐像 平安～鎌倉時代 木造彩色 大本山總持寺
- 41 大将軍神像 平安時代 木造 大本山總持寺
- 42 不動明王種子懸仏（横浜市指定文化財） 鎌倉時代 銅造 大本山總持寺
- 43 千手観音三尊懸仏 鎌倉時代 木造 大本山總持寺
- 44-1 多宝塔形舍利塔 江戸時代 銅造 大本山總持寺
- 44-2 蓮柱形舍利塔 江戸時代 銅造 大本山總持寺
- 44-3 蓮華形舍利塔 江戸時代 木造 大本山總持寺
- 45 五鈷鈴 鎌倉時代 銅造鍍金 大本山總持寺
- 46 蓮華唐草文柄香炉 南北朝時代 銅造鍍金 大本山總持寺
- 47 舟形光背 室町時代 銅造鍍金 大本山總持寺
- 48 浄瓶 朝鮮・高麗時代 銅造 大本山總持寺
- 49 浄瓶 朝鮮・高麗時代 銅造 大本山總持寺
- 50 蓮形香炉 香取秀真作 明治～大正時代 銅造鍍金 大本山總持寺
- 51 黄交趾焼香炉 永楽妙全作 明治～大正時代 陶器 大本山總持寺
- 52 真葛焼瓢形花器 二代香山 大正～昭和時代 大本山總持寺
- 53 九谷焼茶器 明治時代 磁器 大本山總持寺
- 54 釈迦十大弟子柵図屏風 棟方志功作 昭和14年(1939) 紙本木版 大本山總持寺
- 55 散華原画 加山又造筆 平成2年(1990) 紙本着色 大本山總持寺
- 56 観音菩薩坐像（輪島市指定文化財） 鎌倉～南北朝時代 木造彩色 總持寺祖院
- 57 観音菩薩立像（鎌倉市指定文化財） 平安時代 木造 大船観音寺
- 58 大香合 昭和時代 大本山總持寺
- 59 石川素堂禪師像 大正時代 大本山總持寺
- 60 金欄鳳凰亀甲文九条袈裟 大正4年(1915) 大本山總持寺

61 手磬 現代 大本山總持寺
62 戒尺 現代 大本山總持寺
63 鐺鉢 現代 大本山總持寺
64 懺法太鼓 現代 大本山總持寺
65 五鈺鈴 現代 大本山總持寺
66 頭鉢 現代 大本山總持寺
67 草履 現代 大本山總持寺
68 網代笠 現代 大本山總持寺
69 坐蒲 現代 大本山總持寺
70 払子 現代 大本山總持寺
71 如意 現代 大本山總持寺
72 笏 現代 大本山總持寺
73 中啓 現代 大本山總持寺

74 剃刀 現代 大本山總持寺
75 水晶念珠 明治時代 大本山總持寺
76 大磬子 現代 大本山總持寺
77 新境地写真 明治40年(1907) 大本山總持寺
78 繪葉書 明治44年(1911) 大本山總持寺
79 繪葉書 大正時代 大本山總持寺
80 繪葉書 大正時代 大本山總持寺
81 六百回大遠忌写真 大正時代 大本山總持寺
82 古写真 大正時代 大本山總持寺
83 繪葉書 昭和時代 大本山總持寺
84 總持寺焼失存区分図 明治31年(1898) 大本山總持寺
85 大本山總持寺全景 昭和37年(1962) 大本山總持寺

イ 「チャールズ・ワグマン来日 150 周年記念 ワグマンが見た海 ー洋の東西を結んだ画家」

会 期：平成 23 年 6 月 11 日(土)～7 月 31 日(日)

主 催：神奈川県立歴史博物館、神奈川新聞社

後 援：ブリティッシュ・カウンシル、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、産経新聞社横浜総局、
東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、NHK 横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)

協 力：船の科学館・海と船の博物館ネットワーク

展示資料件数：250 件

入場者数：12,452 名(有料 7,857 名、無料 4,595 名)

担 当：学芸員 角田 拓朗

概 要： 英国人画家チャールズ・ワグマンの来日 150 周年を記念して開催した。ワグマンをメインとして扱った展覧会は、平成 2 年に当館の前身である神奈川県立博物館時代に行ったが、今回はその後の調査研究成果を含めた新たな内容の展覧会となった。ワグマンだけではなく彼の弟子たちの作品もあわせて展示することで、彼の来日 150 年が、日本の洋画誕生 150 年であることをも示唆する内容とした。なお、本展の準備調査については、平成 22 年度鹿島美術財団からの調査研究助成を活用した。

また、特記すべき広報活動として、平成 23 年 5 月の大型連休時に「パンチの守」(ワグマンが『ジャパン・パンチ』誌面で自身を戯画化して描いたサムライ姿のキャラクター)の缶バッジを制作し無料配布した。また、神奈川新聞社との共催事業とすることにより、同社からポスター等の発送を行った。さらに神奈川芸術劇場における演劇公演の折に、特別展ならびに当館の告知看板を制作・掲示した。その他に、子供用リーフレットの制作・配布、関連するゴム印の制作・設置、ブログスタイルの特設ホームページの開設・配信(都合 21 回)、特製うちわの制作・配布、特製クリアファイルの制作・配布(その中には夏休みの自由研究対策のシートを入れた)なども行った。特別にあつらえたものは、すべて日本財団による助成金を活用したものである。

○特別展関連行事

①記念講演会(無料、ただし特別展観覧券が必要)

日 時：6 月 19 日(日) 14:00～16:00

演 題：「イギリスから見た日本風景 ーワグマンからコンドルへ」

講 師：ロンドン芸術大学 教授 渡辺 俊夫 氏

応募者：84 名

受講者：62 名

②県博セミナー(生涯学習課主管の県立機関活用講座、5 回連続、有料(5,000 円・1 回のみ受講の場合は 1,000 円)、14:00～16:00)

- ・全体テーマ：「かながわアートシーン」（応募者 46 名）
- ・第 1 回 7 月 2 日(土) (受講者 8 名)
「かながわの彫刻 ―横須賀の彫刻さんぽ―」横須賀美術館 学芸員 杓沢 耕介 氏
- ・第 2 回 7 月 9 日(土) (受講者 13 名)
「かながわの洋画 ―真鶴と中川一政―」真鶴町立中川一政美術館 主任学芸員 新井 人志 氏
- ・第 3 回 7 月 16 日(土) (受講者 13 名)
「かながわの日本画 ―湘南地域を中心に―」平塚市美術館 主任学芸員 勝山 滋 氏
- ・第 4 回 7 月 23 日(土) (受講者 24 名)
「かながわの美術のはじまり ―ワーグマンとその時代―」世田谷美術館 館長 酒井 忠康 氏
- ・第 5 回 7 月 30 日(土) (受講者 14 名)
「版画でたどる横浜の美術」横浜美術館 特任研究員 猿渡 紀代子 氏

③港ヨコハマ・ツアー(無料、ただし特別展観覧券が必要)

- ・第 1 回 馬車道コース(応募者 42 名、参加者 32 名)
日 時：6 月 12 日(日) 16:00～17:00
見学先：当館を出発し、馬車道界隈の旧跡をめぐりながら、吉田橋まで
講 師：学芸員 角田 拓朗
- ・第 2 回 港コース(応募者 44 名、参加者 29 名)
日 時：7 月 18 日(月・祝) 16:00～17:00
見学先：当館を出発し、海岸通り沿いの旧跡をめぐりながら、象の鼻パークまで
講 師：学芸員 角田 拓朗

④子ども向け港ヨコハマ・ツアー(無料、ただし特別展観覧券が必要) (応募者 12 名、参加者 10 名)

- 日 時：6 月 26 日(日) 16:00～17:00
見学先：館を出発し、クイズ型式で旧跡をめぐりながら、象の鼻パークまで
講 師：学芸員 角田 拓朗

⑤学芸員による展示解説

- ・第 1 回
日 時：6 月 12 日(日) 13:30～
講 師：学芸員 角田 拓朗
参加者：47 名
- ・第 2 回
日 時：6 月 26 日(日) 13:30～
講 師：学芸員 角田 拓朗
参加者：33 名
- ・第 3 回
日 時：7 月 10 日(日) 13:30～
講 師：学芸員 角田 拓朗
参加者：32 名
- ・第 4 回
日 時：7 月 16 日(土) 10:30～
講 師：学芸員 角田 拓朗
参加者：11 名
- ・第 5 回
日 時：7 月 17 日(日) 13:30～
講 師：学芸員 角田 拓朗
参加者：32 名
- ・第 6 回
日 時：7 月 18 日(月・祝) 13:30～



- 講 師：学芸員 角田 拓郎
 参加者：24 名
- ・第7回
 日 時：7 月 23 日(土) 10:30～
 講 師：学芸員 角田 拓郎
 参加者：24 名
 - ・第8回
 日 時：7 月 24 日(日) 13:30～
 講 師：学芸員 角田 拓郎
 参加者：90 名
 - ・第9回
 日 時：7 月 30 日(土) 10:30～
 講 師：学芸員 角田 拓郎
 参加者：84 名
 - ・第10回
 日 時：7 月 31 日(日) 13:30～
 講 師：学芸員 角田 拓郎
 参加者：105 名

○出品目録

(凡例) No.、作者名、資料名、制作年代、所蔵。なお、1-x、2-x と記された番号の作者はすべてチャールズ・ワーグマンであり、その表記を割愛した。また、当館所蔵作品については、その所蔵表記を割愛した。

1-1 マルセイユ、忙しそうな港の風景 1857 年	1-28 セイロン、ガレでの生活 1857 年
1-2 嵐の日、昼食後の船尾 1857 年	1-29 仕事中の中国人の床屋たち 1857 年
1-3 ヴアレッタ号の喫煙室 1857 年	1-30 香港の羽根つき 不詳
1-4 馬車で砂漠を横断するくじ引き 1857 年	1-31 中国でのスケッチ 1857 年
1-5 ヴアレッタでのスケッチ 1857 年	1-32 香港で軍服の試作 不詳
1-6 スエズ、ヴェランダでのスケッチ 1857 年	1-33 軍服の試作 不詳
1-7 カイロでの捌く有蓋馬車 1857 年	1-34 第 59 マドラス人歩兵連隊の夏の服装 不詳
1-8 砂漠の駅 1857 年	1-35 香港のむしろ小屋の内部 1857 年
1-9 スビアの少年たち 1857 年	1-36 中国のミュージカル 1857 年
1-10 砂漠の旅の楽しみ 1857 年	1-37 香港の苦力の駕籠かき 1857 年
1-11 マルタ、アレキサンドリア間 1857 年	1-38 香港でサンパンを漕ぐ女 1857 年
1-12 アレキサンドリアの鉄道駅で 1857 年	1-39 雨合羽の中国人 1857 年
1-13 カイロのシェパードホテル 1857 年	1-40 楽隊の演奏を見る英国人と中国人 不詳
1-14 現状のカイロシェパードホテル 1857 年	1-41 香港の子守女 1857 年
1-15 カイロのホテル経営者シェパード氏 1857 年	1-42 香港で演奏する軍楽隊 1857 年
1-16 カイロで 1857 年	1-43 サンパン (中国の船) 1857 年
1-17 スエズの喫茶店での英国士官候補生 1857 年	1-44 香港の商人ジャンク 不詳
1-18 スエズの波止場で荷降ろし 1857 年	1-45 中国の夕食の宴 1857 年
1-19 紅海での平穏な朝 1857 年	1-46 床屋の店先 1857 年
1-20 紅海での船上 1857 年	1-47 ジャーディン地点からの香港 1857 年
1-21 アデンの海岸 1857 年	1-48 香港のギルマンズバザール 1857 年
1-22 シンガポールの英国水兵たち 1857 年	1-49 香港の中国人の家の内部 1857 年
1-23 香港でジグを踊る気ままな日 不詳	1-50 中国の少女たち 1857 年
1-24 インド洋、熱帯の午後 1857 年	1-51 香港の少女 不詳
1-25 北京からの阿片の荷降ろし 1857 年	1-52 香港の赤ん坊を背負ったボートの少女 不詳
1-26 チョウ・チョウ (中国の食事) 1857 年	1-53 中国の少年 不詳
1-27 セポイの料理店 1857 年	1-54 中国の二人の少年たち 不詳

1-55 香港での収穫 1857 年
1-56 マカオの商船 不詳
1-57 コミッショナー 葉 (YEH) 不詳
1-58 広東川の船艦で祈りをする乗組員 1857 年
1-59 香港の寺 1857 年
1-60 海兵隊の食堂として使われた寺 不詳
1-61 広東へ向かうミリタリー・トレイン 不詳
1-62 北ワントング砦からのタイガー島 1857 年
1-63 広東への移動、ボーグ砦に旗艦の到着 1857 年
1-64 バンテラー号に乗船する海兵隊員 不詳
1-65 海兵旅団の外観 不詳
1-66 物売り船の男と子供 1857 年
1-67 戦い、戦艦での砲の発射 1857 年
1-68 マカオ砦の食堂 不詳
1-69 商売 1857 年
1-70 第 70 ベンガル人連隊 1857 年
1-71 布告を読むその地の住人 不詳
1-72 水から数ヤード 不詳
1-73 外国人居留地で首を切る“勇者たち” 1857 年
1-74 料金を規定する 1857 年
1-75 第 70 ベンガル人連隊 不詳
1-76 南京 1857 年
1-77 広東、ホナンに海兵隊上陸 1857 年
1-78 広東の砲撃 1857 年
1-79 広東、軍隊の上陸 1857 年
1-80 城壁を登る 不詳
1-81 広東のミリタリー・トレイン 1857 年
1-82 教会での水曜日の夕方 不詳
1-83 広東、上陸地点でのスケッチ 不詳
1-84 海兵隊上陸のスケッチ 1857 年
1-85 新年のプレゼント 1858 年
1-86 広東の東門 1858 年
1-87 広東城のイギリスの仮の士官宿舎 1858 年
1-88 広東東門第 2 旅団の本部 1858 年
1-89 香港、ヘラクレス号上の負傷者 1858 年
1-90 クリスマスの日の南京号上の病室 不詳
1-91 広東城壁上のキャンプ 不詳
1-92 広東、旧上陸地点 1858 年
1-93 香港のレース・コース、ハッピーヴァレイ 1858 年
1-94 香港のレースに向かう群衆 1858 年
1-95 香港の競馬レース、中国人騎手のスタート 1858 年
1-96 香港のレース、1 シリングのスタンド 1858 年
1-97 中国服のタイムス社特派員の様相 不詳
1-98 広東の米の配給 1858 年
1-99 広東の英国と中国の警官 1858 年
1-100 ホナンからの広東 1858 年
1-101 広東、ホナンの上陸地 1858 年
1-102 広東、政庁上陸地を望む 1858 年
1-103 スミス アンド ブライムロウ社 不詳
1-104 広東からファンポアを望む 不詳

1-105 広東の港の船 不詳
1-106 南東の自治都市から見た本部 不詳
1-107 広東の南東のアングル 不詳
1-108 広東のサトウキビ売り 不詳
1-109 広東の城壁で煮炊きする水兵 不詳
1-110 苦力たちが招集される広東の南城壁 1858 年
1-111 小部屋を打ち壊す 1858 年
1-112 南ワントングの入口 不詳
1-113 バンテラーの病院に向かう負傷者 不詳
1-114 ベンガル兵髪を剃る 1858 年
1-115 上陸地点のベンガル兵の歩哨 不詳
1-116 糧食供給の店のパニック 1858 年
1-117 広東における総攻撃 不詳
1-118 広東、ヨーロッパ人の地域煙にまかれる 1858 年
1-119 家を押し倒す日々の仕事 1858 年
1-120 広東、阿片喫煙の私室の内部 1858 年
1-121 中国婦人 不詳
1-122 北京風景 1860 年 郡山市立美術館
□ 『イラストレイテッド・ロンドン・ニューズ』1857-1882
当館・横浜開港資料館
2-1 オールコック 著・ワーグマン 挿画 『大君の都 The Capital of Tycoon』 1863 年
2-2 生麦事件 不詳 福富太郎コレクション資料室
2-3 自画像 不詳 東京藝術大学
2-4 自画像 不詳 東京藝術大学
2-5 若い女の肖像 不詳 栃木県立美術館
2-6 妻カネ 不詳 神奈川県立近代美術館
2-7 ある女 1863(文久 3)年 神戸市立博物館
2-8 少女 不詳 東京藝術大学
2-9 五姓田芳柳像 不詳 東京藝術大学
2-10 茶屋女 1876(明治 9)年 栃木県立美術館
2-11 お文さん 不詳 神戸市立博物館
2-12 座る婦人 不詳 横浜美術館
2-13 あめ売り 不詳 東京国立博物館
2-14 西洋紳士スケッチの図 1870 年代 郡山市立美術館
2-15 腰越風景 1872-76(明治 5-9)年 東京国立博物館
2-16 海岸風景 不詳 栃木県立美術館
2-17 富士遠望図 1876(明治 9)年以後 静岡県立美術館
2-18 箱根風景 不詳 福富太郎コレクション資料室
2-19 江ノ島 不詳 藤沢市文書館
2-20 街道 1857 年
2-21 宿場 不詳
2-22 鳥 不詳 栃木県立美術館
2-23 薔薇 不詳 東京藝術大学
2-24 剣道 1864(文久 4)年 神戸市立博物館
2-25 日本伊達姿 不詳 神戸市立博物館
2-26 二人の日本人女性 不詳 神奈川県立近代美術館
2-27 女兒舞踏 不詳 東京藝術大学
2-28 婦人坐像 不詳 東京藝術大学
2-29 髪結 不詳 東京藝術大学

2-30 若い女 不詳 郡山市立美術館
 2-31 座る日本女性 不詳 郡山市立美術館
 2-32 ふたりの日本女性 不詳 郡山市立美術館
 2-33 物売り 不詳 郡山市立美術館
 2-34 水汲み 不詳 郡山市立美術館
 2-35 番頭 不詳 東京藝術大学
 2-36 飛脚 不詳 東京藝術大学
 2-37 舟遊び 1876(明治9)年 横浜美術館
 2-38 室内 1873(明治6)年 横浜美術館
 2-39 浪華明輝楼 不詳 神戸市立博物館
 2-40 大坂市中風景 不詳 福富太郎コレクション資料室
 2-41 横浜大火 不詳 福富太郎コレクション資料室
 2-42 横浜街頭 1877(明治10)年 神戸市立博物館
 2-43 大名行列品川通行之図 1877(明治10)年 個人(横須賀美術館寄託)
 2-44 美濃国地獄谷景 不詳 個人(横須賀美術館寄託)
 2-45 新潟の家 1870(明治3)年 東京国立博物館
 2-46 善光寺風景 1870(明治3)年 福富太郎コレクション資料室
 2-47 風景 不詳 東京藝術大学
 2-48 下仁田風景 1870(明治3)年
 2-49 中山道 1870(明治3)年
 2-50 街道 不詳
 2-51 風景 不詳
 2-52 風景 不詳
 2-53 鉄砲を撃つ男 不詳
 2-54 縫物をする女 不詳
 2-55 腰かける少女 不詳
 2-56 子守 1876(明治9)年
 2-57 傘をさす女 不詳
 2-58 小おんな 1876(明治9)年
 2-59 洗濯する女 1876(明治9)年
 2-60 水汲み 1876(明治9)年
 2-61 洗濯する女 1876(明治9)年
 2-62 外国婦人像 1876(明治9)年
 2-63 傘をさす女 1876(明治9)年
 2-64 船 不詳
 2-65 少女 不詳
 2-66 少年 不詳
 2-67 3人の子供 不詳
 2-68 人物 不詳
 2-69 邏卒 不詳
 2-70 男 不詳
 2-71 人物 不詳
 2-72 人物その他 不詳
 2-73 髪結い 不詳
 2-74 人物 不詳
 2-75 人物 不詳
 2-76 子守 不詳 横浜開港資料館
 2-77 女中たち 不詳

2-78 人物 不詳
 2-79 雲 不詳
 2-80 雲 不詳
 2-81 本牧風景 1885(明治18)年
 2-82 チャールズ・ワーグマン画/F.ベアト撮影 ワーグマン
 スケッチ写真帖 不詳
 2-83 チャールズ・ワーグマン挿画 レイ夫人の世界周遊日記
 1881-82(明治14-15)年 横浜開港資料館
 2-84 『A Sketch Book of Japan』 1884(明治17)年 横浜
 開港資料館
 □ チャールズ・ワーグマン『ジャパン・パンチ』1862-1885
 山手資料館・当館
 □ 本多錦吉郎著発行『追弔記念 洋風美術家小伝』1908(明
 治41)年
 □ F.ベアト 写真集「日本風俗写真帖」 不詳 横浜開港資
 料館
 □ 佐々木茂市『日本絵入商人録』 1886(明治19)年
 □ ワーグマン所蔵短刀 1870(明治2)年 個人
 □ ワーグマン使用画架 不詳 東京藝術大学
 3-1 高橋由一 写生帖 2 1868(明治元)年ほか 東京藝術大
 学
 3-2 高橋由一 相州江之島図 1873-75(明治6-8)年 個人
 (横須賀美術館寄託)
 3-3 高橋由一 スケッチブック 1869(明治2)年ほか 東京
 藝術大学
 3-4 五姓田義松 自画像(十三歳) 1868(明治元)年 東京
 藝術大学
 3-5 五姓田義松 五姓田一家之図 不詳
 3-6 五姓田義松 ワーグマン画作像 不詳
 3-7 五姓田義松 人物 不詳 東京藝術大学
 3-8 五姓田義松旧蔵作品群
 (1) 人物 不詳
 (2) 洗濯女 不詳
 (3) 祭礼風景 不詳
 (4) 粉をひく女 不詳
 (5) 眠る女 不詳
 (6) 児を背負う女 不詳
 (7) あんま 不詳
 (8) 花魁 不詳
 (9) 饅頭傘の男 不詳
 (10) 裸婦 不詳
 (11) 憩う女 不詳
 (12) 官軍の兵士 不詳
 (13) 裸婦習作 不詳
 (14) 中国人 不詳
 (15) 中国服の女/労働者たち 不詳
 (16) 富士遠景 不詳
 (17) 社寺風景 不詳
 (18) 街の見える風景 不詳
 (19) 浅草仁王門 不詳

(20) 浅草濡仏 不詳
 (21) 五重塔 不詳
 3-9 五姓田義松 浅草仁王門 不詳
 3-10 五姓田義松 表情 不詳
 3-11 五姓田義松 老母図 1875(明治8)年
 3-12 五姓田義松 病人 1875(明治8)年
 3-13 五姓田義松 病人 1875(明治8)年
 3-14 五姓田義松 横浜西太田ノ村落 1872(明治5)年
 3-15 五姓田義松 横浜根岸相沢村 1872(明治5)年
 3-16 五姓田義松 横浜西太田村農婦 1873(明治6)年
 3-17 五姓田義松 横浜ヨリ神奈川台ヲ望 不詳
 3-18 五姓田義松 従横浜神奈川遠望 1873(明治6)年
 3-19 五姓田義松 神奈川遠景 不詳
 3-20 初代五姓田芳柳 馬図 1876(明治9)年 個人
 3-21 渡辺幽香 植木棚の少女 不詳 東京国立博物館
 3-22 二世五姓田芳柳 国府台風景図屏風 1882(明治15)年
 3-23 田村宗立 東山暮雪 不詳
 3-24 平木政次 富士 1897(明治30)年 静岡県立美術館
 3-25 山本芳翠 富士山 不詳
 3-26 小澤一郎 甲州船津 1911(明治44)年
 3-27 小澤一郎 甲州日の春八ツヶ岳 1911(明治44)年
 3-28 C.B. バーナード 百段 不詳
 3-29 C.B. バーナード 本牧十二天 不詳
 3-30 C.B. バーナード 風景 不詳
 3-31 C.B. バーナード 風景 不詳
 3-32 渡辺幽香 『大日本帝国古今風俗 寸陰漫光』 1886(明治19)年
 3-33 渡辺幽香 『大日本風俗漫画』 1887(明治20)年 個

人
 3-34 浅井忠・柳源吉 『A Pictorial Museum of Japanese Manners & Customs』 1887(明治20)年 個人
 3-35 高橋由一 『西洋画譜初編』 1874(明治7)年
 3-36 小山正太郎・狩野友信・近藤正純編 『図画臨帖』 1883(明治16)年
 3-37 山下三子(著) ワーグマン(校) 『画学規範』 1884(明治17)年
 3-38 河鍋曉斎・仮名垣魯文 『絵新聞日本地』 1874(明治7)年
 3-39 河鍋曉斎 名鏡倭魂新板 1874(明治7)年 河鍋曉斎記念美術館
 3-40 小林清親 東京深川洲崎清親法夢痴 不詳 宮尾しげを記念會
 3-41 小林清親 両国ゑこういん清親ぼんち 不詳 宮尾しげを記念會
 3-42 小林清親 御東景双六 1895(明治28)年 宮尾しげを記念會
 3-43 楊斎延一 滑稽ボンチ絵内地雑居寿語録 1899(明治32)年 宮尾しげを記念會
☐ 宮尾しげを 漫画暦 1957-58(昭和32-33)年 宮尾しげを記念會
☐ ボンチ祭写真 1954(昭和29)年頃 宮尾しげを記念會
☐ ワーグマン墓地写真 不詳 宮尾しげを記念會
☐ ワグマン遺作展覧会目録 1937(昭和12)年 個人

ウ 「竹と民具 一竹とともに暮らすー」

○会 期：平成23年9月10日(土)～11月6日(日)

○主 催：神奈川県立歴史博物館

○後 援：神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、NHK 横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)

○展示資料件数：394 件

○入場者数：8,924 名(有料2,859 名、無料6,065 名)

○担 当：専門員 長田 平、専門員 鈴木 通大

○概 要： 私たちが日常生活に使用してきた伝統的な民具の多くは、木をはじめとして竹・藁・石など身近にある素材を利用して作られてきた。中でも竹はカゴやザルをはじめとし、生活のさまざまな場面で竹の持つ特性を巧みに活かして利用されてきた。しかし、生活様式の変化やプラスチック製品の普及によって、竹製の民具の多くが私たちの生活から消えていった。本展覧会では、カゴ・ザルをはじめ、稈(茎が中空のもの)を利用した道具、節を利用した道具、弾力性を利用した道具など、先人たちが竹の特性を活かして生み出したさまざまな「竹の民具」を紹介し、竹とともに暮らしてきた日本人と竹とのかかわりを見直した。

○特別展開連行事

①記念講演会(無料、ただし特別展観覧券が必要)

日 時：9月11日(日) 14:00～16:00

演 題：「竹の文化からみた日本列島の文化」

講 師：鹿児島県歴史資料センター黎明館 前学芸課長 川野 和昭 氏

応募者：104

受講者：68 名

②県博講座（無料、ただし特別展観覧券が必要）

・全体テーマ：「竹と民具」（応募者 46 名）

・第 1 回 10 月 1 日（土）（受講者 32 名）

「竹と民具」専門員 長田 平

・第 2 回 10 月 8 日（土）（受講者 30 名）

「竹と農具」相模原市立博物館 学芸員 加藤 隆志 氏

・第 3 回 10 月 15 日（土）（受講者 28 名）

「竹と漁撈」大磯町郷土資料館 館長 佐川 和裕 氏

・第 4 回 10 月 22 日（土）（受講者 30 名）

「竹と信仰」専門員 鈴木 通大

③子ども向けワークショップ「竹で遊ぼう」（無料、ただし保護者の方は特別展観覧券が必要）

日 時：10 月 2 日（日）13:30～15:30

講 師：竹細工師 柳田 喜代松 氏

参加者：17 名（親子 6 組）

④学芸員による展示解説

・第 1 回

日 時：9 月 18 日（日）13:30～

講 師：専門員 長田 平

参加者：28 名

・第 2 回

日 時：10 月 9 日（日）13:30～

講 師：専門員 鈴木 通大

参加者：53 名

・第 3 回

日 時：10 月 23 日（日）13:30～

講 師：専門員 鈴木 通大

参加者：25 名

・第 4 回

日 時：10 月 30 日（日）13:30～

講 師：専門員 長田 平

参加者：12 名



○出品目録

（凡例） No.、指定、資料名、点数、寸法、所蔵

（指定は●は国指定重要有形民俗文化財、◎は神奈川県指定有形民俗文化財、○は川崎市重要郷土資料）

（点数は同一 No. 中に複数の資料がある場合に記載）

（寸法は最大値を径（φ）、幅（w）、奥行（d）、長さ（ℓ）、高さ（h）で表示し、単位はミリメートル）

1 水筒 φ90×h635 神奈川県立歴史博物館	6 麻雀牌 10 w19×d16×h25 個人
2 竹筆 3 φ23×ℓ775 富士竹類植物園	7 馬連 2 φ165 神奈川県立歴史博物館
3 チャブチャブ w45×ℓ340×h69 国立民族学博物館	8 蛇籠（模型） 2 φ105×ℓ600 八王子市郷土資料館
4 物差し 4 w22×ℓ757 神奈川県立歴史博物館	9 ササラ 2 φ37×ℓ240 個人
5 天秤棒 w52×ℓ1263 国立民族学博物館	10 鳥籠 w260×d265×h340 神奈川県立歴史博物館

11 箆 $\phi 325 \times h110$ 神奈川県立歴史博物館
 12 栗野下駄 $w140 \times \phi 230 \times h48$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 13 本南部表 $w80 \times \phi 210 \times h6$ 神奈川県立歴史博物館
 14 竹下駄 $w130 \times \phi 230 \times h60$ 富士竹類植物園
 15 竹下駄 $w140 \times \phi 230 \times h48$ 富士竹類植物園
 16 竹皮草履 $w94 \times \phi 240$ 神奈川県立歴史博物館
 17 竹皮草履 $w80 \times \phi 235$ 神奈川県立歴史博物館
 18 竹皮笠 $\phi 510 \times h180$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 19 洗濯挟 5 $\phi 15 \times \phi 89$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 20 伸子 3 $w17 \times \phi 385$ 神奈川県立歴史博物館
 21 柄杓 $\phi 99 \times \phi 523 \times h103$ 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 22 マンネン $\phi 115 \times \phi 545 \times h106$ 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 23 汁杓子 $\phi 40 \times \phi 440 \times h80$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 24 柄杓 $\phi 140 \times \phi 540 \times h99$ 神奈川県立歴史博物館
 25 鯉鮓掬い $\phi 59 \times \phi 370 \times h65$ 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 26 ギリシラズ $\phi 65 \times \phi 300 \times h55$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 27 煮込掬い $\phi 55 \times \phi 305 \times h80$ 神奈川県立歴史博物館
 28 マゴデ $\phi 30 \times \phi 345 \times h75$ 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 29 煮込掬い $\phi 43 \times \phi 282$ 神奈川県立歴史博物館
 30 鯉鮓かき・鯉鮓箸 $w51 \times \phi 180 \times h18$ 国立民族学博物館
 31 テメエガッテ $\phi 80 \times \phi 250$ 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 32 鯉鮓掬い $\phi 56 \times \phi 167$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 33 鯉鮓掬い $\phi 20 \times w115 \times \phi 238$ 神奈川県立歴史博物館
 34 飯櫃 $\phi 200 \times h120$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 35 飯櫃 $\phi 240 \times h150$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 36 酒器 $\phi 120 \times w190 \times h243$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 37 酒入 $\phi 120 \times w185 \times h163$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 38 酒の爛徳利 $\phi 62 \times h375$ 富士竹類植物園
 39 酒器と盃（酒器） $\phi 77 \times h260$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 （盃）3 $\phi 41 \times h39$
 40 タカンボと盃（タカンボ） $\phi 45 \times \phi 785$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 （盃）2 $\phi 40 \times h40$
 41 竹椀 5 $\phi 90 \times h60$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 42 茶樽 $\phi 235 \times h312$ 神奈川県立歴史博物館
 43 水入 $\phi 83 \times h490$ 神奈川県立歴史博物館
 44 水筒 $\phi 132 \times h230$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 45 水樽 $\phi 100 \times h423$ 国立民族学博物館
 46 水汲 $\phi 110 \times \phi 695$ 国立民族学博物館
 47 竹筒水入 $\phi 110 \times \phi 990$ 国立民族学博物館
 48 竹筒水入 $\phi 195 \times \phi 410$ 国立民族学博物館

49 野良弁当の箸入 $\phi 40 \times h275$ 神奈川県立歴史博物館
 50 節米器 $\phi 39 \times h180$ 個人
 51 ササラ $w87 \times h180$ 神奈川県立歴史博物館
 52 箸 $\phi 231$ 神奈川県立歴史博物館
 53 宿場箸 $\phi 341$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 54 箸 $\phi 230$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 55 菜箸 $\phi 8 \times \phi 330$ 個人
 56 菜箸 $w11 \times \phi 232$ 個人
 57 竹串 5 $w5 \times \phi 400$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 58 御略串 3 $w7 \times \phi 228$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 59 オニオロシ $w197 \times \phi 460 \times h43$ 神奈川県立歴史博物館
 60 オニオロシ $w147 \times \phi 365 \times h35$ 神奈川県立歴史博物館
 61 大根下ろし $w80 \times \phi 256 \times h25$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 62 下ろし $w185 \times \phi 290 \times h40$ 個人
 63 芋洗い籠 $\phi 175 \times \phi 1450 \times h420$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 64 シオビク $\phi 200 \times h400$ 国立民族学博物館
 65 シオテゴ $\phi 275 \times h420$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 66 シホカゴ $\phi 200 \times h320$ 国立民族学博物館
 67 ゴハンカゴ $\phi 310 \times h200$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 68 マルカゴ $\phi 360 \times h350$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 69 弁当箱 2 $w305 \times d130 \times h82$ 神奈川県立歴史博物館
 70 化粧箱 $w205 \times d145 \times h60$ 個人
 71 食品包装用竹皮 $w160 \times \phi 525$ 個人
 72 灰筒 $\phi 62 \times h103$ 神奈川県立歴史博物館
 73 灰筒 $\phi 41 \times h122$ 神奈川県立歴史博物館
 74 箆 $w260 \times d270 \times h100$ 国立民族学博物館
 75 六郷箆 $w445 \times h120$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 76 箆 $\phi 340 \times h230$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 77 箆 $\phi 375 \times h230$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 78 カマ箆 $\phi 470 \times h275$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 79 米揚げ箆 $\phi 350 \times h200$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 80 盆箆 $\phi 283 \times h30$ 神奈川県立歴史博物館
 81 九州箆 $\phi 231 \times h100$ 神奈川県立歴史博物館
 82 研ぎ箆 $\phi 387 \times h220$ 神奈川県立歴史博物館
 83 米箆 $\phi 438 \times h325$ 神奈川県立歴史博物館
 84 揚げ箆 $\phi 455 \times h300$ 相模原市立博物館
 85 米揚げ箆 $\phi 340 \times h180$ 八王子市郷土資料館
 86 米揚げ箆 $w360 \times \phi 470 \times h140$ 八王子市郷土資料館
 87 マルクチ $w290 \times \phi 244 \times h125$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 88 米揚げ箆 $w360 \times d445 \times h145$ 武蔵野美術大学美術館・図書館
 89 米揚げシヨウケ $w570 \times d630 \times h190$ 国立民族学博物館
 90 ソーケ $w480 \times d560 \times h220$ 国立民族学博物館
 91 箆 $w420 \times d460 \times h170$ 国立民族学博物館
 92 糯米用シヨウケ $w360 \times d300 \times h130$ 国立民族学博物館
 93 トイカキ $\phi 495 \times h210$ 武蔵野美術大学美術館・図書館

94 イカケ φ490×h150 武蔵野美術大学美術館・図書館
 95 三角ジョウケ w400×d410×h130 武蔵野美術大学美術館・図書館
 96 米揚げ箆 φ700×h185 武蔵野美術大学美術館・図書館
 97 片口ジョウケ w165×d515×h75 武蔵野美術大学美術館・図書館
 98 米揚げジョウケ φ550×h95 武蔵野美術大学美術館・図書館
 99 自在鉤 φ60×l1480 武蔵野美術大学美術館・図書館
 100 自在鉤 φ80×l1338 神奈川県立歴史博物館
 101 ズデカギ φ60×l1280 武蔵野美術大学美術館・図書館
 102 団扇差し φ63×h805 神奈川県立歴史博物館
 103 杓文字差し φ67×h930 神奈川県立歴史博物館
 104 杓文字差し φ64×h632 武蔵野美術大学美術館・図書館
 105 ボロヒナワ φ55×l260 国立民族学博物館
 106 ブドクスベ w35×l167 武蔵野美術大学美術館・図書館
 107 火吹竹(左) φ30×l455 武蔵野美術大学美術館・図書館
 火吹竹(右) φ25×l450
 108 アラクマデ φ27×w411×l1410 神奈川県立歴史博物館
 109 竹箆 φ35×w385×l1670 個人
 110 種入 φ77×h280 神奈川県立歴史博物館
 111 ● 刺し 2 φ58×l315 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 112 米刺し φ24×l440 国立民族学博物館
 113 刺し φ47×l235 神奈川県立歴史博物館
 114 刺し φ30×l272 神奈川県立歴史博物館
 参考 刺し(金属製) φ29×l369 神奈川県立歴史博物館
 115 実扱 φ33×l583 神奈川県立歴史博物館
 116 豆扱 φ24×l407 神奈川県立歴史博物館
 117 豆扱 φ15×l378 神奈川県立歴史博物館
 118 鋏叩き w18×l295 神奈川県立歴史博物館
 119 篋 w26×l219 神奈川県立歴史博物館
 120 鋏の泥落とし φ30×l242 神奈川県立歴史博物館
 121 クルリ棒 φ29×w230×l1480 川崎市市民ミュージアム
 122 ● 苗取り腰掛 φ287×h200 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 123 ヒョットコ w587×d273×h445 神奈川県立歴史博物館
 124 ● ユトウ w348×d288×h498 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 125 ツブテコワシ φ30×w305×l1650 神奈川県立歴史博物館
 126 ノメンボウ φ40×l1750 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 127 天秤棒 w55×l1670 国立民族学博物館
 128 天秤棒 w80×l1260 国立民族学博物館
 129 シバハキカゴ φ832×h1180 神奈川県立歴史博物館
 130 イモフリミケー φ280×h305 川崎市市民ミュージアム

131 オオカゴ φ415×h345 川崎市市民ミュージアム
 132 鼬捕獲器 φ66×w122 武蔵野美術大学美術館・図書館
 133 鼠捕り w630×l390×h290 国立民族学博物館
 134 竹縄 w638×d290×h910 神奈川県立歴史博物館
 135 竹縄 w15×l20000 神奈川県立歴史博物館
 136 タカナワ φ6 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 137 大生簀 φ1192×h1299 神奈川県立歴史博物館
 138 イキヨ・ハネ w1750×h1000 大磯町郷土資料館
 139 鯰籠 w670×d335×h180 大磯町郷土資料館
 140 魚籠 w190×h243 神奈川県立歴史博物館
 141 魚籠 φ256×h185 神奈川県立歴史博物館
 142 ○ 浮棒 2 φ26×l1183 川崎市市民ミュージアム
 143 メグシ 6 w10×l270 神奈川県立歴史博物館
 144 ○ 海苔のツメ 3 w100×l320 川崎市市民ミュージアム
 145 篋 w70×l77 神奈川県立歴史博物館
 146 ○ 海苔網用網針 3 w45×l270 川崎市市民ミュージアム
 147 海苔網用網針 w47×l390 海の博物館
 148 アンバリ w19×l184 神奈川県立歴史博物館
 149 アンバリ 4 w18×l192 神奈川県立歴史博物館
 150 網針入 φ88×l245 神奈川県立歴史博物館
 151 網針壺 φ37×h165 海の博物館
 152 道具入 φ43×h185 神奈川県立歴史博物館
 153 銚筒 φ46×l115 海の博物館
 154 ○ 鰻筒 φ65×l835 川崎市市民ミュージアム
 155 ツッポ φ77×l600 武蔵野美術大学美術館・図書館
 156 鰻筒 φ74×l1083 海の博物館
 157 蛸壺 φ115×l375 海の博物館
 158 蛸の生簀 φ100×l415 神奈川県立歴史博物館
 159 イシャリ w115×h170 海の博物館
 160 ビッタイ φ28×w725×l710 神奈川県立歴史博物館
 161 モジリ φ106×l687 神奈川県立歴史博物館
 162 カイベラ w53×l2565 海の博物館
 163 ササガシ w90×l2165 大磯町郷土資料館
 164 鰻漁のハネ φ35×l3930 海の博物館
 165 穴釣用の竿 w15×l1580 海の博物館
 166 鰻鎌 φ30×l1950 神奈川県立歴史博物館
 167 縄鉢 φ390×h72 大磯町郷土資料館
 168 ウケ φ80×h390 海の博物館
 169 ワク w134×h200 海の博物館
 170 ウラザオ l515 神奈川県立歴史博物館
 171 鮎籠 w168×l348×h45 神奈川県立歴史博物館
 172 江戸籠 w163×l382×h26 神奈川県立歴史博物館
 173 スバル φ55×h358 神奈川県立歴史博物館
 参考 シャゴマ(写真) w64×h160 海の博物館
 参考 スバリ w34×h90 神奈川県立歴史博物館
 174 シラスを干す用具 w42×h225 神奈川県立歴史博物館
 175 クマデ w95×h365 神奈川県立歴史博物館
 176 ○ 小箆 w161×d168×h64 川崎市市民ミュージアム

177 水筒 φ104×h400 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 178 折掛 w38×h112 神奈川県立歴史博物館
 179 折掛 w53×h330 相模原市立博物館
 180 神酒の筒 2 φ23×w97×h230 国立民族学博物館
 181 御神酒のスズ φ20×h84 国立民族学博物館
 182 神酒の口 3 φ20×h290 国立民族学博物館
 183 アワボ・ヒエボ 5 h290 神奈川県立歴史博物館
 184 湯灌用柄杓 φ134×φ510×h102 神奈川県立歴史博物館
 185 底抜け柄杓 2 φ68×φ450×h82 相模原市立博物館
 186 ビンザサラ 2 w190×d28×φ173 神奈川県立歴史博物館
 187 ササラ w220×d20×φ187 神奈川県立歴史博物館
 188 スリザサラ φ27×φ395 武蔵野美術大学美術館・図書館
 189 神棚 w775×d290×h551 大磯町郷土資料館
 190 神酒口(大宝船・鶴亀) w260×h330 府中市郷土の森博物館寄託
 191 神酒口(宝珠・一ツ玉) w75×h165 府中市郷土の森博物館寄託
 192 神酒口(三階松) w100×h215 府中市郷土の森博物館寄託
 193 神酒口(高砂) w120×h320 府中市郷土の森博物館寄託
 194 神酒口(月見兎) w80×h200 府中市郷土の森博物館寄託
 195 神酒口(万年青) w300×h260 府中市郷土の森博物館寄託
 196 神酒口(福の座) w160×h235 府中市郷土の森博物館寄託
 197 神酒口(茗荷) w60×h160 府中市郷土の森博物館寄託
 198 神酒口(万年青) w240×h385 府中市郷土の森博物館寄託
 199 神酒口(宝船・三ツ玉) w210×h250 府中市郷土の森博物館寄託
 200 神酒口(福寿草) w70×h200 府中市郷土の森博物館寄託
 201 神酒口(蝶々) w90×h145 府中市郷土の森博物館寄託
 202 神酒口(万年青・一ツ玉) w120×h220 府中市郷土の森博物館寄託
 203 神酒口(三ツ玉) w210×h190 府中市郷土の森博物館寄託
 204 神酒口(橘) w65×h220 府中市郷土の森博物館寄託
 205 神酒口(茗荷) w60×h140 府中市郷土の森博物館寄託
 206 神酒口(重ね玉) w120×h245 府中市郷土の森博物館寄託
 207 神酒口(三階松) w110×h225 府中市郷土の森博物館寄託
 208 神酒口(一ツ玉に海) w50×h135 府中市郷土の森博物館寄託
 209 神酒口(三ツ玉) w120×h205 府中市郷土の森博物館寄託

託
 210 柄杓 3 φ62×φ53×h360 個人
 211 竹茶杓 銘 笛の音 (茶杓) w10×φ180 個人
 (共筒) w26×φ215
 212 茶筌 6 φ60×h112 個人
 213 溜塗竹茶器 φ65×h75 個人
 214 竹蓋置 2 φ55×h55 個人
 215 眞葛焼蓋置 銘 竹 φ56×h48 三溪園保勝会
 216 底取 w90×h225 個人
 217 籠炭斗 2 φ285×h118 個人
 218 虫籠花入 φ143×h210 個人
 219 竹一重切花入 φ95×h263 個人
 220 歌花入掛 w80×h1080 個人
 221 煤竹萩風炉先屏風 w93×h430 個人
 222 黒竹垂撥 w110×h1344 個人
 223 肥桶 2 φ350×h880 神奈川県立歴史博物館
 224 ● 笛籠 φ592×h840 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 225 竹脛巾 2 w150×d9×φ200 国立民族学博物館
 226 竹兜 φ290×h190 富士竹類植物園
 227 竹製ランドセル w210×d105×h280 八王子市郷土資料館
 228 竹槍 φ32×φ1960 相模原市立博物館
 229 ジョウロ w470×d180 八王子市郷土資料館
 230 ステギ w30×φ150 国立民族学博物館
 231 木の実鉄砲 2 φ32×φ565 神奈川県立歴史博物館
 232 石鉄砲 φ29×φ665×h145 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 233 竹鉄砲 φ38×φ890×h236 神奈川県立歴史博物館
 234 機関銃 φ31×φ765 神奈川県立歴史博物館
 235 水鉄砲 φ30×φ463 神奈川県立歴史博物館
 236 水鉄砲 φ30×φ523 神奈川県立歴史博物館
 237 竹トンボ (滞空競技用) w105×d25×h150 富士竹類植物園
 (飛距離競技用) w93×d24×h145
 (高度競技用) w85×d28×h140
 238 竹トンボ w126×h190 神奈川県立歴史博物館
 239 竹馬 φ30×h1410 埼玉県立歴史と民俗の博物館
 240 竹馬 φ43×d200×h1270 国立民族学博物館
 241 竹スキー w73×φ1080 国立民族学博物館
 242 櫓 w380×φ945×h100 神奈川県立歴史博物館
 243 短檠 w174×d184×h548 川崎市市民ミュージアム
 244 燭台 φ198×h630 川崎市市民ミュージアム
 245 自在燭台 w215×d208×h690 川崎市市民ミュージアム
 246 燭台 φ98×h215 川崎市市民ミュージアム
 247 台ランプ w156×d153×h805 川崎市市民ミュージアム
 248 台ランプ φ178×h733 川崎市市民ミュージアム
 249 豆ランプ φ84×h185 川崎市市民ミュージアム
 250 卓上ランプ φ67×h337 川崎市市民ミュージアム
 251 手提提灯 φ74×h305 川崎市市民ミュージアム
 252 掛行灯 w368×h347 川崎市市民ミュージアム

253 傘提灯 φ564×h355 川崎市市民ミュージアム
 254 籠行灯 φ203×h561 川崎市市民ミュージアム
 255 差し燭 φ28×h617 川崎市市民ミュージアム
 256 蠟燭ランタン w73×h335 川崎市市民ミュージアム
 257 自転車ランプ w90×h236 川崎市市民ミュージアム
 258 蠟燭入 w43×d30×l185 川崎市市民ミュージアム
 259 蠟燭入 w45×d24×l194 川崎市市民ミュージアム
 260 蠟燭入 w48×d24×l204 川崎市市民ミュージアム
 261 芯切 2 l110 川崎市市民ミュージアム
 262 瓦燈蒔絵 手文庫 w136×l211×h63 川崎市市民ミュージアム
 263 キンマミチの油入 φ80×h395 神奈川県立歴史博物館
 264 鑪入 φ52×h400 相模原市立博物館
 265 竹釘 8 φ3×l37 富士竹類植物園
 266 ◎ 屋根屋の針 φ34×l1387 神奈川県立歴史博物館
 267 屋根屋の針 w37×l1175 神奈川県立歴史博物館
 268 ◎ 墨芯 14 w18×l270 神奈川県立歴史博物館
 269 ◎ ツルカキノコ l507×h130 神奈川県立歴史博物館
 270 ◎ タケヘギナタ l435×h35 神奈川県立歴史博物館
 271 ◎ タケケズリナタ l400×h30 神奈川県立歴史博物館
 272 ◎ ヘラ w29×l225 神奈川県立歴史博物館
 273 ◎ クリガンナ d41×w240×l180 神奈川県立歴史博物館
 274 ◎ クリガンナ d57×l597 神奈川県立歴史博物館
 275 ◎ クリガンナ d75×l286 神奈川県立歴史博物館

276 ◎ ハサミ w103×l185 神奈川県立歴史博物館
 277 ◎ ハサミ 4 φ48×l278 神奈川県立歴史博物館
 278 ◎ 箆のヘゴヒ 2 w97×h56 神奈川県立歴史博物館
 279 ◎ 竹割器(5分割) φ164×w434×h83 神奈川県立歴史博物館
 280 ◎ 竹割器(4分割) φ141×w406×h70 神奈川県立歴史博物館
 281 ◎ ササラ w28×h121 神奈川県立歴史博物館
 282 ◎ 砥刷毛 φ36×h240 神奈川県立歴史博物館
 283 ◎ 砥石の台と砥盤 w61×l298 神奈川県立歴史博物館
 284 鈴木家住宅の棟 (パネル展示) 川崎市立日本民家園
 285 伊藤家住宅の棟 (パネル展示) 川崎市立日本民家園
 286 北村家住宅のササラバメ (パネル展示) 川崎市立日本民家園
 287 伊藤家住宅の垂木 (パネル展示) 川崎市立日本民家園
 288 作田家住宅の雨樋を固定する竹 (パネル展示) 川崎市立日本民家園
 289 岩沢家住宅のササラバメ (パネル展示) 川崎市立日本民家園
 290 伊藤家住宅の荒神様 (パネル展示) 川崎市立日本民家園
 291 北村家住宅の簀子天井 (パネル展示) 川崎市立日本民家園
 292 北村家住宅の簀子床 (パネル展示) 川崎市立日本民家園

(3) コレクション展

1階フリーゾーンにあるコレクション展示室において、常設展示では紹介しきれない館のコレクションの一部を、2〜3ヶ月ごとに展示している。観覧料無料。

ア 「修理完成記念特別公開 涅槃図」

○会 期：平成23年8月3日(水)〜8月31日(水)

○展示資料件数：12件

○出品リスト・解説配布数：1,406枚

○担 当：学芸員 梅沢 恵

○概 要：二年にわたる大規模な文化財修理でよみがえった室町時代の大きな涅槃図を初公開するとともに館蔵コレクション、当館に寄託されている寶生寺、弘明寺の所蔵品から南北朝時代の涅槃図や十六羅漢図（重要美術品）、紺紙金泥法華経など、釈迦信仰に関連する仏教美術の名品を紹介。文化財修理についても工程のパネルなどを展示した。

○学芸員による展示解説

日 時：8月21日(日) 13:30〜

講 師：学芸員 梅沢 恵

参加者：33名

○出品目録

(凡例) No.、資料名、作者名、制作年代、技法・材質、所蔵等

1 涅槃図 南北朝時代 絹本着色 神奈川県立歴史博物館
 2 涅槃図 南北朝〜室町時代 絹本着色 寶生寺

3 涅槃図 南北朝〜室町時代 絹本着色 神奈川県立歴史博物館

- 4 法華經(卷十六) 鎌倉時代 紺紙金泥 神奈川県立歴史博物館
 5 大般若經(卷三五五) 鎌倉時代 紺紙金泥 神奈川県立歴史博物館
 6 法華曼荼羅 鎌倉時代 絹本着色 寶生寺
 7 釈迦三尊像 良全筆 南北朝時代 絹本着色 神奈川県立歴史博物館

- 8 釈迦十六善神像 鎌倉時代 絹本着色 弘明寺
 9 釈迦十六善神像 室町時代 絹本着色 寶生寺
 10 釈迦十六羅漢図 南北朝時代 絹本着色 神奈川県立歴史博物館
 11 羅漢図 室町時代 絹本着色 寶生寺
 12 十六羅漢図 鎌倉時代 絹本着色 重要美術品

イ 「甦る名刀 一館蔵赤羽刀から」

○会 期：平成24年1月14日(土)～3月25日(日)

○展示資料件数：29件

○出品リスト・解説配布数：3,789枚

○担 当：主任学芸員 古川 元也

○概 要： 赤羽刀(あかばねとう)とは、終戦直後に連合軍によって接收された刀剣類の一部を指す通称である。武器である刀剣は武装解除にともなって膨大な数が接收され、その一部は東京都北区赤羽に所在した米国第8軍兵器補給廠に集められた。放置されたに等しいこれら刀剣の山から、美術的価値を有する刀は一部が旧所有者に返還されたが、その大半は所有者が判明せず国の所有となった。近年、東京国立博物館で保管されてきたこれら刀剣類は全国の公立博物館等に譲与され、各館では公開・活用を促進するため修繕(研磨等)をおこなってきた。本展では研磨の完了した作品を中心に日本刀の美しさを紹介し、あわせて刀剣を甦らせる「研磨」についても紹介した。

○コレクション展関連行事

関連講演会(無料、ただし常設展観覧券が必要)

日 時：2月11日(土・祝) 14:00～16:00

演 題：「接收刀剣赤羽刀を甦らせた刀剣研磨の技を語る」

講 師：公益財団法人日本刀文化振興協会 理事、刀剣研師 小野 博柳 氏

応募者：99名

受講者：83名

○学芸員による展示解説

・第1回

日 時：1月22日(日) 13:30～

講 師：主任学芸員 古川 元也

参加者：17名

・第2回

日 時：2月11日(日) 13:30～

講 師：主任学芸員 古川 元也

参加者：43名

・第3回

日 時：3月18日(日) 13:30～

講 師：主任学芸員 古川 元也

参加者：23名

○出品目録

(凡例) No、資料名、銘、制作年代、所蔵等

- 1 写真パネル 洛中洛外図屏風(舟木本・部分)
 2 リーフレット「赤羽刀」 平成12年 文化庁作成 個人
 3 写真パネル 米第8軍兵器補給廠(空中写真)

- 4 写真パネル 連合軍によって集積された刀剣類
 5 脇差(1676号)「相模國(以下不詳)」 室町時代中期 神奈川県立歴史博物館

- 6 薙刀(1968 号)「相州住伊勢大掾綱廣」江戸時代初期 神奈川県立歴史博物館
- 7 脇差(3280 号)「相州住康廣作」室町時代後期 神奈川県立歴史博物館
- 8 脇差(1711 号)「相州住隆廣作」室町時代後期 神奈川県立歴史博物館
- 9 研ぎの諸道具 個人
- 10 写真パネル 研ぎの構え
- 11 仕立箱 個人
- 12 写真パネル 職人尽歌合(部分)
- 13 砥石のいろいろ 個人
- 14 研ぎ見本刀 個人
- 15 写真パネル 研ぎの工程
- 16 写真パネル 東北院歌合(部分)
- 17 磨棒 個人
- 18 ナルメ台 個人

- 19 地艶と刃艶 個人
- 20 金肌拭い 個人
- 21 写真パネル 職人尽歌合(部分)
- 22 刀(4299 号)「相州住綱廣/天文二十四年丁卯二月日」室町時代後期 神奈川県立歴史博物館
- 23 刀(8004 号)「相州住綱廣」江戸時代初期 神奈川県立歴史博物館
- 24 脇差(2534 号)「廣正/慶長三年」桃山時代 神奈川県立歴史博物館
- 25 脇差(1972 号)「相州住綱家作」室町時代末期 神奈川県立歴史博物館
- 26 剣(2208 号)「相州二ノ宮大慶直胤(サカミ<刻印>)/奉納 天保二年九月吉日」江戸時代末期 神奈川県立歴史博物館
- 27 刀(3700 号) 無銘 南北朝時代 神奈川県立歴史博物館
- 28 写真パネル 松崎天神縁起(部分)
- 29 古刀銘集録 個人

(4) その他の展示

ア 特別陳列「鎌倉彫と眞葛焼」

○会 期：平成 23 年 11 月 1 日(火)～12 月 27 日(火)

○主 催：神奈川県立歴史博物館

○特別協力：鶴岡八幡宮、田邊 哲人

○展示資料件数：46 件

○入場者数：10,757 名(有料 7,336 名、無料 3,421 名)

※常設展示室を会場としたため、有料域入館者数を入場者数として記載。

○担 当：学芸員 小井川 理

○概 要：平成 23 年度より展示事業の活性化対策として新たに実施することとなった特別陳列として、かながわを代表する工芸品として当館が継続的に収集、調査研究、展示を行ってきた鎌倉彫と眞葛焼を紹介する展示を開催した。

鎌倉彫は、中世鎌倉で活躍した仏師によって始められたとされる工芸品である。中国から伝来した堆朱・堆黒などの精緻な彫漆作品から影響を受けつつ、木彫漆塗の技法で独自の美を作り上げてきた。特別陳列では、当館所蔵の鎌倉彫の中でも、室町時代から安土桃山時代にかけて制作されたと考えられる古作を集め、木彫漆塗ならではの魅力を紹介した。一方、眞葛焼は、開港後まもない横浜で、後に帝室技芸員となって明治の陶芸界を牽引することになる宮川香山によって始められたやきもので、明治時代以前から培われてきた陶磁技術を背景に、西洋文化の吸収によって新しい美を身につけ、世界でも認められる洗練されたやきものに成長した。特別陳列では、当館保管の田邊哲人コレクションを中心に、名品を紹介した。

会場は、常設展示室 3 階のテーマ 1「さがみの古代に生きた人々」のコーナーで鎌倉彫を、2 階のテーマ 4「横浜開港と近代化」のコーナーで眞葛焼の展示を行った。開催にあたっては、鶴岡八幡宮および田邊哲人氏の協力を得た。

○学芸員による展示解説

・第 1 回

日 時：11 月 23 日(水・祝) 15:30～

講 師：主任学芸員 古川 元也(鎌倉彫)、学芸員 小井川 理(眞葛焼)

参加者：55 名

・第 2 回

日 時：12 月 11 日(日) 13:30～

講 師：主任学芸員 古川 元也（鎌倉彫）、学芸員 小井川 理（眞葛焼）

参加者：61 名

○出品目録

（凡例） No.、資料、作品名、制作年代、技法・材質、所蔵等

- | | |
|--|---|
| 1 鎌倉彫鳳凰牡丹文六角卓 江戸時代 神奈川県立歴史博物館 | 田邊哲人 |
| 2 鎌倉彫牡丹文香合 江戸時代 神奈川県立歴史博物館 | 28 高浮彫桜二群鳩花瓶 初代宮川香山 明治時代前期 田邊哲人 |
| 3 鎌倉彫牡丹文香合 江戸時代 神奈川県立歴史博物館 | 29 高浮彫風神雷神花瓶 初代宮川香山 明治時代前期 田邊哲人 |
| 4 鎌倉彫七宝繫文筆管 江戸時代 神奈川県立歴史博物館 | 30 高取釉渡蟹水盤 初代宮川香山 明治時代前期 田邊哲人 |
| 5 鎌倉彫残滓入 江戸時代 神奈川県立歴史博物館 | 31 青磁釉向獅子香炉 初代宮川香山 明治時代後期～大正時代 個人 |
| 6 堆朱鳳凰牡丹文香合 中国・明時代 神奈川県立歴史博物館 | 32 黄釉青竹二群雀文香炉 二代宮川香山 明治時代後期～大正時代 神奈川県立歴史博物館 |
| 7 堆朱花鳥文食籠 中国・明時代 神奈川県立歴史博物館 | 33 緑釉菊花文香炉 二代宮川香山 明治時代後期～大正時代 神奈川県立歴史博物館 |
| 8 堆朱屈輪文香合 中国・明時代 神奈川県立歴史博物館 | 34 色絵金銀彩琵琶袋形香合 二代宮川香山 大正 6 年（1917） 神奈川県立歴史博物館 |
| 9 鎌倉彫屈輪文香合 室町～桃山時代 神奈川県立歴史博物館 | 35 仁清意孔雀形香炉 二代宮川香山 大正時代 神奈川県立歴史博物館 |
| 10 鎌倉彫屈輪文香合 室町～桃山時代 神奈川県立歴史博物館 | 36 仁清意兜櫃形香炉 二代宮川香山 大正時代 神奈川県立歴史博物館 |
| 11 鎌倉彫椿文笈（県指定重要文化財） 室町時代 神奈川県立歴史博物館 | 37 色絵兎香合 二代宮川香山 大正時代 神奈川県立歴史博物館 |
| 12 鎌倉彫阿弥陀位牌図鉦架支板 室町～桃山時代 神奈川県立歴史博物館 | 38 古伊賀意伽藍香合 二代宮川香山 大正時代～昭和時代 神奈川県立歴史博物館 |
| 13 鎌倉彫阿弥陀三尊図鉦架支板 室町～桃山時代 神奈川県立歴史博物館 | 39 乾山意黒釉手捻老松之図茶碗 二代宮川香山 昭和時代 神奈川県立歴史博物館 |
| 14 鎌倉彫獅子形香合 室町～桃山時代 神奈川県立歴史博物館 | 40 高浮彫大鷲雀捕獲花瓶 初代宮川香山 明治時代前期 田邊哲人 |
| 15 鎌倉彫獅子文香合 室町～桃山時代 神奈川県立歴史博物館 | 41 高浮彫桜二群鳩花瓶 初代宮川香山 明治時代前期 田邊哲人 |
| 16 鎌倉彫七宝繫文燭台 江戸時代 神奈川県立歴史博物館 | 42 色嵌釉紫陽花花瓶 初代宮川香山 明治時代後期 田邊哲人 |
| 17 鎌倉彫牡丹文大香合 室町時代 神奈川県立歴史博物館 | 43 釉下彩緑釉藤図大花瓶 初代宮川香山 明治時代後期 田邊哲人 |
| 18 鎌倉彫葡萄文台子 室町～桃山時代 神奈川県立歴史博物館 | 44 上絵金彩山水図カップアンドソーサー 初代宮川香山 明治時代前期 田邊哲人 |
| 19 鎌倉彫桐文高卓 室町～桃山時代 神奈川県立歴史博物館 | 45 上絵金彩扇面散図カップアンドソーサー 初代宮川香山 明治時代前期 田邊哲人 |
| 20 鎌倉彫菊唐草文袈裟箱 江戸時代 神奈川県立歴史博物館 | 46 上絵金彩京都四季図大花瓶 初代宮川香山 明治時代前期 田邊哲人 |
| 21 鎌倉彫獅子牡丹文卓 江戸時代 神奈川県立歴史博物館 | |
| 22 鎌倉彫牡丹文獅子形墨壺（県指定重要文化財） 室町～桃山時代 鶴岡八幡宮 | |
| 23 高浮彫牡丹二眠猫覚醒蓋付水指 初代宮川香山 明治時代前期 田邊哲人 | |
| 24 高浮彫南天二鶉花瓶 初代宮川香山 明治時代前期 田邊哲人 | |
| 25 高浮彫葡萄ノ蔓二蜂ノ巣花瓶 初代宮川香山 明治時代前期 田邊哲人 | |
| 26 高浮彫鬼二白竜驚香炉 初代宮川香山 明治時代前期 田邊哲人 | |
| 27 高浮彫金彩孔雀大花瓶 初代宮川香山 明治時代前期 | |

イ 平成23年度かながわの遺跡展 「弥生時代のかながわ ー移住者たちのムラと社会の変化ー」

○会 期：平成24年1月8日(日)～2月12日(日)

○主 催：神奈川県教育委員会(埋蔵文化財センター)、神奈川県立歴史博物館

○展示資料点数：435点

○入場者数：4,956名

○会 場：神奈川県立歴史博物館 特別展示室

○概 要： 今からおよそ2,200年前の弥生時代中期中ごろ、小田原市の低地に突如大規模な集落が出現した。本格的な稲作農耕技術を携えて近畿地方から移住してきた開拓者たちが深く係わったムラ、中里遺跡である。その後、南関東全体に本格的農耕集落が次々と出現したが、後期になると神奈川県域では遺跡数が激減する。しかし、三浦半島の先端にある三浦市赤坂遺跡は、海を通じた他地域との交流を背景に大規模な集落を維持し続けた。また、綾瀬市神崎遺跡は、遺跡数が激減した時期に、現在の愛知県東部～静岡県西部地域から訪れた入植者のムラであることがわかった。

本展では、かながわの弥生社会を切り拓いた、これら3遺跡を中心に、他地域からの人々の移住と在地の弥生社会の変化を示す遺跡や遺物を通し、弥生時代のかながわについて紹介した。

○関連行事

①かながわの遺跡展講演会(無料、ただし常設展観覧券が必要)

・第1回

日 時：1月15日(日) 14:00～16:00

演 題：「関東の弥生時代はどのように始まったか？」

講 師：明治大学文学部教授 石川 日出志 氏

応募者：176名

受講者：78名

・第2回

日 時：1月29日(日) 14:00～16:00

演 題：「神崎遺跡から学ぶ弥生時代後期」

講 師：伊勢原市教育委員会文化財課副主幹 立花 実 氏

応募者：118名

受講者：65名

②展示解説(各回14:00～15:00、講師：埋蔵文化財センター 副主幹 伊丹 徹)

・第1回：1月8日(日) 参加者：22名

・第2回：1月13日(金) 参加者：11名

・第3回：1月14日(土) 参加者：29名

・第4回：1月18日(水) 参加者：19名

・第5回：1月19日(木) 参加者：15名

・第6回：1月21日(土) 参加者：35名

・第7回：1月28日(土) 参加者：35名

○出品目録

(凡例) No、資料名、時代、所蔵等

- 1 赤坂遺跡出土品(84点) 弥生時代 明治大学博物館・赤坂遺跡調査団
- 2 池子遺跡群出土品(13点) 弥生時代 逗子市教育委員会
- 3 稲荷台地遺跡出土品(1点) 弥生時代 藤沢市教育委員会
- 4 伊場遺跡群出土品(16点) 弥生時代 浜松市博物館
- 5 海戸第一洞穴出土品(1点) 弥生時代 赤坂遺跡調査団

- 6 大裏山洞穴出土品(2点) 弥生時代 三浦市教育委員会
- 7 岡田遺跡出土品(1点) 弥生時代 寒川町教育委員会
- 8 御屋敷添遺跡出土品(3点) 弥生時代 神奈川県教育委員会
- 9 折本西原遺跡出土品(1点) 弥生時代 (公財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

- 10 河原口坊中遺跡出土品(23 点) 弥生時代 (公財)かながわ考古学財団
- 11 神崎遺跡出土品(22 点) 弥生時代 綾瀬市教育委員会
- 12 倉見才戸遺跡出土品(79 点) 弥生時代 寒川町教育委員会
- 13 小船森遺跡出土品(1 点) 弥生時代 小田原市教育委員会
- 14 三殿台遺跡出土品(4 点) 弥生時代 横浜市三殿台考古館
- 15 三ノ宮・前畑遺跡出土品(10 点) 弥生時代 伊勢原市教育委員会
- 16 砂田台遺跡出土品(33 点) 弥生時代 神奈川県教育委員会
- 17 高田遺跡出土品(9 点) 弥生時代 寒川町教育委員会
- 18 中里遺跡出土品(44 点) 弥生時代 (株)玉川文化財研究所
- 19 中野桜野遺跡出土品(13 点) 弥生時代 神奈川県教育委員会

- 20 子ノ神遺跡出土品(12 点) 弥生時代 厚木市教育委員会
- 21 ひる畑遺跡出土品(1 点) 弥生時代 神奈川県立歴史博物館
- 22 藤林遺跡出土品(1 点) 弥生時代 横浜市歴史博物館
- 23 本郷遺跡出土品(15 点) 弥生時代 海老名市教育委員会
- 24 間口洞穴出土品(3 点) 弥生時代 神奈川県立歴史博物館
- 25 上村遺跡出土品(2 点) 弥生時代 神奈川県教育委員会
- 26 宮の里遺跡出土品(19 点) 弥生時代 厚木市教育委員会
- 27 宮山遺跡出土品(1 点) 弥生時代 寒川町教育委員会
- 28 矢頭遺跡出土品(8 点) 弥生時代 神奈川県教育委員会
- 29 矢ノ津坂遺跡出土品(7 点) 弥生時代 神奈川県教育委員会
- 30 山神下遺跡出土品(2 点) 弥生時代 小田原市教育委員会
- 31 下寺尾西方A遺跡出土品(5 点) 弥生時代 神奈川県教育委員会

ウ フリーゾーン等における「馬車道を描く日曜画家展 歴代金賞作品」展示

○概要： 昭和 55(1980)年から始められ 32 回目となった「馬車道を描く日曜画家展」の歴代金賞受賞作品を、当館フリーゾーン等に展示した。なお、当館角田学芸員が審査員の一人として協力した。

○会 期：平成 23 年 10 月 29 日(土)～11 月 6 日(日)

○会 場：神奈川県立歴史博物館 フリーゾーン廊下、会議室

○共 催：馬車道商店街協同組合

○展示場所及び点数：合計 30 点

馬車道側廊下(3 ヶ所・9 点)、会議室(21 点)

エ フリーゾーンにおけるパネル展示

(ア) 「写真で見る馬車道の歴史」

○概要： 馬車道。本町 4 丁目の交差点から吉田橋までのわずか 500 メートルほどの通りであるが、歌謡曲でも歌われたヨコハマを代表する道路のひとつである。幕末横浜開港とともに生まれ、港と市街地を結ぶ往来として発展し、明治 4(1871)年の地図には「馬車道」の名前が記されている。

輸出入の品々を運んだ荷馬車や外国人などが乗った馬車が通行していたことから「馬車道」とよばれ、多くの人たちが往来し、さまざまな商店が建ち並ぶ一方、貿易商社や金融機関が軒を並べる通りでもあった。馬車道 150 年の歩みを写真パネルで紹介した。

○会 期：平成 23 年 3 月 30 日(水)～12 月 27 日(火)

○会 場：神奈川県立歴史博物館 フリーゾーン 廊下

○展示資料点数：11 点

○出品目録(いずれも写真パネル)

(凡例) No. 名称(作者) 時代 所蔵・写真提供者

- 1 横浜一覽之真景色(部分) 橋本玉蘭斎(五雲亭)貞秀 明治 4 年(1871) 所蔵 神奈川県立歴史博物館
- 2 横浜吉田橋通繁盛之図 国輝 山本兵吉版 明治 3 年(1871) 所蔵 神奈川県立歴史博物館
- 3 (絵葉書)横浜正金銀行 明治末 所蔵 神奈川県立歴史博物館

- 4 (絵葉書)明治時代の馬車道 明治末 所蔵 神奈川県立歴史博物館
- 5 (絵葉書)横浜震災実況 横浜正金銀行付近の惨状 大正 12 年(1923) 所蔵 神奈川県立歴史博物館
- 6 空襲で焼け野原になった馬車道 昭和 20 年(1945) 写真提供 アメリカ国立公文書館

- 7 オート三輪が走る馬車道 昭和 35 年(1960) 写真提供 神奈川新聞社
- 8 東宝会館(現リッチモンドホテル) 昭和 34 年(1959) 写真提供 神奈川新聞社
- 9 国際仮装行列の仮面ライダー 昭和 48 年(1973) 写真提供 神奈川新聞社

- 10 馬車道まつりパレード 昭和 51 年(1976) 写真提供 馬車道商店街協同組合
- 11 馬車道で歌うピンクレディー 昭和 52 年(1977) 写真提供 馬車道商店街協同組合

(イ) 「描かれたペリー来航」

○概要： 神奈川の歴史のみならず、日本史上近代の始まりを告げる事件としてひろく知られているペリー来航。そのペリー艦隊の動向やペリーをはじめとした人々は日本人絵師により描かれ、今日まで数多く遺されている。平成 24 年 7 月に開催の特別展「ペリーの顔・貌・カオー『黒船』の使者の虚像と実像」の開催告知も兼ね、当館で所蔵する絵巻から、代表的な場面を選んでペリー来航時の様子を紹介した。

○会 期：平成 24 年 1 月 5 日(木)～

○会 場：神奈川県立歴史博物館 フリーゾーン 廊下

○展示資料点数：8 点

○出品目録(いずれも写真パネル)

(凡例) No. 場面名称、資料名、制作年代 ※いずれも当館所蔵

- 1 右からペリー提督、副将アダマス、漢語・日本語通訳ウィリアムス、オランダ語通訳ポートマン 黒船絵巻 江戸時代末期
- 2 現在の神奈川県庁付近に設けられた応接所前に整列した米国兵士 黒船絵巻 江戸時代末期
- 3 嘉永 7(1854)年正月 17 日に、夏島(現在の横浜市金沢区)付近を航行するペリー艦隊 亜墨利加船渡来横浜之真図 江戸時代末期
- 4 ペリー艦隊は艦内で食用として牛や羊などを飼育しながら日本へ来航した 黒船来航絵巻 江戸時代末期

- 5 黒人に扮した米兵が米国南部の民謡などを演奏して幕府の役人をもてなした 黒船絵巻 江戸時代末期
- 6 第 2 回来航時の旗艦だった蒸気軍艦ポーハタン号 黒船絵巻 江戸時代末期
- 7 将軍へ贈られた蒸気機関車は実物の 4 分の一の大きさだった 亜墨利加船渡来横浜之真図 江戸時代末期
- 8 将軍へ贈られたモールス伝信機は浜辺に送電線を敷設して実際に通信実験が行われた 亜墨利加船渡来横浜之真図 江戸時代末期

(5) 学習支援事業

県民の学習ニーズに応えるべく学習の機会を提供し、博物館で行われる講座・講演会や各種行事などへの参加を通して、神奈川の歴史・文化や文化財についての知識関心を深めることを目的として実施した(一部再掲)。

ア 講座

県民に展示内容や文化財への興味関心を持ってもらい、より深い理解を図るため、県博講座をはじめとした次の講座を実施した。

- (ア) 県博セミナー(生涯学習課主管の県立機関活用講座、5回連続、有料〈5,000円、全回申込者を優先するが定員に達しない場合は各回毎に単独受講可能。単独受講の場合は1,000円〉、14:00～16:00)

○テーマ:「かながわアートシーン」(応募者46名)

○概要:特別展「チャールズ・ワーグマン来日150周年記念 ワーグマンが見た海 一洋の東西を結んだ画家」にちなむ連続講座。ワーグマンにはじまるとも言える近代日本美術史の流れを、特に神奈川県域での動向を中心にして、美術各分野から紹介した。

○内容

- ・第1回 7月2日(土)(受講者8名)

「かながわの彫刻 ー横須賀の彫刻さんぽー」横須賀美術館 学芸員 杓沢 耕介 氏

- ・第2回 7月9日(土)(受講者13名)

「かながわの洋画 ー真鶴と中川一政ー」真鶴町立中川一政美術館 主任学芸員 新井 人志 氏

- ・第3回 7月16日(土)(受講者13名)

「神奈川の日本画 ー湘南地域を中心にー」平塚市美術館 主任学芸員 勝山 滋 氏

- ・第4回 7月23日(土)(受講者24名)

「かながわの美術のはじまり ーワーグマンとその時代ー」世田谷美術館 館長 酒井 忠康 氏

- ・第5回 7月30日(土)(受講者14名)

「版画でたどる横浜の美術」横浜美術館 特任研究員 猿渡 紀代子 氏

- (イ) 県博講座(当館の学芸員等による連続講座、無料、ただし 特別展観覧券が必要、14:00～16:00)

○テーマ:「竹と民具」(応募者46名)

○概要:特別展「竹と民具 ー竹とともに暮らすー」にちなむ連続講座。

○内容

- ・第1回 9月18日(土)(受講者32名)

「竹と民具」当館専門員 長田 平

- ・第2回 10月9日(土)(受講者30名)

「竹と農耕」相模原市立博物館 学芸員 加藤 隆志 氏

- ・第3回 10月16日(土)(受講者28名)

「竹と漁撈」大磯郷土資料館 館長 佐川 和裕 氏

- ・第4回 10月23日(土)(受講者30名)

「竹と信仰」当館専門員 鈴木 通大

- (ウ) 博物館入門講座(無料、ただし 常設展観覧券が必要)(応募者127名・受講者64名)

○概要:普段見ることのできない、博物館の様々な活動や学芸員の仕事について紹介するとともに、当館の展示についても学ぶ。なお、当館のボランティア募集に際しては、当講座を受講済であることを応募の条件としている。

○内容(全2日間)

- ①1月21日(土) 10:00～15:30

当館の概要・博物館活動と学芸員の仕事・館内見学

- ②1月28日(土) 10:00～15:30

「学芸員の目」(1)(2)・ワークショップ「学芸員の目を学ぶ」・「学芸員の技」

(エ) 関東戦国史講座（県民向け連続講座、無料、ただし 常設展観覧券が必要、14:00～16:00）

○テーマ：「戦国大名北条氏と周辺大名ー今川、武田、上杉、徳川、豊臣からみた関東の戦国史ー」
（応募者 418 名）

○概 要：北条氏の盛衰の過程を周辺大名との外交に着目し、いわば外側からの視点を交え関東の戦国時代を考察した。

○内 容

・第1回 2月5日(日) (受講者 82 名)

「戦国大名北条氏の領国支配と外交について」企画普及課長 鳥居 和郎

・第2回 2月12日(日) (受講者 84 名)

「駿河今川氏と北条氏」駒澤大学 教授 久保田 昌希 氏

・第3回 2月19日(日) (受講者 82 名)

「戦国大名北条氏と武田氏の外交」早稲田大学 非常勤講師 柴辻 俊六 氏

・第4回 2月26日(日) (受講者 78 名)

「越後上杉氏と北条氏ー「関東」をめぐる外交と戦争ー」新潟市歴史博物館 学芸員 長谷川 伸 氏

・第5回 3月4日(日) (受講者 67 名)

「豊臣政権と北条氏」三重大学 教授 藤田 達生 氏

イ 特別展記念講演会等行事(特別展のテーマに沿った内容の講演会等の実施。無料、ただし(ア)③を除き特別展観覧券〈(エ)、(オ)は常設展観覧券〉が必要)

(ア) 特別展「曹洞宗大本山總持寺 名宝 100 選」関連講演会等

①記念講演会Ⅰ(応募者 67 名・受講者 56 名)

日 時：4月23日(土) 14:00～16:00

演 題：「總持寺の歴史ー中世を中心としてー」

講 師：神奈川県文化財協会 会長 納富 常天 氏

②記念講演会Ⅱ(応募者 59 名、受講者 58 名)

日 時：5月7日(土) 14:00～16:00

演 題：「三橋鎌岳作鎌倉彫前机修理報告」

講 師：鶴見大学 教授 加藤 寛 氏

③記念行事「大本山總持寺山内めぐり」(応募者 86 名、受講者 55 名)

日 時：4月22日(金) 14:00～16:00

見学先：大本山總持寺

講 師：大本山總持寺 寺僧及び大本山總持寺宝物殿 学芸員

(イ) 特別展「ワグマンが見た海ー洋の東西を結んだ画家ー」関連講演会等

①記念講演会(応募者 84 名・受講者 62 名)

日 時：6月19日(日) 14:00～16:00

演 題：「イギリスから見た日本風景ーワグマンからコンドルへー」

講 師：ロンドン芸術大学 教授 渡辺 俊夫 氏

②港ヨコハマ・ツアー

・第1回 馬車道コース(応募者 42 名、参加者 32 名)

日 時：6月12日(日) 16:00～17:00

内 容：当館→吉田橋(学芸員による解説を聞きながら展覧会にまつわる史跡を巡る)

講 師：学芸員 角田 拓朗

・第2回 港コース(応募者 44 名、参加者 29 名)

日 時：7月18日(月・祝) 16:00～17:00

内 容：当館→象の鼻パーク(学芸員による解説を聞きながら展覧会にまつわる史跡を巡る)

講 師：学芸員 角田 拓朗

③子ども向け港ヨコハマ・ツアー(応募者 12 名、参加者 10 名)

日 時：6 月 26 日(日) 16:00～17:00

内 容：展覧会のキャラクターである「パンチの守」の扮装をした学芸員が出題するクイズを解きながら展覧会にまつわる史跡を巡る)

講 師：学芸員 角田 拓朗

(ウ) 特別展「竹と民具 ―竹とともに暮らす―」関連行事

①記念講演会(応募者 104 名・受講者 68 名)

日 時：9 月 11 日(日) 14:00～16:00

演 題：「竹の文化からみた日本列島の文化」

講 師：鹿児島県歴史資料センター黎明館 前学芸課長 川野 利昭 氏

②子ども向けワークショップ「竹で遊ぼう」(応募者 17 名・参加者 17 名)

日 時：10 月 2 日(日) 14:00～16:00

内 容：竹とんぼと竹鉄砲の製作

講 師：竹細工師 柳田 喜代松 氏

(エ) その他の展示「平成 23 年度かながわの遺跡展 弥生時代のかながわ ―移住者たちのムラと社会の変化―」遺跡展講演会

・第 1 回(応募者 176 名・受講者 78 名)

日 時：1 月 15 日(日) 14:00～16:00

演 題：「関東の弥生時代はどのように始まったか？」

講 師：明治大学文学部 教授 石川 日出志 氏

・第 2 回(応募者 118 名・受講者 65 名)

日 時：1 月 29 日(日) 14:00～16:00

演 題：「神崎遺跡から学ぶ弥生時代後期」

講 師：伊勢原市教育委員会文化財課 副主幹 立花 実 氏

(オ) コレクション展「甦る名刀 ―館蔵赤羽刀から―」関連講演会(応募者 99 名・参加者 83 名)

日 時：2 月 11 日(土・祝) 14:00～16:00

演 題：「接收刀剣赤羽刀を甦らせた刀剣研磨の技を語る」

講 師：公益財団法人日本刀文化振興協会 理事 刀剣研師 小野 博柳 氏

ウ 学芸員による展示解説(特別展・コレクション展・特別陳列等の担当学芸員による展示解説、時間は別記のない場合は 13:30～14:30、自由参加)

①特別展「曹洞宗大本山總持寺名宝 100 選」

・4 月 24 日(日)：担当 学芸部長 薄井 和男、参加者 108 名

・5 月 1 日(日)：担当 大本山總持寺宝物殿 学芸員 遠藤 ゆかり 氏、参加者 50 名

・5 月 8 日(日)：担当 学芸員 小井川 理、参加者 62 名

・5 月 15 日(日)：担当 大本山總持寺宝物殿 学芸員 内藤 沙織 氏、参加者 98 名

②特別展「ワーグマンが見た海 ―洋の東西を結んだ画家―」

・6 月 12 日(日)：担当 学芸員 角田 拓朗、参加者 47 名

・6 月 26 日(日)：担当 学芸員 角田 拓朗、参加者 33 名

・7 月 10 日(日)：担当 学芸員 角田 拓朗、参加者 32 名

・7 月 16 日(土)：担当 学芸員 角田 拓朗、参加者 11 名

・7 月 17 日(日)：担当 学芸員 角田 拓朗、参加者 32 名

・7 月 18 日(月・祝)：担当 学芸員 角田 拓朗、参加者 24 名

・7 月 23 日(土)：担当 学芸員 角田 拓朗、参加者 24 名

・7 月 24 日(日)：担当 学芸員 角田 拓朗、参加者 90 名

・7 月 30 日(土)：担当 学芸員 角田 拓朗、参加者 84 名

・7 月 31 日(日)：担当 学芸員 角田 拓朗、参加者 105 名

③コレクション展「修理完成記念特別公開 涅槃図」

・8月21日(日)：担当 学芸員 梅沢 恵、参加者 33 名

④特別展「竹と民具 ー竹とともに暮らすー」

・9月18日(日) 担当：専門員 長田 平、参加者 28 名

・10月9日(日) 担当：専門員 鈴木 通大、参加者 53 名

・10月23日(日) 担当：専門員 鈴木 通大、参加者 25 名

・10月30日(日) 担当：専門員 長田 平、参加者 12 名

⑤特別陳列「鎌倉彫と眞葛焼」

・11月23日(水・祝)15:30～16:30 担当：主任学芸員 古川 元也、学芸員 小井川 理、参加者 55 名

・12月11日(日) 担当：主任学芸員 古川 元也、学芸員 小井川 理、参加者 61 名

⑥その他の展示「平成 23 年度かながわの遺跡展 弥生時代のかながわ ー移住者たちのムラと社会の変化ー」14:00～15:00

・1月8日(日) 担当：埋蔵文化財センター 副主幹 伊丹 徹、参加者 22 名

・1月13日(金) 担当：埋蔵文化財センター 副主幹 伊丹 徹、参加者 11 名

・1月14日(土) 担当：埋蔵文化財センター 副主幹 伊丹 徹、参加者 29 名

・1月18日(水) 担当：埋蔵文化財センター 副主幹 伊丹 徹、参加者 19 名

・1月19日(木) 担当：埋蔵文化財センター 副主幹 伊丹 徹、参加者 15 名

・1月21日(土) 担当：埋蔵文化財センター 副主幹 伊丹 徹、参加者 35 名

・1月28日(土) 担当：埋蔵文化財センター 副主幹 伊丹 徹、参加者 35 名

⑦コレクション展「甦る名刀 ー館蔵赤羽刀からー」

・1月22日(日) 担当：主任学芸員 古川 元也、参加者 17 名

・2月11日(土・祝)13:00～14:00 担当：主任学芸員 古川 元也、参加者 43 名

・3月18日(日) 担当：主任学芸員 古川 元也、参加者 23 名

エ ミュージアムトーク(常設展示室で展示資料を解説、自由参加)

日 時：12月4日(日) 13:30～14:30

テーマ：「ハニワは語る」

担 当：学芸部 副主幹(考古担当) 近野 正幸

参加者：21 名

オ その他の行事(無料、ただし常設展観覧券が必要)

(ア) 旧横浜正金銀行本店本館建物公開

○概 要：国の重要文化財、史跡に指定されている当館建物について、通常は見ることのできない地下金庫扉や屋上ドームの公開を行った。

①日 時：5月4日(水・祝) 第1回 10:30～12:00、第2回 14:00～15:30

講 師：主任学芸員 丹治 雄一

応募者：34 名

参加者：第1回 14 名、第2回 20 名

②日 時：8月28日(日) 第1回 10:30～12:00、第2回 14:00～15:30

講 師：主任学芸員 丹治 雄一、非常勤学芸員 高橋 秀和

応募者：541 名

参加者：第1回 49 名、第2回 52 名

③日 時：10月16日(日) 10:30～15:30 (当館建物を見学した後、同一設計者 妻木頼黄の手になる東京の日本橋も見学した。)

講 師：主任学芸員 丹治 雄一

応募者：84 名

参加者：20 名

④日 時：10月23日(日) 第1回 10:00～11:30、第2回 13:00～14:30、第3回 15:00～16:30 (②の応募者が多数だったため、落選者の中から希望者を募り開催したもの)

講 師：主任学芸員 丹治 雄一、非常勤学芸員 高橋 秀和

応募者：138名

参加者：第1回 36名、第2回 28名、第3回 42名

- ⑤日 時：3月3日(土) 第1回 9:50～10:30、第2回 11:00～11:40、第3回 13:10～13:50、第4回 14:20～15:00 (年間を通じて建物公開への応募者が多く落選者が多数出たため、年間予定とは別に追加開催したもの)

講 師：主任学芸員 丹治 雄一

応募者：100名

参加者：第1回 23名、第2回 24名、第3回 18名、第4回 24名

(イ) ミュージアムコンサート

a 浦賀ウインドオーケストラによる吹奏楽演奏

日 時：6月4日(土) 14:00～15:00

内 容：①特別展「ワグマンが見た海 ー洋の東西を結んだ画家ー」に関連したイギリス音楽、
②大河ドラマ音楽、③「がんばろう日本」の3部構成での吹奏楽演奏

演奏者：浦賀ウインドオーケストラ

会 場：当館講堂

応募者：73名

参加者：56名

b 子どものためのミュージアムコンサート

日 時：8月6日(土) 10:30～11:30

内 容：童謡やスタジオジブリの曲など親子で楽しめる内容の演奏会

演奏者：「AkiShino」(オカリナ・フルート 石渡 晃子 氏、シンセサイザー 荻込 志乃 氏)

会 場：当館講堂

応募者：75名

参加者：56名

c 「クラシック・ヨコハマ 2011 ミュージアムコンサート in 神奈川県立歴史博物館」

日 時：11月23日(水・祝) 14:00～15:00

内 容：古楽器で奏でるバロック時代のトリオ・ソナタⅡ (チェンバロ等の復元楽器を使ったクラシック音楽演奏)

演奏者：慶應義塾コレギウム・ムジクム古楽アカデミー、全体指揮・チェンバロ 慶應義塾大学
教授 石井 明 氏

会 場：当館講堂

応募者：146名

参加者：68名

カ 子ども・青少年向け教育普及事業

(ア) ミュージアムクイズ(自由参加)

内 容：常設展展示資料から出題したクイズシートを配布。

開催日：毎週土・日、祝日

参加者：454名

担 当：非常勤学芸員 佐藤 裕子、非常勤学芸員 高橋 秀和、非常勤学芸員 泉山 花江

(イ) 博物館で遊ぼう!!2011 (自由参加)

内 容：子どもの日にちなんだ行事。常設展展示資料から出題したクイズを解きながら、展示室を回る。回り終えた者には景品あり。

開催日：5月3日(火・祝)～5月5日(木・祝)

参加者：389名

担 当：非常勤学芸員 佐藤 裕子

(ウ) ミュージアム・クイズラリー よこはま 2011

内 容： 夏休み期間に、近隣の博物館施設と共同で開催するクイズラリー。当館主催で参加館との連絡会を作り実施。参加者はクイズを解きながら各館を回り、クイズノートに館ごとのスタンプを押してもらい、スタンプ数に応じた賞品あり。

平成 23 年度は、「昭和 30 年代を探しに」をメインテーマに設定した。

また、関連行事として、学芸員の同行のもとで 15 館のうち数館を回り、各館で説明を聞きながらクイズを解き、途中で周辺の歴史ある建物や史跡についての説明を聞く「ミュージアム・ツアー」を 3 コース実施した。

開催期間：7 月 16 日(土)～8 月 31 日(水)

参加館園：合計 15 館

横浜みなと博物館・JICA 横浜 海外移住資料館・日本郵船歴史博物館・横浜税関資料展示室・横浜開港資料館・シルク博物館・日本新聞博物館・放送ライブラリー・横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館・横浜人形の家・岩崎ミュージアム・大佛次郎記念館・神奈川県立神奈川近代文学館

参加者：全体 4,926 名(自由参加)

関連行事：ミュージアム・ツアー (3 コース)

① 山手・山下コース

8 月 12 日(金) 14:40～17:30 (応募者 9 人、参加者 6 人)

② みなとみらい・馬車道コース

8 月 18 日(木) 10:00～12:00 (応募者 8 人、参加者 4 人)

③ 日本大通りコース

8 月 24 日(水) 10:00～12:00 (応募者 12 人、参加者 9 人)

担 当：非常勤学芸員 高橋 秀和

(エ) 子ども博物館教室

名 称：「土器」を作ろう！(全 3 日間)

概 要： 「子ども博物館教室」は、子どもたちに当館の存在を知らせるとともに、体験型行事を通して、楽しみながら学習し、博物館に興味を持ってもらうことを目的に、毎年、夏休み期間中に開催している学習支援事業の一つである。

『土器』を作ろう！と題し、講師の指導のもとで土器の製作を体験することで、縄文土器や弥生土器についての知識をはじめ、当時の生活や歴史について興味を持ってもらうことを企図した。

内 容：① 7 月 17 日(日) 9:30～16:30

縄文土器や弥生土器の概要や当時の生活などについて解説の後、土器の製作にあたった。

② 7 月 18 日(月・祝) 9:30～16:30

製作した土器の成形を行い、完成させた。

③ 8 月 27 日(土) 9:30～12:00

完成した土器を返却し、焼成の様子などを説明した。

※焼成は小田原市郷土文化館の協力により 8 月 6 日(土)に実施した。

参加者：応募者 28 名、受講者 16 名

講 師：小田原市郷土文化館 学芸員 岡 潔 氏、当館学芸部 副主幹(考古担当) 近野 正幸(解説)

担 当：非常勤学芸員 佐藤 裕子、非常勤学芸員 高橋 秀和

キ 学校連携事業の状況

(ア) 展示見学学習等、小中高等学校及び特別支援学校の当館利用状況

	県 内									
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		県内合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月	3	329	0	0	7	451	0	0	10	780
5月	2	210	17	821	7	166	0	0	26	1,197
6月	2	228	30	1014	1	10	0	0	33	1,252
7月	3	332	1	10	4	123	0	0	8	465
8月	0	0	1	13	0	0	0	0	1	13
9月	2	100	2	168	1	10	0	0	5	278
10月	19	1,475	2	10	7	440	0	0	28	1,925
11月	6	361	6	220	1	41	0	0	13	622
12月	4	335	4	150	0	0	1	10	9	495
1月	2	129	4	96	1	12	0	0	7	237
2月	3	165	8	180	1	97	0	0	12	442
3月	2	112	5	104	1	7	0	0	8	223
合計	48	3,776	80	2,786	31	1,357	1	10	160	7,929

	県 外									
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		県外合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月	0	0	4	193	5	260	0	0	9	453
5月	2	130	17	317	20	826	0	0	39	1,273
6月	3	86	12	214	3	61	0	0	18	361
7月	0	0	8	182	0	0	0	0	8	182
8月	0	0	2	29	1	13	0	0	3	42
9月	0	0	23	667	1	240	0	0	24	907
10月	6	74	4	87	1	31	0	0	11	192
11月	0	0	10	331	2	398	0	0	12	729
12月	0	0	4	102	2	42	0	0	6	144
1月	0	0	2	11	0	0	0	0	2	11
2月	0	0	24	617	1	50	0	0	25	667
3月	1	63	8	103	0	0	0	0	9	166
合計	12	353	118	2,853	36	1,921	0	0	166	5,127

	平成 23 年度総計		平成 22 年度総計		平成 21 年度総計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月	19	1,233	50	1,443	53	1,276
5月	65	2,470	93	3,009	123	3,238
6月	51	1,613	41	1,283	60	2,987
7月	16	647	13	541	28	1,191
8月	4	55	0	0	1	162
9月	29	1,185	13	735	47	2,710
10月	39	2,117	39	1,784	42	1,784
11月	25	1,351	27	1,447	26	1,232
12月	15	639	24	1,417	16	542
1月	9	248	15	715	19	872
2月	37	1,109	41	1,714	46	1,657
3月	17	389	9	417	19	527
合計	326	13,056	365	14,505	480	18,178

(イ) 当館の利用目的

(単位：校数)

	利用目的	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
県内	社会科(歴史学習)	24(58.5%)	3(9.7%)	9(42.8%)	1(100%)	37(39.4%)
	総合的な学習の時間	12(29.3%)	18(58.0%)	6(28.6%)	0(0%)	36(38.3%)
	学校行事(遠足、社会見学等)	5(12.2%)	10(32.3%)	6(28.6%)	0(0%)	21(22.3%)
県外	社会科(歴史学習)	2(22.2%)	2(7.1%)	1(6.7%)	—	5(9.6%)
	総合的な学習の時間	0(0%)	15(53.6%)	2(13.3%)	—	17(32.7%)
	学校行事(遠足、社会見学等)	7(77.8%)	11(39.3%)	12(80.0%)	—	30(57.7%)

※事前連絡校による統計

(ウ) 学校の博物館利用の状況

(単位：校数)

校種	事前準備			歴博活用			利用形態			付帯施設利用			利用目的		
	下 見 来 館	電 話 打 合	資 料 提 供	課 題 持 参	ボ ラ 活 用	特 別 依 頼	全 員 一 斉	グ ル ー プ	個 人	駐 車 場	講 堂	そ の 他	歴 史 学 習	総 合 学 習	社 会 見 学 等
小学校	30	43	48	43	15	0	30	20	0	7	20	0	26	12	12
中学校	29	73	36	25	14	2	2	57	0	1	2	6	5	33	21
高等学校	20	43	27	18	15	3	11	22	3	1	2	2	10	8	18
特別支援学校	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0
合計	79	160	111	86	45	5	44	99	3	9	24	9	42	53	51

※事前連絡校による統計

※課題持参＝学校がワークシートなどを用意して見学。質問などにボランティアが対応。

※ボラ活用＝ボランティアによる展示解説や質問への対応要請が事前にあったもの。

※特別依頼＝学芸員による館の概要説明や建物の解説など。

※付帯施設利用＝展示室等の一般利用施設以外に、駐車場(バス等)や講堂等の利用があったもの。

(エ) 見学学習(社会科の歴史学習、総合的な学習の時間等)への対応状況

a 見学に際し当館の概要などを説明

小学校 1 校、中学校 2 校、高等学校 2 校、大学 4 校

b 見学に際し、学習を支援していくためのワークシート(素材)を提供

小学校 38 校、中学校 30 校、高等学校 14 校

c 解説ボランティアが展示資料を解説

小学校 15 校、中学校 14 校、高等学校 15 校、特別支援学校 1 校

(オ) 社会科の歴史学習、総合的な学習の時間(調べ学習)への対応状況

上記(エ)の見学学習において、特定テーマの解説などの求めに対応したもの。

(単位：校数)

依頼テーマ	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
テーマ2 都市鎌倉と中世びと	6	4	8	0
テーマ4 横浜開港と近代化	4	8	5	0
テーマ5 現代の神奈川と伝統文化	3	0	0	0
全般 テーマ1～5	2	2	2	1
その他(含む専門解説)	0	2	3	0

(カ) インターンシップ(就業体験・職場訪問等)への対応状況

目的： インターンシップは、生徒が学校に在学している期間中に、「勤労体験」「職業体験」活動を通じて、生徒が自主的に望ましい勤労観、職業観及び職業に関する知識や技術に触れ自己の個性を理解して、進路選択ができる能力及び態度を身につけることを目的とする。

当館のインターンシップは、簡略化した講座と見学を中心とした職場訪問的なものと、複数日にわたり、博物館という職場の役割や学芸員の仕事について紹介し、また、実際に資料を扱うことで、博物館の仕事をより具体的に知ることを目的とする就業体験的なものがある。

対応状況：

a 就業体験的なもの(複数日にわたり博物館の業務・学芸員の仕事についての概要説明、施設の見学、就業体験等を実施)

○ 県立旭高校、県立横浜桜陽高校、県立大船高校、鶴見大学附属高校(合計4名)

・日時：8月23日(火)～26日(金) 9:30～17:00

・内容：8月23日(火)：ガイダンス、学校でのワークシート活用促進業務

24日(水)：考古関係資料整理等の補助

25日(木)：美術関係資料整理等の補助、ボランティアの展示解説業務

26日(金)：レファレンス補助業務、子ども博物館教室「土器を作ろう！」開催準備

b 職場訪問的なもの(博物館の業務・学芸員の仕事についての概要説明を行い、施設見学を実施。2～3時間程度)

○ 5月24日(火) 横須賀市立浦賀中学校 2年 21名

○ 7月14日(木) 県立大磯高校 1年 13名

○ 12月8日(木) 公文国際学園中等部 2年 40名

(キ) 『歴史博物館の展示(常設)目録ー学習指導要領・教科書との対照表ー』の更新

学校連携検討会議等での検討を受けて作成した『歴史博物館の展示(常設)目録ー学習指導要領・教科書との対照表ー』(当館の常設展示資料と学習指導要領、教科書の主な単元項目が対照でき、さらに学芸員が適宜見学のポイントを記したもの)について、平成17年度で小・中・高等学校の3種類の校種別目録が揃った。平成23年度からの小学校を初めとして中学校、高等学校と順次予定されている新学習指導要領の全面実施に向けて、今後随時改訂を検討。なお、この資料を基に、学校独自のワークシート作りを行なう学校が増えてきている。

(ク) 『常設展示品キャプション』の更新

学校連携検討会議等での検討を受けて作成した『常設展示品キャプション』について、展示替えなどによる情報の更新を適宜行った。

(ケ) ワークシートの作成と更新

学校の見学学習の参考として活用するために作成した『ワークシート』について、実際の活用場面の調査をするとともに、広く現場の教員からも意見を聞くなどして内容の改訂を行っている。

(コ) 教員向け研修会の実施

a 「教員のための博物館講座」の開催

日時：8月3日(水) 9:50～17:00

受講者：34名

概要：「学校連携の現状と課題」、「授業に活かすワークシート」について講義、「資料の読み取り方を学ぶ」について講義とワークショップ、常設展見学「ワークシートを体験しながら」

b 初任者研修社会体験実習の受入

日時：8月4日(木)・6日(土)・11日(木)・19日(金)・21日(日) 9:00～17:45

受講者：県立神奈川総合高校 田中 寿茂 教諭

c 5 年次研修社会体験実習の受入

日 時：8 月 4 日(木)・6 日(土)・11 日(木) 9:00～17:45

受講者：県立平塚ろう学校 鷲頭 宏絵 教諭

(サ) ホームページ上で「こどものページ」の公開

児童・保護者や学校関係者に親しみを感じてもらうことで館の利用促進を図るため、ホームページ上に小学生・中学生向けの「こどものページ」を設け、当館で見学学習を行なった小・中学生から作文や絵画などを募り、公開している。

掲出期間	学校名	内容
23 年 5 月 19 日～6 月 21 日	逗子市立逗子小学校 6 年	作文 12 名
23 年 6 月 21 日～7 月 20 日	横須賀市立浦賀中学校 2 年	作文 19 名
23 年 7 月 1 日～7 月 31 日	相模原市立中沢中学校 2 年	作文 7 名 絵画 7 名
23 年 11 月 15 日～2 月 29 日	浜松市立豊岡小学校 6 年	作文 4 名
23 年 11 月 18 日～2 月 29 日	横浜市立港南台第二小学校 6 年	作文 5 名
24 年 3 月 1 日～4 月 30 日	JICA 日本語学校生徒研修第 2 陣	作文 35 名
	相模女子大学附属小学部 6 年	絵画(新聞) 4 名

(6) ミュージアムライブラリー

県民の学習活動を支援する場として、1 階フリーゾーンにミュージアムライブラリーを設置している。図書、映像、情報システムなどがあり、展示を中心とした神奈川の歴史や文化について学ぶことができる。

職員が 1 名以上常駐し、質問等を受け付けるなど、生涯学習の場として広く利用されるように運営している(図書、映像、情報システムの内容についてはそれぞれの項目に記載)。平成 23 年度の利用者総数は 8,089 名、フリーゾーンを含めた入館者に対する比率は 5.7%である。

ア 閲覧用座席数：14 席、映像ブース：3 ヶ所 7 名分、来館者用情報システム端末：3 台

イ 利用者数

(単位:人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年度計
小学生	8	50	23	41	41	5	39	19	30	36	17	29	338
中学生	2	303	82	39	33	28	1	33	51	7	25	46	650
高校生	25	1	0	22	33	5	17	4	0	1	4	4	116
大学生	3	14	0	4	33	6	16	4	3	2	6	12	103
一般成人	423	557	363	562	370	327	321	290	243	284	520	356	4,616
65 歳以上	164	221	190	318	185	166	178	163	120	171	190	181	2,247
その他	0	0	0	1	1	0	0	2	3	10	2	0	19
合計	625	1,146	658	987	696	537	572	515	450	511	764	628	8,089
開館日数	26	26	26	28	26	25	27	25	23	22	23	27	304
1 日平均	24.0	44.1	25.3	35.3	26.8	21.5	21.2	20.6	19.6	23.2	33.2	23.3	26.6

ウ 利用形態

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年度計
映像利用	9	8	6	15	7	2	6	4	3	7	6	6	79
情報システム	19	79	50	73	56	15	38	36	37	34	69	61	567
図 書	319	583	378	426	338	292	294	253	202	260	311	272	3,928
コピー・サービス	(件数)	36	63	32	51	47	32	32	35	23	28	40	452
	(枚数)	314	614	355	495	312	379	313	215	177	309	439	4,265

(7) 普及印刷物

ア 図録

「ワグマンが見た海 一洋の東西を結んだ画家」 平成 23 年 6 月 10 日
「竹と民具 一竹とともに暮らす」 平成 23 年 9 月 10 日

イ 広報印刷物

「ワグマンが見た海 一洋の東西を結んだ画家」 ポスター・チラシ
「鎌倉彫と眞葛焼」 チラシ
「竹と民具 一竹とともに暮らす」 ポスター・チラシ
「これからの展示(2011 年 11 月～2012 年)」 平成 23 年 10 月発行
「KENPAKU 2012」 平成 24 年 1 月発行
「これからの催しもの(2012 年 4 月～2013 年 3 月)」 平成 24 年 2 月発行

ウ 神奈川県立歴史博物館だより

『神奈川県立歴史博物館だより』 VOL. 17 No.1 通巻 187 号 平成 23 年 5 月 24 日(2,000 部)
『神奈川県立歴史博物館だより』 VOL. 17 No.2 通巻 188 号 平成 23 年 8 月 10 日(2,000 部)
『神奈川県立歴史博物館だより』 VOL. 17 No.3 通巻 189 号 平成 23 年 12 月 28 日(2,000 部)

(8) ボランティアの活動

平成 9 年度から登録を行った博物館ボランティアは、平成 22 年度中の入門講座及び面接の結果、新たに 28 名の登録を行い、登録更新者 71 名を含めて 99 名となった。その内訳は、展示解説ボランティアが 90 名、情報処理ボランティアが 1 名(展示解説との兼任)、行事補助ボランティアが 9 名である。

また平成 14 年度から活動期間を 5 年間とし、平成 24 年 3 月 31 日での任期満了者は 20 名である。

ア 活動状況及び実績

展示解説ボランティアは、常設展展示解説のほか、特別展開催中には 1 日 2 回の定時解説(11 時、15 時)を行っている。

情報処理ボランティアは、所蔵資料のフィルムデータから電子データへの画像入力作業を行っている。

行事補助ボランティアは、子ども向け行事の指導補助をはじめ、受付や案内など、学習支援事業の補助を行なっている。

また、ボランティア会は、幹事会(各曜日ごとの班から 2 名選出)を組織し、月 1 回、館側の担当者と様々な調整や、情報の交換を行なっている。また、『ボランティアニュース』を年 3 回、編集・発行している。

(ア) 活動日数及び人数

月	活動日数(日)	活動人数(人)	累計(日)
4	26	253	253
5	26	232	485
6	26	344	829
7	28	371	1,200
8	26	302	1,502
9	25	297	1,799
10	27	308	2,107
11	25	290	2,397
12	19	220	2,617
1	22	260	2,877
2	24	284	3,161
3	27	313	3,474

(イ) 年代別・男女別人数等

年代	男	女	計
20	0	4	4
30	1	1	2
40	1	9	10
50	2	9	11
60	42	23	65
70	6	1	7
合計	52	47	99
平均年齢	63.8	54.3	59.3

(ロ) 曜日別ボランティア数(展示解説ボランティアのみ)

火曜班：16名、水曜班：14名、木曜班：15名、金曜班：16名、土曜班：16名、日曜班：14名

(エ) 情報処理ボランティア

土曜班：1名(兼務)

(オ) 行事補助ボランティア

9名

(カ) 画像入力実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	0	38	45	34	45	33	32	40	0	46	46	40	399

イ 博物館入門講座(応募者127名・受講者64名)(再掲)

普段見ることのできない、博物館の様々な活動や学芸員の仕事について紹介するとともに、当館の展示についても学ぶ。当講座の受講が当館ボランティア応募の条件となる。

・第1回 1月21日(土) 10:00～15:30

講義名：当館の概要・博物館活動と学芸員の仕事・館内見学

・第2回 1月28日(土) 10:00～15:30

講義名：「学芸員の目」(1)(2)・ワークショップ「学芸員の目を学ぶ」・「学芸員の技」

ウ 専門研修

展示解説に必要な当館の常設展示に関する知識や、資料の保存、教育普及活動について、その内容を知ってもらうために実施する。なお実地研修として、現役のボランティアとともに解説の演習を行なう。

日 時：平成23年4月2・9・16・23、5月7・14・21・28日(土) 10:00～15:00

エ その他の研修

(ア) 特別展研修

特別展の展示解説に資する研修として、解説に必要な図録や資料を配布するとともに、展示された資料について、担当学芸員から解説の実地研修を行なった。

(イ) フォローアップ研修

常設展示解説のフォローアップとして、個々のテーマで研修講座を実施した。

実施日	テ ー マ
7 月 31 日(日)	さがみの古代に生きた人々
8 月 14 日(日)	源頼朝と東国武士団
11 月 30 日(水)	関東大震災研究の現状について
	鎌倉彫と眞葛焼について
1 月 9 日(月・祝)	「弥生時代のかながわ」を考える入口
1 月 18 日(水)	

(9) 博物館実習生の受け入れ

「神奈川県立歴史博物館 博物館実習生受け入れ要領」に基づき、見学実習と実務実習を受け入れた。

ア 見学実習

当館の概要(歴史・施設・組織・展示や事業概要など)について説明した後、展示室、バックヤード等の見学を行なう。

○受入数 9 大学 212 名

○受入校(来館日・大学名・人数)

来館日	大学名	人数
平成 23 年 4 月 30 日	鶴見大学	76 名
平成 23 年 6 月 26 日	二松学舎大学	19 名
平成 23 年 7 月 31 日	日本女子大学	13 名
平成 23 年 9 月 8 日	宮城学院女子大学	16 名
平成 23 年 9 月 14 日	龍谷大学	15 名
平成 23 年 10 月 14 日	関東学院大学	30 名
平成 23 年 11 月 19 日	日本大学	15 名
平成 23 年 12 月 17 日	鶴見大学	8 名
平成 24 年 1 月 17 日	関東学院大学	20 名

イ 実務実習

前期 3 日間と後期 4 日間にわたって行なう。前期は企画情報部が担当し、受講者全体で博物館運営に関わる業務及び教育普及事業などについて学ぶ。後期は学芸部の各分野に分かれ、資料の取り扱いや整理の方法などについて学ぶ。

○受入数 16 大学、21 名

○受入校(大学名・受入人数)

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
関東学院大学	1 名	東京農業大学	1 名	帝京大学	2 名
日本大学	2 名	大正大学	1 名	駒澤大学	1 名
清泉女子大学	2 名	鶴見大学	2 名	桜美林大学	1 名
立教大学	1 名	和光大学	1 名	学習院大学	1 名
青山学院大学	1 名	国土舘大学	2 名		
明治学院大学	1 名	京都造形芸術大学	1 名		

(7) 実務実習(前期実習) 担当：企画情報部(全員参加、日程、内容)

a 1日目：5月27日(金) 10:00～17:00

- ・前期実習のガイダンス
- ・当館の概要について(施設の概要、当館の活動について)
- ・教育普及活動の実践①(全体説明)
- ・教育普及活動の概要(当館の教育普及事業、学校連携事業、子ども向け事業)
- ・館内見学(常設展示室)
- ・博物館と図書資料について(収集方針、所蔵資料、書庫・ミュージアムライブラリー見学)

b 2日目：5月28日(土) 10:00～17:00

- ・博物館情報システムについて
(収蔵品管理システム、デジタル・ミュージアム、セキュリティ、情報バリアフリー)
- ・博物館と写真資料について(博物館における写真とは、撮影対象について、撮影後のこと)
- ・写場、情報システム見学
- ・館内見学(バックヤード、収蔵庫周辺、設備・防災・防犯関係、屋上ドームなど)
- ・当館のボランティア活動について(沿革、現在の活動)
- ・広報活動について(博物館における広報、広報担当の役割、広報活動の現状)

c 3日目：5月29日(日) 10:00～17:00

- ・教育普及活動の実践②(ミュージアムツアーの企画、作業)
- ・教育普及活動の実践③(発表、講評)

(4) 実務実習(後期実習)〈実施日順〉 担当：学芸部(実習分野・グループ別参加者数、日程、内容)

a 近世 4名、9月13日(火)～16日(金) 10:00～17:00

- ・展示の基礎知識と技術Ⅰ(鎌倉絵図等、展示資料の調書の取り方、キャプション作製等)
- ・資料整理と保存処理の基礎知識と実務
- ・資料の特性と脱酸素処理について
- ・地方文書の整理と目録作製、史料撮影
- ・近世美術資料の取扱い(調書作製)
- ・展示の基礎知識と技術Ⅱ(キャプション・パネル作製の実際)

b 近現代 5名、10月4日(火)～7日(金) 10:00～17:00

- ・資料保存の理論と実践(保存環境の考え方と燻蒸を学ぶ)
- ・資料整理と調査(整理方法と調書の作成を学ぶ)
- ・資料保管(資料保管箱の製作を学ぶ)
- ・資料保全(資料の梱包を学ぶ)

c 民俗 4名、10月11日(火)～14日(金) 10:00～17:00

- ・民俗資料の収集法について、民俗資料の調査法について
- ・民俗資料カードの整理法について、民俗資料の整理法について
- ・民俗資料の取扱いについてⅠ・Ⅱ
- ・民俗資料の入力法について、民俗資料の調書作成法について

d 中世 9名、10月18日(火)～21日(金) 10:00～17:00

- ・歴史資料の取扱いⅠ(書跡・典籍作品の取扱い、作品の点検と調書の作成)
- ・歴史資料の取扱いⅡ(中世古文書の形態と分類、中世古文書の保存及び取扱い〈掛幅・卷子〉)
- ・美術史料の取扱いⅠ(梱包材の作成、彫刻・工芸作品の取扱い[点検・梱包])
- ・美術史料の取扱いⅡ(絵画・工芸作品の取扱い[点検・梱包]、絵画作品〈掛幅・絵巻〉の鑑賞と取扱い、絵画資料の展示と保管環境について)

- e 考古 3名、11月8日(火)～11日(金) 10:00～17:00
- ・学芸員としての業務内容
 - ・資料の取扱い(材質に応じた取扱い方と留意点、梱包用具の作成、梱包方法、調書等の作成方法)
 - ・資料の整理方法(資料の実測、分類、整理の仕方)
 - ・展示方法(テグス、展示台を使つての展示方法、キャプションの作成)
 - ・実習の反省、実習生による発表

(10) 海外技術研修員の受け入れ

神奈川県県民局くらし文化部国際課長と当館館長との間で締結した「平成23年度神奈川県海外技術研修員研修業務に関する覚書」に基づき、海外技術研修員として外国籍の学芸員を受け入れ、研修業務を行った。

ア 研修期間

平成24年1月24日(火)～2月4日(土)

イ 海外技術研修員

- (1) 氏名：メアス・ソヒアップ
- (2) 国籍：カンボジア

ウ 研修内容

日 時		研修内容	担当部署
1月24日(火)	午前	①ガイダンス ②神奈川県立歴史博物館について	企画普及課
	午後	③館内見学Ⅰ(展示室) ④館内見学Ⅱ(バックヤード) ⑤神奈川県立歴史博物館の教育普及事業について	企画普及課
1月25日(水)	午前	①教育普及事業の実例Ⅰ(一般向け行事について) ②教育普及事業の実例Ⅱ(周辺博物館との連携事業について)	企画普及課
	午後	③神奈川県立歴史博物館の広報について ④神奈川県立歴史博物館のレファレンスについて	企画普及課 情報資料課
1月26日(木)	午前	①教育普及事業の実例Ⅲ(子ども向けワークショップについて)	企画普及課
	午後	②教育普及事業の実例Ⅳ(ボランティアを利用した学習支援について) ③教育普及事業の実例Ⅴ(ワークシートを利用した学習支援について)	企画普及課
1月27日(金)	午前	①来館者の意見の収集について ②博物館と写真資料について	企画普及課 情報資料課
	午後	③学校連携事業について ④博物館情報システムについて	企画普及課 情報資料課
1月28日(土)	午前	①教育普及事業の実例Ⅵ(「博物館入門講座」2回目について)	企画普及課
	午後	②教育普及事業の実例Ⅵ(「博物館入門講座」2回目について) ③まとめ	企画普及課
1月31日(火)	終日	展示の概要と展示替	学芸部
2月1日(水)	終日	資料作品の整理保管(1)	学芸部
2月2日(木)	終日	資料作品の整理保管(2)	学芸部
2月3日(金)	終日	資料の修復	学芸部
2月4日(土)	終日	資料作品の整理保管(3)	学芸部

6 資料

(1) 条例・規則

ア 神奈川県立の博物館条例

〔昭和41年10月7日
条例第43号〕

最終改正 平成21年3月27日条例第25号

(趣旨)

第1条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 博物館法(昭和26年法律第285号)に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

名 称	位 置	目 的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通5丁目60番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田499番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第3条 博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第4条 博物館に展示している博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度定めることができる。

3 前2項の観覧料は、前納とする。

(観覧料の減免)

第5条 前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。)第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して6月をこえない範囲内で教育委員会規則で定める日から施行する。(昭和41年11月18日教育委員会規則第8号で、同41年11月21日から施行。ただし、第4条から第9条までの規定

の施行期日にあつては昭和42年3月22日とし、第10条の規定の施行期日にあつては昭和42年4月1日とする。）
(略)

附 則(平成21年3月27日条例第25号)

この条例は、平成21年7月1日から施行する。

別表(第4条関係)(抄)

区 分		個 人	20人以上の団体
神奈川県立歴史博物館	20歳以上65歳未満の者 (学生及び高校生を除く。)	1人につき 300円	1人につき 250円
	20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 200円	同 150円
	65歳以上の者	同 100円	同 100円
	高 校 生		

- 備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。
- 2 学齢に達しない者、並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

イ 神奈川県立の博物館組織規則

〔昭和41年11月18日
教育委員会規則第10号〕

最終改正 平成18年3月31日教育委員会規則第13号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第2条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第3条 管理課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 公印に関すること。
- (2) 文書の收受、発送、保存、閲覧等に関すること。
- (3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関すること。
- (4) 人事に関すること。
- (5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関すること。
- (6) 予算の経理に関すること。
- (7) 観覧料の徴収に関すること。
- (8) 物品の調達及び処分に関すること。
- (9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関すること。
- (10) その他他部課の主管に属しないこと。

第4条 削除

(企画普及課の事務)

第5条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館活動の企画及び調整に関すること。
- (2) 博物館活動の普及及び広報に関すること。
- (3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。
- (4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。

(情報資料課の事務)

第6条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの運用に関すること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。

(学芸部の事務)

第7条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
- (2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和41年11月21日から施行する。

(略)

附 則(平成18年3月31日教育委員会規則第13号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

ウ 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

〔 昭和41年11月18日
教育委員会規則第9号 〕

最終改正 平成12年12月15日教育委員会規則第25号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第2条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。

- (1) 神奈川県立の博物館条例(昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定により観覧料を定めること。
- (2) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。
- (3) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。
- (4) 条例第7条の規定により利用を承認すること。
- (5) 条例第8条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第3条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
- (3) 12月28日から翌年の1月4日まで
- (4) その他教育長が定める日

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

名 称	開 館 時 間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の交付)

第5条 教育長は、博物館に展示している博物館資料を観覧するため、条例第4条の規定により観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

(観覧料の減免申請)

第6条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第7条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第9条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。

(資料の館外貸出し)

第10条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館
- (4) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校
- (5) その他教育長が適当と認めるもの

2 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。

(館外貸出しの期間)

第11条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は、特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

2 前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3 教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であつても、当該博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした資料の利用方法)

第12条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(資料滅失等の届出)

第13条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失(損傷)届出書を教育長に提出しなければならない。

(寄託を受けた資料の利用の制限)

第14条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行なうことができない。

(委任)

第15条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和41年11月21日から施行する。ただし、第2条から第9条までの規定は、昭和42年3月22日から施行する。

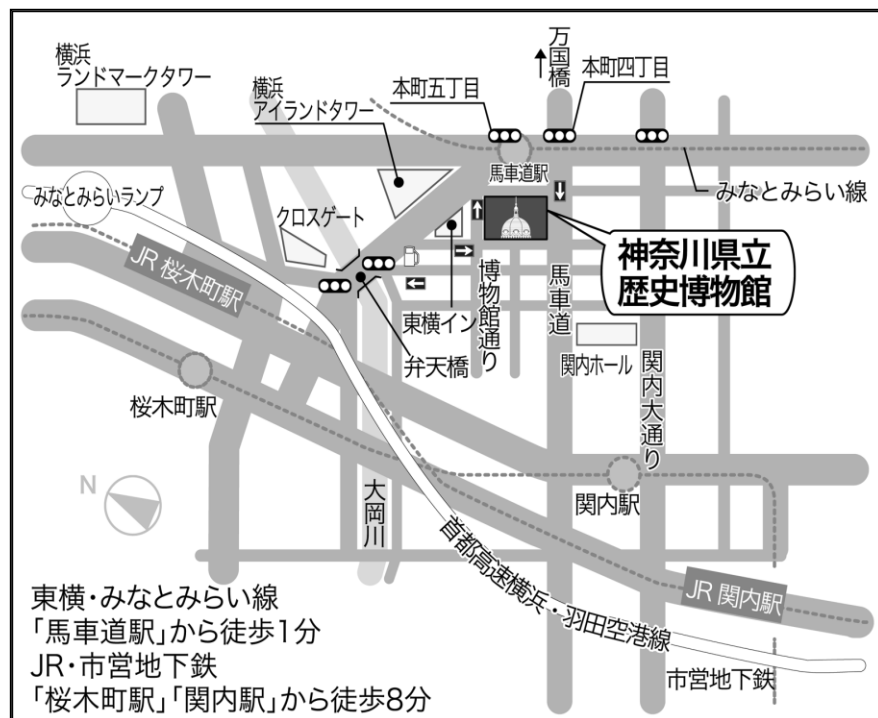
(略)

附 則(平成12年12月15日教育委員会規則第25号)

この規則は、平成13年1月6日から施行する。

(2) 利用案内

- 1 名 称 : 神奈川県立歴史博物館 (Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History)
- 2 所 在 地 : 横浜市中区南仲通 5-60 〒231-0006
- 3 電 話 : 045-201-0926(代表)
- 4 F A X : 045-201-7364
- 5 ホームページ : <http://ch.kanagawa-museum.jp/>
- 6 交 通 : 東横・みなとみらい線「馬車道」駅 5 番出口より徒歩 1 分、
JR 京浜東北・根岸線、横浜市営地下鉄ブルーライン「桜木町」駅または「関内」駅より
徒歩 8 分
- 7 休 館 日 : 月曜日(ただし、祝日の場合は開館)、資料整理休館日、年末年始
- 8 観 覧 料 : ○常設展
 - ・20 歳以上(学生を除く) : 300 円(250 円) ()内は 20 名以上の団体
 - ・20 歳未満及び学生 : 200 円(150 円)
 - ・高校生及び 65 歳以上 : 100 円(100 円)
 - ・中学生以下及び障がい者手帳をお持ちの方は無料○特別展
 - ・常設展とは別料金となり、金額は展示ごとに別途定める。○コレクション展
 - ・無料
- 9 団体見学 : 事前にご連絡ください。
- 10 地 図



神奈川県立歴史博物館年報 平成 23 年度

2013 年 3 月 28 日

編集・発行 〒231-0006

横浜市中区南仲通 5-60

神奈川県立歴史博物館

本書の無断転載を禁ず

この冊子は、再生紙を使用しています。

Kanagawa Kenritsu Rekishi Hakubutsu-kan

Nen-po

Annual Report of the Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

(2011.4~2012.3)

Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

Naka-ku, Yokohama-shi, Kanagawa, JAPAN

2012